



鏡子より新緑のイブネ北端（鈴鹿）

神原 計国

初夏の山へ！

イタリア3大登山靴ラインナップ

春山の「快適」は足元から…オススメシューズ

オ/P. F. 220GTX

¥26,000-ODBOX価格

サイズ: 22.5-28.5cm カラー: サンド、アンスラ
ベビー(22.5-25.5cmのみ)
アイブの靴形状で4Eサイズ。足に負担をかけ
ずに歩けます。軽登山から終年まで幅広く使
え、ゴアテックスを使用しているため、雨天の朝
が湿った登山道などで水の侵入を防ぎます。
GTXが最もおすすめのNEWアイテムです。



スカルパ/トラヘルGTX

定価¥22,000-ODBOX価格

サイズ: 23.5-28.0cm カラー: グレー/ブラウン
イタリア名門のトレッキングブーツ。軽量でフィッ
ト感もよく、さらに優れたゴアテックス仕様。日帰りか
ら小旅行-2泊にオススメです。



ガ尔蒙/フォーススウェード
(ODBOXオリジナル)

¥24,800

サイズ: 23.5-27.5cm カラー: ベージュ
解剖学の視点から履きやすさを追求した、ODBOXオリ
ジナルモデル。特に歩行時において足関節へのス
トレスを減らす。つま先部分はしっかりと仕上げました。
ソールは確実なグリップ力を約束するヒップラムソ
ール、ハイキング、トレッキング、シティユース等、マ
ルタに履ける1足です。

靴
このインソールは
快適シューズを
“超”快適に変える。

このインソールが

- ①靴底からの突き上げを足裏全体で受け止め、緩和してくれます。
- ②歩行の時、足のローリングをおさえ、膝、腰部の関節を守ります。
- ③足の指を自由に動かし易くなり、血行が良くなる。その結果疲労を防ぎ、障害をふせぐ働きをします。



体感して
選びたい!

OD BOX
では、足内に
応答などを体感し
て、実際に履き心地を体感
していただいています。さら
にいろいろな履き比べて踏
き心地の違いをお楽しみし
てください。快適な足元から
が合言葉です。また、その
ほか実際に履き心地を体感
していただくには、ぜひ
お気軽に試着いただけます。

スーパーフィット/カスタムフィット(成型タイプ)

お客様のご足形に合わせて作り、さらにフィット感を高めています。

LLタイプ ¥4,900 トレーニング、ウォーキング向き

HLタイプ ¥7,900 トレーニング、タニシ等

※成型の際は、お客様の中のお山形をお知らせください。成型が多
少時間がかかりますので、少し余裕を持って来店下さい。

スーパーフィット/ドリームフィット(非成型タイプ)

LL、HLタイプ ¥3,200

山を愛する女性を応援！
ODBOXレディースDAY
4月21日(水)・5月19日(水)

山を愛する女性を応援するレディース DAY、この日御来店の女性の方を対象にサービスを行います。この日、商品お買上げの場合、5%割引(一部書籍、CD、アクセサリー等除く)いたします。

新ハイキング会員

の方に特別割引

のサービスを行います。

新ハイキングの会員の方は

特別割引をいたします。

新ハイキング会員証を

代金お支払いの時、

ご提示下さい。



カレッジのアパレルショップ

遊
登
潜
衣
食
住
自然で暮らす。





元興寺・極楽坊のハルシャギク

杜若 燕子花

初夏 すっすっと花茎を出し
先端に大きな六弁の花を開く
水面に紫の影がうつる

花菖蒲

蕾をまじえた花が
びっしりと咲いている
池に映る空 たゆとう影
影を映す水面の多い方が
花の揺れる風情が生きる
波斯菊 春車菊 ハルシャギク
北アメリカからやってきた
コスモスに似た花
周りは鮮黄色 花心は濃赤褐色
歩めば玉のような音色で鳴り出す



矢田大和民俗公園のハナショウブ

Photo essay

夏浅し



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松永 恵一



寧楽・依水園のカキツバタ

季節の



ききょう草



黄ショウブ



紅ウツギ

実景

初夏

撮影 武市通治



新緑



三室戸寺



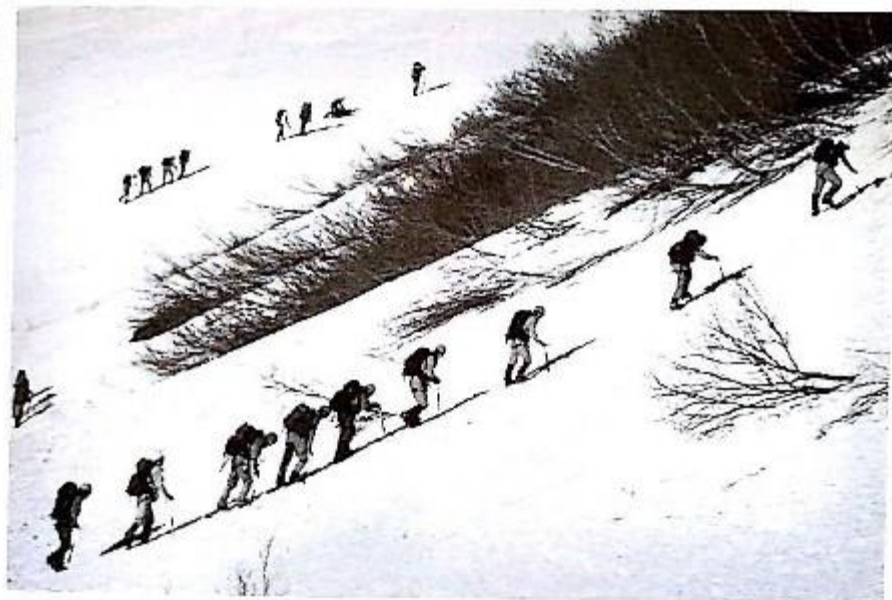
湖沢から前穂高岳を望む（北アルプス）

中川 光郎



雨のブナ林二題①（岐阜県羽黒山にて）

木村 吉秀



頂上をめざすパーティ（湖沢にて）

中川 光郎



雨のブナ林二題②（岐阜県羽黒山にて）

木村 吉秀

花の大杉谷三題

—大杉台（台高）にて—

奥田 英一郎



新刊 月刊 関西の山
1991年5・6月号 第46号

●目次

表紙：松田敏男「白山のキヌガサソウ」(白山)
●作者プロフィール：1949年、京都市生まれ、京都府立芸術大学卒。1987年より山岳新聞、山岳部の編集者。山岳新聞編集長、山岳アルプス山歩小説、東京キャリアー百選、他。京都山と花に詳しくな代表、日本山岳会会員、一等三角点研究員。

● グラビア	夏決し……………撮影 由井 収 文 松永 志一	4	2
(口絵) 新原計四 木村善秀 中川光郎 奥田英一郎	武市 通治		
● 紀行			
● 1等三角点「白山のキヌガサソウ」	松田敏男	45	
● 2等三角点「白山のキヌガサソウ」	松田敏男	46	
● 3等三角点「白山のキヌガサソウ」	松田敏男	47	
● 丹波路を歩く「清原街道」	中村 敏文	55	
● 文学歴史探訪ハイイク⑧「藤井の里から大関」	松永 恵一	58	
● コース			
① 赤谷の頂(巻頭)	奥田英一郎	62	
② 赤谷峰と伝馬子岳(奥野野)	山形 隆之	64	
③ 金剛アルプス(栗原コース)	梅田 昭彦	66	
沿線ハイキングガイド	新ハイキング計画と報告	70	
サービスステーション	バス時刻表(大母山系)	74	
せせらぎ	読後記・広巻案内	74	
		95	

●巻頭

以前、私は「平ヶ岳の頂上」を歩いた。木道で、転倒、骨折した登山者の男性から、管理責任を問われた北條郡御室町安谷村が、過失を認め百五十万円支払った」という新聞記事(新聞日報)を読んだことがあります。

近年、樹根を破壊し、登山道を整備して私たちに安全で楽しいハイキングコースを提供してくれる市町村が増えてきました。しかし、このニュースを聞くに及んで首を傾けてしまいました。

高山への登山は勿論、巨峰、飯山ハイキングなどにおいても、大自然の中はいつも危険が待ち受けています。いつどのような原因で、このようなケガをしないとも限りません。私は「山での事故は自己責任だと覚悟・自覚して出かけるのが当然であり、その責任は他に転嫁できないもの」と考えていたからです。

道標がなく地形図を読み違えて道に迷った。また無路で滑ったり転んだりすることは、ペタランでもよくあることです。それを道標のせいにして、登山道のせいにするのはどうでしょうか。自然の厳しさを認識し、自己の責任で山を歩きたいものです。

新ハイキング計画(代表者) 村田 昭彦



山と温泉

チョン サムスン

中高年になって初めて山歩き
の仲間に入れてもらった私は、
高度な技を磨いたり、タイムを
競ったりトップを狙ったりする
野心は持ち合わせず、ひたすら
自然を愛で景観を楽しみ、健康
を願って歩いてきた。そして今
一番はまっているのが登山後の
温泉である。元々温泉は大好き
なほうだが、何もしないで入る
のと、歩いた後に入るのには大
きな違いがある。

夏の登山では噴き出す汗で髪
も濡れ、ほてった頬はまるで塩
皿のようにザラつき、長時間の
急降下で足の指先は痛む。冬は
冬で切れるような冷たい風雪に
耳、頬、手足が凍り、身も縮む
思いがする。
それでも山に登りたい！

そのような苦しみやつらさを
差し引いても余りある満足感や
喜びが山にはあるから……この
充実感に、より一層スパイスを
きかせてくれるのが温泉だと私
は考える。

汗にまみれた身体、冷えた身
体、疲れた身体を温泉で温め洗
い流す。重い登山靴の中で踏こ
まっていた足指を思いきり湯船
に広げてやると、ビリビリと喜
びの音が聞こえそうである。身
も心も軽くなった爽快感たるや、
まるで自分が新しく生まれ変わっ
たような気持ちになれるのであ
る。

「チョンさん、温泉があるよ！」
と山仲間が誘う。私は喜んで行
く。2月初旬、夜勤明けと二日
続く連休に有給休暇を一日とっ
て安達太良山へ向かった。

寒波のため電車が遅れ、休日
初日の朝、奥岳温泉登山口より
雪のなかを4時間もかかってやっ
と「くろがね小屋」に到着した。

朝食と休憩の後、待望の温泉に
入った。

冬の翌日なので泊まり客は私
たち二人だけ、風呂は一人ずつ
の貸切りである。寒い脱衣場か
ら湯気の立ちのぼる湯殿に入ると、
硫黄を含んだ乳白色の源泉
がとくとくと流れ出ている。湯
船に身を沈めると沈殿していた
肩の花がサッと舞い上がり、湯
の色を一層濃くした。

私はすっかりこの温泉が気に入
ってしまい、何度も出たり入っ
たりした。湯あたりしないよう
にと窓を開ける。すると、白銀
の屋根が屏風のように立ちほだ
かり、冷たくて心地よい風にとっ
て降り込んでくる雪が頬をなで
る。飽きることを知らず、夕食
前と後に計4時間以上も入って
しまったが、翌朝は頂上をめざ
すのでさすがの私も朝風呂は控
えた。

名物の強風が雪を舞い上げて
吹きすさぶ朝、大雪様の急登を



随想 (山のニッセイ)

克

経て牛の背を通り、安達太良山
頂上を踏んだ。空は真。青に晰
れ、強風もおさまりツソのよう
におだやかにあった。

気をよくした私たちは次の日、
磐梯山にも登ろうと誓って「押
立温泉」で一泊した。しかし夜
間雪が降り、翌日も四合目から
上はぶ厚い雪雲におおわれてい
た。安達太良山とは比べられな
い程ピラミッドな磐梯山の山容
を見てきっぱりと登山を諦めた
が、温泉だけはしつかり入った。
帰路、諏訪インターの温泉に入
ってみると、窓も開かず湯は
熱めでとてもゆつたりした気分
にはなれなかった。

いつの日かもう一度「くろが
ね温泉」に一週間ぐらいい滞りし
て、整平あたりを散策したり湯
に浸かったりして遊んでみたい。
レンゲツツジやサラサドウ
ダンの咲く頃か、山が紅葉に染
まる頃がいいかも知れないと思っ
ている。

「逆さ観音」について

柴田 昭彦

滋賀県の鷺ヶ山や金剛アルプ
スのコースガイドや石仏めぐり
で「逆さ観音」はよく紹介され
ている。その石仏が逆さまになっ
た原因については地盤沈下と巨石
説がある。その真相を調べてみ
よう。

JR草津駅より「桐生行き」の
バスに乗り、終点で降りる。東
へ進んでオランダ橋を過ぎ、
一丈野野宮場への分岐を左に
見送って橋を渡ってすぐ左手に
石碑がある。瀬田史跡会によっ
て昭和五十九年十一月に建てら
れたもので、東約百メートル「さか
さ観音」があることを示してい
る(写真にはもう少し近いようだ)。
足元の悪い道をたどると沢を横
断してすぐ左手に三尊石仏もある
花崗岩の巨石が目に入る。そ

の上面に頭部をやや下に傾けて、
三尊仏が浮彫りされている。俗
称にいう観音のみではなく、如
來坐像の両脇に菩薩(尊)・
勢至(尊)を刻んだ阿彌陀三尊像
仏で、そのひきしまった作風か
ら鎌倉時代の造立と考えられて
いる。

清水俊明「近江の石仏」(創元
社、昭和五十一年)によれば逆さ
観音は、「昔は丘の上の尾根道
ぞいに建てていたものだが、地
震の時に転倒してころび、逆さ
になってしまったとのことであ
る」と説明されている。清水氏
によると、この地盤沈下は川端菊
夫氏(故人)から聞いたものだ
とのことである。川端氏は清水
氏の主宰する奈良石仏会の会員
で大津市在住であった。「近江
の教育」に近江の石仏を紹介し、
また、清水氏を各地に案内され
たという。

鈴木元・網本雄雄「ベスト・
ハイク 京滋の山」(かもがわ山



克



克

随想 (山のエッセイ)

坂、1990年)には、「地震で転倒したためです」とある。内田善弘『京都遊覧指南の山(ナカニシヤ出版、1992年)には、「もともと足を下にして山側に安置されていたのであるが地震によって谷間へ倒れてしまったといわれる」とある。

瀬川秋一『近江 石のほとけたち』(かもがわ出版、1994年)には、「地震か何かで転倒して山肌止まった巨岩」とある。以上のように、最近までは地震説がよく普通に紹介されていた。

ところが、大阪管林局大津管林署発行のパンフレット『国右林 治山の森 ふれあいマップ』(平成5年発行、有料)には、次のような解説が掲載されるに至った。

「聖二聖程の岩の表面に弥陀座像と両脇に観音、勢至立像を浮き彫りにした鎌倉時代の作です。この岩はダム用の石を採掘した際背後が削りとられ、逆さに倒れたもので現在もそのままにされています。元の姿にもどそうとする意見もありましたが、このままの方が仏像にかなうとして、「逆さ観音」と呼ばれ、地元の人から敬われています。」

この説は注目されたようであり、友保深雪編著『京阪神ベストハイク&キャンパス80』(全書出版、1995年)と『関西ハイキングガイド』(創元社、1996年)に紹介されている。

「ふれあいマップ」の解説はさも真実を語っているように読める。実際、ガイドを読んだ人は信用してしまいそうである。ところが、筆者がパンフレットの逆さ観音に関する記述の出典を大津管林署に問い合わせたところ、「マップの記載内容は地元の伝承を古老から聞き取ったもので、基になった出典物はないものと思われます」とのこと

とであった。どうもはっきりしないので、もう少し他の文献も調べてみよう。

『新訂近江國地志略全』(弘文堂書店、昭和五十一年)の改訂校註者として知られる郷土史家、宇野健一氏による「近江のさかし行 東海道」(ハチライズ印刷、平成元年)には「石仏は聖二聖程の表面に弥陀座像と両脇に観音、勢至立像を浮き彫りした鎌倉時代の作で、この岩は石工がハッパをかけた時くずれ落ちたものだと聞かされたが、恐らく山崩れでここに江り落ちたものだろう」とある。宇野氏はこの時、羽生町の彫師坂屋造で無形文化財保存者の成子佐一郎さん(仮名)に案内してもらったということである。

宇野氏の文は「ふれあいマップ」の解説とよく似ている。たぶん、解説の執筆者が参考にしたものであろう。そして、宇野氏が古老の伝承にもかかわらず、

むしろ自然災害である山崩れでの転倒を想定していることは興味深い。

このように、逆さ観音のできた原因はあいまいなのであるが、筆者は江戸期の奇石愛好家、木内石亭『雲根志』(後編)(安永八年、1778)巻之四・鐫刻類四の、次のような記述に引きつけられた(『近江要本郡志』巻三、第五編山嶽志、「中川善弘著作集」第五巻、日本古典全集『雲根志』第50)。

「観音石 宝暦六年九月廿六日江州辺俄に山崩れ水出で山中谷々の人家悉く流れ人も移しく死せり。此時草津梨の東なる桐生谷妙閑寺といふ一村過半流れ失ぬ。此後の山より水出たり。是を見るに山の半腹削れて半は壁の如く残り。其壁の如きものは石なり。此石面に観音の像あり。考見るに土中五丈許下にあり。いつのころ何もの彫刻せるにや許ならず。」

逆さ観音のある場所はまさに桐生谷であって、壁のような石に刻まれていることも一致している。「観音石」が逆さ観音のことであるならば、倒れた原因は1758年の水害の時の山崩れであろうと考えられる。

もちろん、転倒という現象が一回のみであったかどうか不明であり、地震や採石の影響がまったくなかったと否定することもできないであろう。伝承者が勝手に故人となった現在では、真偽の確認は困難といわざるを得ない。

以上のことから、逆さ観音の転倒した原因については、「江戸中期の水害時の山崩れによるもの」と思われるが、古老の伝承では、地震説とダムの採石説がある」ということになる。

コースガイドを書く場合には、他のガイド記事を参考にすることも多いが、単なる引き写しは許されず、内容をしっかりと吟味

味することが必要であろう。

ひと寄りのコバ

筒井 克治

「ひと寄りのコバ」、聞いたことないデ。それもそのはず、ごく最近名付けた地なのだから、分からないのも当然なのだ。

大付け後は近江の赤道氏、「すばらしいコースがありますヨ、ブッシュも無く高木雑木の樹林の広がりは……」と聞かされた。

それ行けばはかり折れたのはもちろんのこと。P967頁からP1014頁は地形と地形といふ林相といい、すばらしい空間の広がりがあった。七人山と対にあるピークは若い頃に朝明を根城にしてこの界隈をはっつき歩いたピークで、たしか三人山と言っていた所。



随想 (山のエッセイ)

雨乞岳から派生する尾根は四方八方に延びている。その中の一つ永源寺町と土山町との境界にある沢谷峠から御在所岳への尾根は、国境の主峰の眺めもよくて気持ちのよいコースだ。山人さん(山人會・辻原一氏)から鈴鹿の山放浪の紀行文をもらった。「いいなイナのコバ」はあの山城であることがすぐに伝わってきた。コバでのしとねは山の霊気と樹林の情景にすっほりと包まれていたことだろう。

冷え込みのあった朝、忘年会山行の下見に出かけた。武平峠の駐車場にレッドベツカーを駐めて準備をしていると、弄道さんに出会う。目的地は同じだとのことで同行することとなる。すぐ近くの尾根に取りついて伐採跡の尾根にのる。沢谷峠からの見晴らしは、鎌尾根に食い込む谷と尾根がよく分かる。「山人山」のカールは高木維

木の立ち並ぶ素晴らしい所だ。こらでテコッパとひと取りしたくなる。落ち葉のカーベットに小枝のスタレを避すやわらかく暖かな日差し、そよ風もない別天地だ。「いいなイナのコバ」とはびったしの名称だと思っ

古い神道をなうと炭焼き窯敷そして広い台地に響く、シロモジの株を立たせた裸の林が広がる。林床は枯れ葉が薄く散らばり、鹿のフンがやたらに目立つのだ。どこに座ろうにもフンを踏むのだ、昼寝敷を確保するのにウロウロする。たきぎを網漕するにもよい所で「シカファンたきぎ広場」なんて名前はどうでしょうか。

浅い谷を廻って次の舌状の台地では樹相が変わる。短いササの床で緑の色は目にやさしい。ブナの大木がバランスよくそここにある。やっぱりブナの大木はいいなア。

七人山と山人山の雑木林の眺め、木の間縫しには鎌ヶ岳の輪郭が途切れ途切れに透かして見えるけれど、見えそうで見えないもどかしさも何となく嬉しい。それとすぐ横の若い谷には水が湧き出ているし、バランスのよいこの場の名前を何としようか。

緑の葉の繁った夏に、乳白色のガスに包まれたこの地を訪れたことがある。谷の水はサラサラとやさしくささやき、高みへ上がるブナの水陰に湛つたる深みを感じたのを思いだす。あの時の想いを込めて「ジェラシーひと寄りの広場」と名付け、駄文を書いている。

三人山は「山人山」、その彼にあるのは「イナイいなのコバ」、次の舌状台地は「シカファンたきぎ広場」、そしてバランスのよいこの地は「ジェラシーひと寄りの広場」と名付け、駄文を書いている。

バイケイソウが咲き乱れる

釈迦ヶ岳西南稜を行く

大峰

奥田英一郎

4月に伍友と二人で、かねて歩いてみたいと思っていた釈迦ヶ岳の西南稜を歩いてきた。旭ノ川の林道が切れる小広い台地に車を置いて、不動小原谷源流になる流れのすぐ近くにテントを張る。まだ明るかったので、用意した焼酎を車内に持ち込んで、CDを聴きながら真紅の太陽が紫紺の山並みのかなたに、刻々と沈んでゆくのを眺めた。

その折、西南稜にはまだ残雪があった。雪融けのあとには、押えられていた草地のあちこちにフキノトウのような芽が一面に出ていた。これがバイケイソウの芽だと分かった時、開花期にもう一度来ようと思っ

その年、夏休みに入ってすぐの休日だった。五条駅近くのスーパーで食料を買い、一路旭ノ川源流に向かう。五条と新宮を結ぶ国道は車が多かったが、旭橋から旭ノ川の林道に入ると、車は全く通らなくなった。役場の人が言っていたように、二、三日前の大雨にもかかわらず、大峰の溪谷の水は全く濁っていない。緑豊かな山肌と深い溪谷に見えながら、源流近くの登山口へ向かう。冷たい水の落ちてくる音が、さほどはクレーン張った。

Nは傘を持ってすぐ釣りに出かけたが、1時間ばかりして、全く当たりがないと空振り帰ってきた。春からずっと大峰の谷のあちこちに入漢しているが、林道

釈迦ヶ岳西南稜をゆく。古田の森村にて

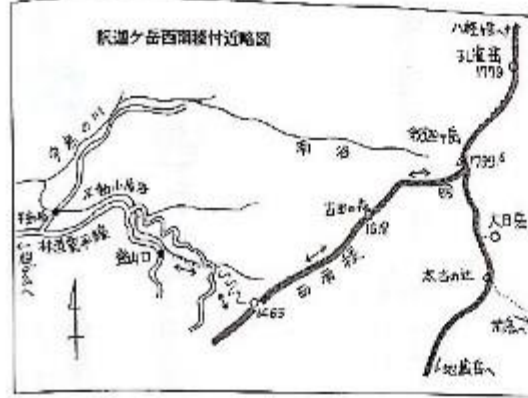


が通じている所はみな駄目だと言う。ししゃもでも買ってくるんだったかなあと、言いながらも、ピールの空缶はどんどん増えてゆく。

タープは風通しがよく、開放的なところがよかった。夏はこれに限ると思う。夜中に目を覚ますと明るかった。この夜は一年に一度、海のサンゴが産卵するという満月だったようだ。

遊馴、けたたましい野鳥のさえずりで目を覚ます。森の一角に群れて騒いでいた。時折、切り裂くようにけたたましく啼くのはホトトギスだった。

簡単な朝食をとって出発する。西南後からのびている支線に取りつくまでに二つばかりの山抜けを横切る。1時間ばかりで、クマザサが生い繁る道に出た。



ブナの疎林のなかにメタセコイヤがあって、樹の足跡が乱れていた。大峰主峰の大日岳の鋭峰が真正面に見える所でひと息入れて、果物を食べる。朝露の光る葉やかまのなかでおいしかった。

西南後は小ザサにおおわれた小広い台地状の尾根である。薄望のバイケイソウは咲き乱れていた。が、少し盛りを過ぎているのか、花弁が褐色になってきているのが目につく。湧りのないクリーム色の花を見るなら6月末から7月上旬がいいようだ。しかし、行く先々で次から次へと群落が現れる。小さなアップダウンを繰り返す稜線で、かん高いドラミングが聞こえてくる。朽ちた樹の幹のあちこちにまだ新しいキツツキの突ついた穴が見られた。

ブナ林の横間を過して大峰主峰がワイドに広がると、行く真正面に主峰の釈迦ヶ岳が望まれた。大きく波打つ西南後のほるか前方にひととき高く見えた。バイケイソウは繁々と茂る古田の森のあたりが特に多かった。白い花群のなかを行くのはカランソウ気分だった。可憐な花弁に触れてみると、幼児のやわらかな頬を撫でているような気がした。苔がきれいで、

まわりが自然公園かと思われる所で、カマコウが啼いた。カレシは出番を心得ているのだろうか。

ゆるい登りが続いて、あとひと息で山頂という所に、「シツカカのかくし水」があった。釈迦ヶ岳の中腹から湧き出ている水場である。年中涸れることがないという。絶好の露管地である。ひと休みしてグレイプフルーツを食べた。汗を流した後のフルーツも水も甘かった。

前鬼からの道を合すると、頂上はずいだった。釈迦ヶ岳(1799・6m)山頂に立つと、豁然と展望が開ける。真ッ先きに先年登った七面山を探す。高さ400mほどあると言われる南壁は、大きな山抜けの跡のようだった。主線線に目を移すと、孔雀ヶ岳がすぐ眼下にそびえている。続いて八生山、さらに北へ、ゆるい起伏のあと、近畿最高峰の八経ヶ岳が鈍い茶褐色の山のなかに鎮座していた。東から西には綱縋と重なる南記の山々が天空の下に聳たわっていた。

名峰にはどこからともなく人が集まってくる。単独行(二人)、四人パーティで、20人、30人という集団ではない。

単独行の青年は十津川高校の先生だった。釈迦ヶ岳に登るために希望して転動して来たとか。数えたことはないが20回以上は登っているらしい。昔かない山を数えてほしいと言うと、ここが一年を通していると言った。

「3、4月の芽吹き時の残雪縦走。5月末から6月はシタクナゲ。7月にはシロヤシロ。8月末から9月はトリカブト。やがて錦織の秋、晩秋の落ち葉道、そして、白い世界へ……」この山もいろいろも知れませんが、釈迦ヶ岳は特に好きです」と言っていた。植物に詳しい先生のようにだった。

4月に来た時はバイケイソウの芽が一面に出ている。それに1月の霜雪期にもお釈迦様にお会いしている。あれは何年前のことだったろう。あの時は、眉にも



バイケイソウ

口元にも肉い光背にもぎっしりとエビの尻尾がこびりついていて、お釈迦様は豪華なアクセサリーを付けておられた。あの頃は前鬼のゴローさんも元気で、二夜お世話になった。

早朝、登山小屋を売って来たというパーティのなかに見覚えのあるN氏がいた。一別以来の奇遇を喜ぶ。お互いに、そろそろ年だから、と労をねぎらいながら、前鬼口と旭ノ川口へと分かれる。

夏の暑い日、お釈迦様は賑やかなひとときを楽しまれたのだろうか。間もなく、山頂は元の静寂をとり戻すことだろう。出会いと別離と、そして、回想の山頂を後にして、行きとはまた違う景色を楽しみながら、満ち足りた心で登山口へとくだる。(平成8年7月歩く)

△参考コースタイム▽
登山口6・30〜西南後7・30〜45〜古田ノ森8・30〜かくし水8・50〜9・10
釈迦ヶ岳9・25〜10・15〜古田ノ森10・40
西南後と支線との分岐11・25〜40
登山口12・25
△地形図▽2万5千11釈迦ヶ岳
昭文社「大峰山脈」

△参考▽
○昨年(平成10年6月)は十津川村の旭橋から前鬼口・食料などを持って、途中二泊して歩いて来たという青年二人(前鬼で会いました。旭橋から西南後の登山口まではバスがないので、約4時間の道のりだったようです。当然二人は前鬼から前鬼口まで、約7時間30分を歩くわけですが。また、八尾市在住の単独行の青年は家を早朝に発って、単車を登山口に置いて西南後を往復すると言っていました。

○一般には、旭橋近くの民宿が旅館に泊まる。朝、車で登山口まで送ってもらい、その日は前鬼の宿坊に泊まり、翌日、前鬼口まで歩くというのがよいようです。

○旭橋近くの民宿・旅館については十津川役場(07466(2)0001)に、前鬼の宿坊は直接小仲坊(076(0)711)6000)に、問い合わせてください。

○(宿坊は5月上旬から9月の中旬まで)。

○釈迦ヶ岳へは、八経ヶ岳からの縦走(登山一泊、前鬼一泊)と、前鬼からの往復のコースがありますが、所要時間の長さや険しさなどを考えると、西南後がもっとも歩きやすいと思います。

壹分より生駒山越え

木村 太郎

生駒

生駒谷から奈良街道へ

『万葉集』に挽歌の載る悲劇の三族として、十九歳でその生涯を終わった有間皇子の名を挙げる事ができる。大化の改新で孝徳天皇が即位、天皇の皇子となり、皇位継承の有力者となった時から有間皇子の悲運は始まったといえる。当時朝廷の実権を握っていた、中大兄皇子(後の天智天皇)の描いた筋書で舞台は動いた。皇子の住む市經(今の生駒市市分町)の家が囲まれ、捕えられたのは斉明四年十一月五日。この後護送された天皇行幸先の紀の湯から、飛鳥の都へ戻されることになる。途中紀路藤代のみ坂を行く時に、追手を向けられ絞殺された。

たのは十一月十日であった。

『日本書紀』にあるめまぐるしく急展開した悲劇の物語に、なおさらの哀しみを誘われるのは、その「有間皇子、自ら傷みて松を枝を結ぶ歌」の詠草を万葉の歌集に読みとることが出来るからである。

磐代の浜松が枝を引き結び

真幸くあらばまたかへり見む

(巻一、一四一)

昨年死去された万葉学者の大養孝氏は、現代教養文庫『万葉の旅』(綜合思想社刊)の文中で、藤代のみ坂を取り上げて「梅の地蔵さんのところに有間皇子の墓を建て、新たに歌碑を建ててあるが、皇子の



種名寺墓山の有間皇子の墓

墓はどこともわからない。」と記述されている。

ところで生駒山の真山麓生駒市市分町は、有間皇子の市經の家があった場所と伝えられている。その最寄り駅に近鉄生駒線の一分駅があり、その駅を東へ出て道を少し手へとたどり歩いて行く。尋ね当てた種名寺と無量寺の崩伝いに登った裏山に、有間皇子の墓は現存してい

た。
荒れ果てた敷地の中の枯れ朽ちた松の根方に、墓標もなく碑路もなく石を重ねただけの墓が残る。天折した有間皇子の墓に地元民のたむけた榊葉が供えられていたが、王族の墓と呼ぶにはあまりにも質素なものだ。土埋の人々が俗称で皇子山と呼ぶ小山の片隅で、薄幸だった皇子の面影を追い求め、沈黙のなか生駒谷に眠れる悲劇の主人公を想んだ。

有間皇子の所縁の地を訪ねることで始まった今回の生駒山への旅は、皇子山か



ら一分駅へ戻る。近鉄生駒線と並行してのびる酒造街道を横切り、竜田川に架かる大宮橋を渡り、北へ歩くと「延喜式」の生駒神社(往座伊吉麻呂比古神社)がある。生駒谷十七纏の氏神として盛輝生駒山の山祀に座し、元始祭の華やかな賑わいをみせている。『正倉院文書』にも名が挙げられ、七つの社殿の大屋根は連続に組まれ、古代建築物を思わせる神々しい社であった。

市分町を回へ両生駒駅の万へ向かい、第二阪奈道路の高架をくぐり抜け、大仏建立に功のあった行基の六眼する竹林寺の前の道を行く。さらに兩へ有間町の青山台住宅を抜けたあたりの、小高い墳丘の上の美努連(萬の墓)を訪ねた。

明治五年秋のこと、生駒萩原集落の農民の報先で、銅板製の墓誌が偶然掘り出された。その天平二年の日付入りの墓誌銘文より、副詞は『続日本紀』に記された『万葉集』にも名のある遺蹟(古蹟)に加わっていた人物だったことが証明されたのである。

ありぬよし対馬の渡り海中に
警取り向けてはや帰り来ぬ

(巻一、一六二)

この歌には「三野連の入宿の時に、春日(ひる)日(ひ)百老(ももぢ)の作れる歌」と詠詞が付けられている。はるかなる大徳を玄海(あまのうみ)で隔つ、志岐(しき)対馬(たいま)の海中は荒海で名高いところであり、海神に捧げ物を投じ無罪に帰る来れと、天なる示現を信じ祈りをこめて作られた歌と思われる。

往時の文化人間萬の史跡を後にして、次の目的である生駒山へと向かう。細い道をくたると国道308号線に出たが、国道と呼ぶより古き官道という雰囲気のある道である。

暗越えから子越えへ
この道は暗越えとして、世に知られた古道奈良街道であった。その歴史ある古道の面影が残る坂道をたどり、古名では牛馬の鞍が返るほどの急坂のため鞍ヶ嶺峠と言った暗峠をぬぎ西へ進む。

その昔、平城京より難波へを東西へ一直線にのびていた道は、難波と難波間の生駒山の高嶺に阻まれる。大和と河内とを往還していた旅人は、竜田街道に迂回路をとり旅を続けた。けれども山向こうに愛しい妻子や恋人を持たせている旅人は、一刻一瞬でも早く家路へ帰り着く



暗峠

とした。妻恋いの熱き思いは、直越えの急峻な道を苦勞をいとわずに暗峠を登り、大和と河内を最短で結ぶこの街道を往來したのであろう。

直越のこの道にてしおし照るや
難波の海と名づけけらしも
(巻六「うらやま」)

草香山を越える時に神社冠す老麻呂
が作った歌である。この歌の背景は暗峠

越えではなくて、善根寺越えもしくは日下越えという説もある。いずれにせよ生駒の高嶺を越えゆく時に見た、押し照る陽が眩しく輝いた難波の海に、雲直に感動している旅の心情が詠みとれよう。

暗峠の手前の西畑町の道邊で万葉歌碑を見つけた。筑紫の國へ赴任途中の下野の防人入田部三成の歌である。

難波門を漕ぎ出て見れば神さぶる
生駒高嶺に雲ぞたなびく
(巻二「うらやま」)

河内平野の内陸部まで大阪湾であった当時は、山に上れば難波の海が手に取るように見渡せた。また航海上の船からは、遠き他國へ出て行くこととする旅人が、生駒山を眺めて哀情の情断ち難い気持ちになったに違いない。

暗峠の周辺は石畳が敷かれてあり、本陣跡の名残を感じさせている。近世には旅館や茶店が立ち並び、旅人をもてなす情景が広がっていたのだらう。その暗峠を南下すれば、鳴川峠・十三峠を経て信貴山への縦走路になる。きょうは峠を北へ生駒山へと進む。飛火が頭まで登り終え、無線中継所とかテレビ放送所の林立する鉄塔を見上げながら、生駒山

上遊開地の南入口を入る。

神さぶる生駒高嶺がいまや、お伽の國に生まれ変わったことに、現代の寓話をみる思いになる。ともあれ喉舌飛び交う山上海開地の庭園列車の鉄橋を閉けて入ると、三角点があり、生駒山(642.2m)の頂上を踏むことができる。

帰りは北入口を出て石段をくだり、信貴生駒スカイラインの車道を横断し、辻子谷ハイキングコースに入る。生駒山と西山麓とを結ぶ道としては、根河原・宮川谷・目下のコースと多様にあるが、自



奈良街道西畑町の万葉歌碑

分には辻子谷の道に愛着があった。

役行者・開基、そして弘法大師も止廻した古刹興法寺を過ぎたあたりから、四国霊場の札所番号を記した無数の石仏碑と出会える。さまざまな表情をした野仏と対話する山道は、ハイキングとはまた別の楽しみがある。

この道には水溜池や白金滝の御流石場もあり、古くから修験者のための参道であったようだ。また昔の辻子谷には水車小屋が数多くあった。坂道を荷馬車で薬草が運び込まれて、漢方薬の粉を終日碾く水車など、最盛期には四十両の水車が回っていたという。

その製薬業を受け継ぐ小西製菓の角を左へ折れると、饒速日命を祭神とする石切御雷神社上之宮がある。池の側に御雷神社があり、その祭神は御雷神。細命という。日本武尊妃として、夫の東征の航海の無事を願って、わが身を荒れ狂う海神の生霊として捧げた、悲しき往旅を「古事記」に詠める。あの弟橘比売をまつる小さな社であった。

そう言えば『万葉集』には生駒山を主題にして、夫婦の愛を詠んだ甘美な歌が残されている。

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
心ときめき、背負い易いザックです。

トレックオール45

- 2〜3泊の小屋泊りから本格的な山歩きに
対応出来るオールマイティモデル
- フロントにスウェットポケットと大型ポケット
- 側面には片側はスルーポケット、片側はインサイドポケット
- 両サイドに大型ラウンドポケット・コンプレッションベルト
- 角度調節可能なインサイドフレーム内蔵
- カラー ベージュ・ネイビー・ベージュ×ワイン
スエード・スエード×スエード
- サイズ 45L 重量 1.700g
- サイズ 16×35×70cm
- 素材 シェルタロン
- 価格 ¥15,800(税別)送料別



一モック山道行くらぶ
春夏秋冬・シーズンを気に
せず登山・登山・名山を
訪ねます。詳細はお問い合わせ
下さい。

IMOCK
2001
神戸ザック
〒650-0007 神戸市東灘区大塚9-10-1
TEL(078)621-5851
FAX 621-3628

夕さればひぐらし来鳴く生駒山

越えてぞ喜が来る妹が日を欲り
(巻十五「うらやま」)

夕方には鶉が来て鳴く、生駒山の暗くなる道を超えてでも私は来ますよ。妻を目にしたい、逢いたいために。

万葉の妹を恋する旅人たちへ、愛の歌のモチーフを奏でた生駒山。いま歩く辻子越えの道に、古のみずみずしい乾練の響きを聴く思いがしていった。昔詠われた甘美な色彩の光で、そして現代の生駒山を塗り替えることができるなら、その時は生駒高嶺の本来の姿を見ることができらう。(平成11年1月3日歩く)

△コースタイム▽

近鉄生駒線一分駅(5分) 称名寺・無量寺(15分) 生駒神社(30分) 美努道開基墓(1時間) 暗峠(40分) 生駒山(55分) 興法寺(35分) 近鉄奈良線石切駅
△地形図▽2万5千1生駒山・信貴山
△問い合わせ先▽
生駒市経済振興課

07437(4) 1111
東大阪市経済企画課
0729(92) 1331

残雪が消え、ササにおおわれた

高三郎山

秋元三郎

加賀

金沢の登山家、長崎幸雄氏の遺稿集『わが白山連峰』で知ったのが高三郎山だ。私は自分の名前の付いた山を見つけるとさっそく登ることにしているが、長丁場で簡単に登れそうにないこの山はついつい敬遠していた。

高三郎山は金沢市の水源犀川(せがが)の奥にある。ピンと張った両肩の上に鋸歯状の頂きを持つ男性的な山容から、標高のわりにはボリュームと風格をそなえた名峰で、石川県では人気のある山だという。しかし、アプローチが大変だ。JR金沢駅からのバスははるか手前の駒堀が終点なので、登山口の犀川ダムまで2時間を余計に歩かねばならない。思い切って一人

マイカーで出発した。高三郎山の好展望台である金沢市の卯辰山公園へ寄ってみたが、あいにく空が覆みはつきりと確認できなかった。犀川ダムに着くと手前にある付置棟の一階が駐車場になっていたのでもここに降

翌朝、5時過ぎにダムを出発した。しばらくはダム湖に沿った右岸の道を歩いて行く。しだいに幅が狭まり時々雑草がこぼってくる。朝露に濡れただけで下だけ雨衣を着けて歩いた。湖に注ぐ沢を二つ大きく迂回すると、やっと倉谷川に入っていく。入江となった行手の湖面に古い二本の橋脚だけが淋しくその姿をさ

クラコシ尾根から高三郎山



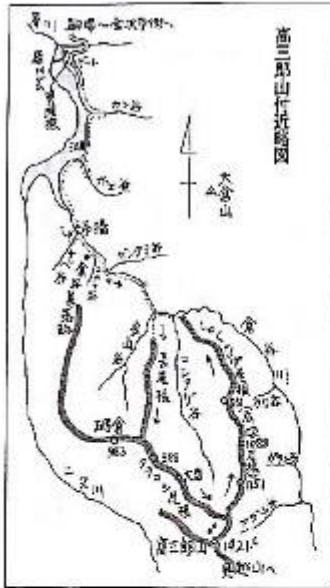
らしていた。この先で鉄骨製の赤い吊橋を渡るとすぐに分岐となる。左へ行くことやがてダム建設で全戸離村した倉谷集落跡へ入っていく。人工的な遺物が目につく。清水が湧く所で幕営している地元の二人に出会った。きのう高三郎山に登ってここで泊まったと言うので、いろいろ話を聞いた。昔と違って今は道も良いと言

うので安心したが、名物のシクナゲは花が全て咲き終わり、残雪が無いのでササが繁り、頂上の大展望は何もないとか、がっかりした。

流れに沿って細い道を進むと倉山谷合に着いた。目の前にこれから登る長尾根の末端が迫っていた。見ると谷の上にはワイヤーロープだけになった吊橋に、材木を幾つもくりつけた板橋が架かっていた。スリル満点のこの橋を材木にしがみつきながらやっと渡った。そこが長尾根の登山口であった。

急な小径に取りつくと木の根、岩角が鋭く鋭い登りだ。遠くでツツドリが、近くでコガラが鳴いた。30分もがんばる

高三郎山近隣図



と傾斜もゆるくなり、尾根の幅も広がって歩きやすくなった。ブナの大木が目立つ。足元には半開きのギンリョウソウの群落が白く無気味に咲いていた。蛇が急に襲ってきた。追っついても追っついてもくる。さもあらうと穂積川の蚊取線香を持参していたので、さっそく点火したらほとんど近づかなくなった。右に砲倉への道が分かれて、砲門からその頂上部が望めた。高三郎山へのクラコシ尾根もここで左に曲がって、対岸にはしゃくなげ尾根が見え始めた。木立も低くなって988メートルの先でついに高三郎山が姿を現した。新緑におおわれて美しいが、薄曇りの空には今ひとつ映えない。

シクナゲが現れたが、花は一つも残っていない。例年なら花盛りの時期なのに残念だ。次第にやせ尾根になり、コシヤゲ谷側が急傾斜で落ち込んでいく。足場に注意し、小枝にかまって慎重に歩く。

しゃくなげ尾根の上には多子津山がまん丸い頭をのぞかせておもしろい。突然大岩の上に出た。切れ込んだクラコシ谷には、岩壁がむき出しになった所が幾つも見下ろせた。手と足でしっかりりと身体を支えながら大岩をおりた。この先まだ急登は続く。頭上でキツツキのドマニングが始まったが姿は見えない。しゃくなげ尾根に合うと歩きやすくなった。左手に先年登頂した大門山の雄大な山容が仰げてなつかしかった。

高三郎山(1421m)の山頂に着いたが、青文が没する一面のササと低木が邪魔して本当に何も見えなかった。山頂はさらに見越山から白山へ連なっているのだが、道は無い。雪でササが寝ていれば白山連峰を始め、たくさんの山々が眺められることだろう。残念だが懸案の山に登れた喜びに浸るしかなかった。三角標のわずかな突き出た地を足をとる。相変わらず蛇やハエが多いが、蚊取線香と防虫スプレーのお蔭で、虫にたかられることはなかった。

正午過ぎに頂上を後にした。くだりはしゃくなげ尾根に入り、歩きやすい道をゆっくりにくだる。登ってきた長尾根の向

アミューストラベルの山歩き

全てのコースで、社員ツアーリーダーがご案内いたします。
初心者の方や中高年、女性一人様でも安心してお申し込み下さい。

上蒜山 春の山野草と大山や蒜山高原の展望が楽しめます。5/30(日) ¥11,000

大台ヶ原～大杉谷縦走 5/21(金)～23(日) ¥45,000

大台ヶ原から流れる豊かな水が刻んだ、原生林の美しい日本風指の大渓谷を歩きます。

尾瀬ハイキング 5/28(金)～30(日) 6/3(木)～5(土) ¥39,800

日本一の温泉と誰もが認める尾瀬。ミズバショウの咲く花の散歩道を歩きます。

甲武信ヶ岳・金峰山・端牆山 6/17(木)～20(日) ¥73,000

奥秩父の百名山三座に登ります。ペニバナイチヤクソウも見ることが出来ます。

利尻山と礼文島花ハイク 最北の百名山と花の島礼文島をハイキング。

6/19(土)～22(火) 6/26(土)～29(火) 7/10(土)～13(火) ¥148,000

羊蹄山とニセコアンヌプリ 6/25(金)～27(日) ¥73,000

蝦夷富士と呼ばれ姿も美しい羊蹄山とニセコ連峰最高峰のニセコアンヌプリへ。

早池峰山・秋田駒ヶ岳・八幡平 7/1(木)～4(日) ¥125,000

高山植物が咲き誇り、花好きの方は特に満足していただける山旅です。

夕張岳と暑寒別岳 7/3(土)～6(火) ¥129,000

北海道花の三名山夕張岳と雨意沼湿原の暑寒別岳。どちらも高山植物の宝庫です。

大雪山縦走と十勝岳縦走 北海道最高峰を縦走し、十勝岳も縦走します。

① 7/9(金)～12(月) ② 7/17(土)～20(火・祝) ① ¥137,000 ② ¥142,000

東北の名峰 月山と鳥海山 7/17(土)～20(火・祝) ¥115,000

月山の広大なお花畑と鳥海山の固有種。高山植物いっぱいの山旅です。

イングランド・ウェールズ最高峰ハイキング 7日間

近代アルピニズム発祥の地、有名な登山家を育んだ山々にふれあう山旅です。

6月20日(日)～26日(土) ¥298,000!!

臨阪順一氏と歩くピレネーフラワーハイキング 9日間

スペインとフランスの国境にあり、山並みも美しく高山植物も素晴らしい所です。

6月29日(火)～7月7日(水) ¥498,000

日帰りから海外までのパンフレット(84ページ)があります。ご購入下さい。(送料無料)

アミューストラベル株式会社 06-6265-3303

運輸大臣登録旅行業第1366号 (社)日本旅行業協会正会員

〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F FAX 06-6265-3306

E-mail amtosa@po.teleway.ne.jp http://www.amuse-travel.co.jp



クラコシ尾根の大岩 (上方から手前へおる)

こうには両倉が見えたが、遠い山々はもう曇って見えなくなっていた。急な細尾根の所もあったが、一度も人に会わずに長い尾根道をコシアゲ谷出合までくぐりきった。

川沿いの道を少し歩くと長尾根登り口に戻った。あのスリルのある仮橋を敬遠して、金山谷のすぐ上流を探したら転石伝いに渡るルートが見つかり、簡単に通過できた。

あとは合谷川と湖岸沿いの長い道のりを2時間歩いて犀川ダムへ帰り、再びテントを張って泊まった。

夜半から弱い雨となった。その前に無事下山できたことを山に感謝した。

(平成10年5月28日歩く)

※参考タイム▼

犀川ダム5・07ー合谷集落6・30ー40

ー長尾根登山口7・07ー17ー新倉分岐8・48

ー59ー高三郎山11・35ー12・08ーしゃくなげ尾根分岐12・28ー1089分岐13・01

ー08ーコシアゲ谷出合14・33ー40ー犀川ダム16・45

△地形図▼

2万5千1西赤尾・口直海・湯浦・鶴来20万1金沢

△問い合わせ先▼

北陸鉄道バス(北陸鉄道テレホンサービスセンター) 0762(37)5115

犀川ダム管理事務所 0762(28)0037

新刊 関西の山日帰り縦走

中庄谷 直著 四六判・二〇〇〇円

六甲、多紀、京都北山、比良、湖北、生駒、葛城、金剛、和泉・全朝コース。一日で縦走できるコースを厳選して詳細地図付で紹介。交通機関や所要時間も。

わっさか沢歩き(記録) 近畿編

美濃の山 ③ 木曾川水系の山

大垣山岳協会編 四六判・二五〇〇円

東濃・南濃30山地図付最新情報 全三巻完結

★表示の価格は消費税を含みます

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2

〒606-8316 075-751-1211 7606-8316

連載

日本霊山紀行 番外編 (補遺)

『新篇常陸國志』

中山信名著

浅野孝一

明治初期、内務省地理局が編纂した『明治前期地誌資料・地誌目録』(河野龍雄)によると、常陸に関する資料は『常陸國風土記』他六十一一点の資料が列記されている。

常陸(茨城)の山々を歩いていて参考となるのは、『常陸國風土記』を始め各種あるが、私は中山信名の撰の『新篇常陸國志』によることが多い。『新篇常陸國志』は常陸の総合的な地誌で、江戸前期に編纂された小宅生圃の『古今類聚常陸國志』を元に補苴、拡充したものである。

私たちの必要とするものは第六巻の山川の部で、そこには七十二の山や丘が記されている。『新篇常陸國志』の著者、中山信名について記してみる。中山は天明七年(1787)、常陸國久慈郡石名村に生れた。若い頃水戸藩士石川久俊に地理学を学んだ。享保二年(1802)、16歳の時江戸に出て堀保己に師事した。

文化六年(1809)23歳の時、幕臣中山右林(宗憲)の養子となり、中山勘四郎と名のつた。長じて向島の柳島に住んだので柳洲と号した。同七年(1810)七十歳五人扶持となり、林大学頭衛に見出され書物御用出役となった。22歳の文政元年(1818)出役頭取となった。

その近くに男体山がある。「男体山水戸領地理志云、久慈郡高倉村ニアリ、高一里二十六町山上ニ大石アリコレヲ神體トシ、男體禪現ト稱ス、嶮巖ニシテ風景尤奇絶ナリ、毎年二月十五日祭日、婦人ノ頂ニ登ルコトヲ禁ズ」とある。茨城県内には君間にもナンタイサンという山があるが、こちらは雄台山と書き南北朝期の城跡がある。

載されている。

茨城県内の最高峰は八溝山(1072m)である。八溝山の存在を世に広めたのは慶応大学山岳会の大島亮吉であった。大島は大正中期、東北地方へのスキーの帰途、久慈川に沿って歩き八溝山へ登った。早春のことであった。

『新篇常陸國志』は「八溝山 夜英會佐牟 水戸領地理志云、今久慈郡上野宮村ニアリ、……山上大慈閣アリ、坂東順陸ノアリ、日輪寺、月輪寺ト云フ、……此山八溝山ト名ツクル故ハ、八方ニ溪水流出シテ、西ハ那珂川ニ入り、東ハ久慈河ニ入り、就中久慈河水源ハ、八溝山ト北山南、數ヶ處ヨリ出ル故ニ、八溝山ト

も解決されていない。

『新篇常陸國志』の著者、中山信名について記してみる。中山は天明七年(1787)、常陸國久慈郡石名村に生れた。若い頃水戸藩士石川久俊に地理学を学んだ。享保二年(1802)、16歳の時江戸に出て堀保己に師事した。

文化六年(1809)23歳の時、幕臣中山右林(宗憲)の養子となり、中山勘四郎と名のつた。長じて向島の柳島に住んだので柳洲と号した。同七年(1810)七十歳五人扶持となり、林大学頭衛に見出され書物御用出役となった。22歳の文政元年(1818)出役頭取となった。

その間、堀保己の『群書類従』の編輯にも従事した。堀保己が和学講談所の教授となった時、その下で役職も務めた。長ずるにおよんで酒を好み、しばしば遊里に入りりして失散したこともあった。子どもは男三人、女一人にめぐまれた。

明治期の水戸出身である国学者、栗田寛は『中山信名伝』の中で「民家名目抄編纂にあづかりし頃は屢花柳に遊び、暇に暇せざりし事も多かりしが、林大学

云」と記している。

現在の八溝山は山頂下まで車道が通じ、山頂には白蓮の城まがいの展望台がつくられ、山の風景はぶち壊しになってしまった。常陸の名山も政治家たちの手にかかると台無しになってしまう。

次は筑波のことを「筑波山 西久慈也麻 筑波郡ノ北ニアリ、故に名トス、山尾筑波、眞壁、新治ノ三郡ニ跨ルセリ、頂ニ峯あり、西ヲ男體ト云ヒ、東ヲ女體ト云フ、陰陽對立シテ、坂東八國ニ秀出ス、八國四面ヨリコレヲ望ムニ一ノ如シ、坂東無雙ノ名譽ナリ、一名見カハシ山、……」と記し、『常陸國風土記』の文章を引用している。

連歌のことを別名「筑波の道」という。それは日本武尊が筑波山麓を通過して「新治筑波を過ぎて幾夜か寝つる」と詠んだからだと言われている。

茨北にそびえる堅壁山について、「堅壁山 多門和禮也末 古名角結山(山)取長比也形故二本郡ニ龍子山アリ、堅壁山アリ、新山東西ニ相對ス、龍子壁ト同訓ナリ、多門ト云ヘルハ、別ニ龍アルベキモ知ルベカラズ、疑ヲ殘シテ後考ヲマツ、……割石形鵝卵ノ如クナル石(丈一

頭、かにかくに刀を盡されし故に、事故なく、任を全くするを得たり」と述べている。

天保七年(1836)11月10日、死去した。享年50歳であった。辞世の歌は「酒のみ浮れ女もみつ文もみつ家も興しつ世に恨なし」であった。

『國學者傳記集成』は「文化四年、三月、故郷ニ歸省ノツイテ、經濟スル所ノ事實ヲ記載ス。コハ後年、常陸國志ノ端緒ナルベシ」と記している。

この地誌は信名が没するまで補訂を加えていたので、生前には完成に至らなかった。しかし明治に入って帝國大学文科の教授栗田寛が色川三中の訂正本に大編な増補・修訂を加えて活字本にしたものである。多分書房から復刻版が出版されていると思うが、図書館に頼んで見るしか方法はないと考えられる。



自然観察山行

千振尾根から別山

鷺見守康

白山

別山は白山から南へ連なる御舎利山・別山・三ノ峰などを結ぶ山系の主峰であり、標高は2289.9m。この別山へ直接登るルートは、御舎利山から西に張り出した千振尾根にあり、白山自然保護センターのある市ノ瀬から入山する。

千振尾根の森は私の憧れであった。白山山系のブナ林は世界遺産・白神山地のブナ林に次ぐ規模をもつと言われているが、その白山の中で最も大きな広がりや原生的生態を保っているのが千振尾根のブナ林である。この豊穡なブナ林の魅力ゆえに、様々な団体により自然観察会が開催されているそうだ。

昨年の初夏、愛知県のKさんから誘い

を受け、Kさんから自然観察会のグループと千振尾根から別山に登ることになった。

例によって未明発日知りの日程で、私たちが家(各務原市)の近くでKさんの車に拾ってもらったのは午前3時過ぎ。夏海北陸自動車道を利用して順調に車を走らせ、石川県の市ノ瀬に到着したのは5時30分であった。

すでに、同行の他のメンバーもほぼ到着しており、Kさんの車の六人と合わせ、つごう十一人である。

市ノ瀬にはヤナギ科のドロノキの巨木が林立している。ひんやりとした大気を味わせるように、クワグミの声風塵が

響き渡る。登り始めの登山道に入ると、雰囲気は一変した。

深山の懐深い森に招き入れられるように進んで行く。柳谷川と岩屋侯谷川の流域にトチノキ・カツラ・サワグルミの混雑林が広がる。トチノキやカツラの巨木群が次々と姿を見せ、実に壮観である。

巨木群の林床には、典型的な日本海型植物が居並ぶ。1片余りも茎をのぼした

タイムンガサとヤグルマソウが驚くほど大きな葉を広げている。林冠が開いたところからはさんさんと差し込む陽光を受け、ヤグルマソウの白い細かな円錐状の花が映え、昆虫な群落をつくらせている。

巨木たちの住む森のなかでは、これらの野草たちが謙として列をなし、その整然としたありさまは感動的でありある。時空を超えて太古の息吹を伝えるかのような広大さに圧倒され、「これが本物の森の姿なのかも知れない」と心のなかで呟く。

森は春の花の季節を終え、夏に匂い立つラン科の花が咲いていた。道沿いにサイハイラン・コケイランが姿を見せる。Kさんも私も三脚を立ててカメラタイムとなる。ミソサザイの鋭い複雑な声に混じり、オオルリ・キビタキ・ウグイスが歌っている。大きな音楽ホールに入り込んだかのようにだ。

「あっ！ ショウキラン！」先頭を歩いていたKさんが大きな鋭い声上げた。メンバー全員が色めき立つ。

森のなかには湧水の水場が数箇所あり、ブナを住人とした森特有の透明感に満ちたさわやかな冷たい水がこんこんと湧き

御舎利山から望む別山



なさえずりが響いている。ドロノキの木の下で朝食をとって身仕度を整え、6時出立。上空は晴れているはずなのだが、寒気が入り込んでいいるせいか、山はガスに捲かれ、終日展望は得られなかった。しばらく柳谷川沿いの工事用車道を歩く。その道脇には猛毒植物として名を馳せるドクウツギが群生しており、厚みのある葉の時異な三行脈が目立つ。

出ている。そんな登山道沿いの一つの水場にショウキランが数株咲いていた。ショウキランは葉緑素を持たない腐生植物であるが、乳白色の直立した茎にはんどのりとしたピンク色の花弁をつけた姿には、独特の存在感がある。

森はやがて新緑のブナの純林に変わる。原生的な巨木を交え白い幹肌と灰青色の斑紋を散らしたブナの大木が林立する森は、とても深く広く、そして気高く美しい。その景観にただただ立ち尽くし溜息を漏らす。

稜線に出てもなおブナの林が続くが、ダケカンバやオオシラビソの姿も見え始めた。

垂高山帯に入ると、白山に名の由来をもつゴゼンタチバナ、そしてツマトリソウ・コミヤマカタバミ・コイワカガミ・ウラボシナカマド・コヨウラクツツジ・オオバスノキ・クロマメノキなどの花を見る。

キヌガサソウの梢気に満ちた満開の花があり、すぐ横には葉もまだ十分には展開しない、面をつけただけの愛らしい株もあった。花が開き始めのキヌガサソウには初めて対面した。あてやかさのある



山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

1 利根川・白川・新里 深草川	36 白鳥山アルプス
2 ココウ・羊蹄山	37 黒岳・花嫁岩アルプス
3 大雪山・千代岳	38 上馬山・峰 穂巻アルプス
4 八ヶ岳(八ヶ岳) 妙高山	39 野崎高原アルプス
5 八ヶ岳(八ヶ岳) 妙高山	40 妙高山
6 奥州 早池峰	41 中央 西アルプス2部
7 奥州 奥山 奥山	42 木曽駒 西木曽アルプス
8 奥山	43 奥駒 北木曽アルプス
9 奥山・奥山	44 奥山 西木曽アルプス
10 奥山	45 奥山
11 奥山 西木曽アルプス	46 奥山 西木曽アルプス
12 奥山 奥山	47 奥山 奥山
13 奥山 奥山	48 奥山 奥山
14 奥山	49 奥山 奥山
15 奥山	50 奥山 奥山
16 奥山 奥山	51 奥山 奥山
17 奥山 奥山	52 奥山 奥山
18 奥山 奥山	53 奥山 奥山
19 奥山 奥山	54 奥山 奥山
20 奥山 奥山	55 奥山 奥山
21 奥山 奥山	56 奥山 奥山
22 奥山 奥山	57 奥山 奥山
23 奥山 奥山	58 奥山 奥山
24 奥山 奥山	59 奥山 奥山
25 奥山 奥山	60 奥山 奥山
26 奥山 奥山	61 奥山 奥山
27 奥山 奥山	62 奥山 奥山
28 奥山 奥山	63 奥山 奥山
29 奥山 奥山	64 奥山 奥山
30 奥山 奥山	65 奥山 奥山
31 奥山 奥山	66 奥山 奥山
32 奥山 奥山	67 奥山 奥山
33 奥山 奥山	68 奥山 奥山
34 奥山 奥山	69 奥山 奥山

※昭文社の「山と高原地図」は年毎として毎年更新発行されます。この行の冊はなるべく最新版をご利用ください。昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、編集部「山と高原地図」担当までお気軽にご相談ください。また新着情報をお知らせいたします。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段式4-2-11
電話03(3282)2141(代)〒102-8236
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(3303)5721(代)〒532-0011
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

満開の花姿も美しいが、背丈腰の株とセットとなって、一層情趣を深めている。サナユリも咲き、高度を増すにつれて季節は逆戻りしている。

見通しのよい斜面を登りきってまもなく、避難小屋に到着。天候に恵まれた場合、ここまで登れば御前峰や別山もよく見えるので、この小屋を拠点とする巨峰り登山者も多いという。私たちもこの先積雪があれば、避難小屋で引き返すことになったかも知れない。けれど、今年はずっかり雪が溶えている。予定通り山頂をめざすことにはなったものの、メンバー

の中には別山登頂というはつきりとした心積もりはなかった人もいたようで、休憩中、ちよっとしたとまどいが広がった。しかし、自然のすばらしさに惹かれて全員で出発した。

並高山帯の水溜り状の小さな池で、Kさんがクロサンショウウオの卵塊を見つけた。クロサンショウウオは高い山に生息する止水性のサンショウオだ。さらにトンビケラの種類やルリトンボの幼虫も見られた。トンボの幼虫の種類まで見分けられるKさんの鑑定眼にはいつもながら感心する。道脇には哺乳動物の糞がある。キツネの

が、危険な箇所もなく道順もはつきりしており、Kさんがカメラタイムに入るとメンバーが迫りつく形になるので、ほとんど心配はいらない。

御舎利山の山頂直下で急にゆるい登りとなり、突如として頭上いっばいに空が開いて高山帯に入った。ツツジ科の低木、コケモモ・コマバツガザクラ・アオノツガザクラ・ツガザクラ・ミネズオウ、ほかにガンコウランなどが姿を見せ、ガンコウラン以外は皆花をつけている。ガスは途切れることなく立ちこめ、北方向の白山本峰は見えないものの、すぐ南に別山山頂が浮かび上がっている。

森林限界を越え、高山植物にも迎えられる。全員が歓喜に包まれた。高山はやっぱりいい高山はやめられない、と興奮気



別山の(本家)ハクサンイチゲ

味に口々に言う。高山の魅力にとりつかれた自分自身を「高山病」になったと無邪気な駄洒落を飛ばす人もいて、ワイワイとにぎやかな昼食タイムとなった。

昼食後、目の前の別山山頂をめざして進む。雪田の消えた所には、本家のハクサンゴザクラが十数株あり、ハクサンイチゲは群落をつくっていた。ほぼ清開の様子で、くつきりとして天に顔を向け、さわやかに自己主張している。Kさんも私も、本家のハクサンイチゲに出会って喜びもひとしおである。ハクサンイチゲは、名前に「白山」の冠をいだきながら、実は白山本峰には見られない花なのだ。御舎利山から15分ほどで別山山頂に立った。

○二板尾根からの別山は、植物の垂直分布がこども餅やかに展開する。登り口付近はトチノキ・サリグルミ・カウラの深谷林。その上層にブナの雑林が広がり、標高1800mあたりからはダケカンパが出現。避難小屋からはオオシラビン納木の林相を見せ、御舎利山山頂直近で高山帯となる。

○野鳥の垂直分布も判りやすく、かつ豊

美であった。

やがて御前下の湿地にピンク色に染まった一群を見つけた。オオサクラソウかハクサンゴザクラかどちらかだろうとやりとりしながら、メンバーの胸には期待がふくらんでいく。まもなく、なんと道沿いにハクサンゴザクラとクロユリが一株ずつ姿を見せた。パーティから飲河が上る。高山帯は近い。

高木がオオシラビンのみとなった。標高2000m前後を越すあたりから九十九折が連続する。先頭のKさんの後に私が続き、他のメンバーとの間隔が開いていく。

富である。市ノ瀬のクログミのさえずりから始まり、ミンサザイ・オオルリ・キビタキ・コガラ・アオゲラ・オオアカゲラ・ウソ・クロジ・ウグイス・ヒガラ・ツツドリ・ジュウイチ・ホトトギス・コルリ。並高山帯ではメボソムシクイ。そして高山帯でカヤクグリさえ聞きこくことができた。

○今回、登山基地である標高約900mの市ノ瀬から千板尾根を登り、別山山頂まで標高差約1500mを日帰りで行ったのだが、メンバーのだれもバテることなく無事下山できた。わが国の代表的な森に生息する動物の豊かさと華やかさに励まされたこともあるのだが、登山道そのものの付け方がよく、登山者には歩きやすいコースと言えるだろう。ただ、歩行距離は往復約20kmに達していた。

(平成10年6月7日歩く)

▲参考タイム

市ノ瀬6・00・水場7・20・避難小屋9・35・御舎利山11・25(昼食)・別山山頂12・15・御舎利山12・50・避難小屋13・45・水場15・50・市ノ瀬16・40

△地図▽昭文社「白山」

雪がなくて断念した

丸山

白山から南へ別山、三ノ峰、二ノ峰、一ノ峰と徐々に高度を下げながら一本の山脈が続いているが、一ノ峰の南で山脈は二つに分かれる。西南へのびている尾根は岐阜県と福井県の境界で、北より順に野伏ヶ岳、よも太郎山、日岸山、薙刀山、野伏ヶ岳と1600年前後の山並みが、それぞれ個性のある鋭つきをして居並び、雪を抱けば3000に近いアルプスのような風格さえ感じさせるすばらしい山脈である。もう一方の東南へ走る鈍子ヶ峰丸山、芦倉山を経て大日ヶ岳に至る山脈は全て1700以上あり、ゆったりとしたおらかな山容である。

調べると、二つの山脈の間を流れる石徹白川は西側の山脈の南方を切って九郎窪川に合流し、福井県の最も大きな川となって日本海に達している。だから水系から考えても山の高さから判断しても東側の山脈が主脈だと行って差すつかえはないだろう。その間にある石徹白の集落は現在、岐阜県郡上郡白鳥町に属している。岐阜市から石徹白へ行こうとすれば、長良川沿いをさかのぼったあと、福井県の川の方へ増峠を越えねばならない。石徹白は越前の国だった。そして昭和33年まで福井県大野郡和泉村だった。白鳥町役場の話によると、石徹白に住む人たちが、生活圏としては岐阜県側のほう

松田敏男

白山

神嶋の宮遊覧小屋より小白山・野伏ヶ岳・薙刀山（左より）



に結び付きが強いことを理由に、昭和28年頃より白鳥町への併合の気運が高まり、昭和33年10月15日に実現したということである。

私のような部外者で旅行気分です山に登る者にとっては、交通の不便な山村というのは日本のふるさとの原景のようで、縮れに似た郷愁を感じてしまう。そのような懐郷の地として、石徹白の佇まい



雨露に濡れたショウジョウバカマ

は季節を変えて何度も訪れてみたい魅力を持っている。

出発前は大雨だった。雪の少ない年だったので、岩井さんと私ははげます丸山の雪の状況が少々気がかりだった。二週間前にはやはり岩井さんと二人で奥美濃の機会に登ったが、予想よりは雪の量がずいぶん少なかった。しかし、残雪が谷を埋めていたのでうまく登れた。だから機会より2000ほど高く、標度も高い丸山なら、二週間後でも雪は残っているように思えるのだが、雨というのは晴れるより雪を早く溶かしてしまうから、どのような状態になっていくのか予測できなかった。

岐阜より北陸道のほうが東京の流れがよいと思われたので、福井県側から入ったのだが、国道158号線の石徹白への分岐に「道路工事のため車輛通行止」の看板があがっていて、仕方なく油坂峠を越えて長良川沿いの国道158号線へと転進した。もう一度本州の岩盤山脈を越峠へ登り返して石徹白の小盆地に入り、北へ曲がる。しばらく行くと路肩のなかにとてつもなく大きな杉がめっきり天を突いていて、その右の一畝

長い歴史を感じさせる広場を過ぎると、どこにでもあるような平凡な樹林のなかの道となり、展望を期待できる高みへと心ははやることとなった。



は季節を変えて何度も訪れてみたい魅力を持っている。

低い所に神社があった。ライトで照らされた境内には長い歴史を感じさせる厳めしさが漂っていた。



水場に咲くリュウキンカ

タムシバやオオカメノキの白い花が咲き乱れる道に麗しい早春の喜びにさざめき、明るい白緑の枝の重なりは賑やかから覚めた自然の勢いある生命に満ちあふれていた。足元には雨露をいっぱいつけたショウジョウバカマやオオバキスミレが点々と咲いていた。

神鳩ノ宮遊覧小屋に着いた。10人程で清兵となる小さな小屋に人の気配はなかった。ここまでだれにも会わなかったから



1980年峰より芦倉山

樹木が切れてナサ照の広がる地点に出た。そこが尾根の曲がり角の1680mのピークだった。この先丸山へは標高差にして50m程くだった。150m程登るとなるとはならない。すぐそこに見えているが、また純度100%のやぶに突入しなくてはならない。往復3時間以上はかかるだろう。今私たちが立っているナサ原ピークは広くて、位置を変えれば左も右

当然かも知れない。しかし、連休だから他のパーティもやってくるだろう。

昼食を済ませ、小屋の隅に荷物を置いて梯子ヶ峰に登ることにする。まだ12時だ。ゆっくりとした散策気分である。霧のなか、樹林がなくなると高山的な雰囲気となった。母御石を乗り越すと北に向きを変え、しばらくで霧のたれ込める山頂に着いた。展望はなかったが、天気は良い方向に向き始めているので、明日の丸山に期待をかけ、山頂のまわりのゴミを拾って下山した。

小屋に戻って水場の標識に従って東へくだった。サンカヨウがちらほら咲き、水場へおり立つとたぐさんのリュウキンカが漂らかな流れのなかに咲いていた。花好きの岩井さんも私も大喜びで、明日の日差しを期待してカメラを持って再び来ようとした。食事をつくっている間に他のパーティが入ってきて賑やかな小屋となった。

翌朝はすばらしい青空だった。小屋の外に出れば目の前には丸山の支尾根の向こうに芦倉山がどっかりと大きく重量感のある山体を見せ、小屋の裏に割れば右に母御石の峰とその右隣の梯子ヶ峰が雪

出を載せて近く高くそびえ、その左には雲海の上に日岸山・羅乃山・野伏ヶ岳・小白山が見渡せた。雪があまりにも少ないのは梯子ヶ峰に、雨上がりの朝の清々しい空気にしばし時を忘れてシャッターを何度も切った。

水場のリュウキンカに朝日は当たっているだろうかと思ひませ、水場へおりた。日差しを通した黄色の花びらと濃い黄緑色の葉が、まだ覚めやらない冷たい流れの上に浮かび上がっていた。

急いで朝食を済ませ、目的地の丸山へ行く身仕度をする。きのう登った道をひと登りした所が尾根の分岐。あたりを二度三度往復して切り分けを探してみるが全くない。身を投じるようにやぶに突入した。雪がほとんどないので純度100%のやぶこぎだった。

ひと登りすると高木帯になって少しは歩きやすくなった。木々の間から別山だけは白く光って遠大に見え、格別の美しさを放っていた。時折太い幹のブナ林に出会えたり、木々の間からタムシバの白い音が顔をのぞかせていたりして楽しい尾根歩きが続いた。赤布を要所に付けながら進むが、なかなか前進できなかった。

ていたが、時々ブナの被褥に光が当たったりして、なかなか味わいのある光景に出会えた。特異な形の龍教寺山や、たおやかに裾を広げた野伏ヶ岳が魅力的に見えた。(平成10年5月3日〜4日歩く)

▲コースタイム▼

右白白山登山口(2時間20分) 神鳩ノ宮遊覧小屋(3時間) 梯子ヶ峰往復 神鳩ノ宮遊覧小屋(5時間30分) 1680mのピーク往復(1時間30分) 登山口(地形図) 2万5千E2ノ線

昭文社「白山」

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (66人・80人)
- いずれもエアコンからアラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3983
(夜間・電話06(6916)0816・FAX06(6945)9044)

新緑の尾根をたどる

雨乞岳から御在所岳

鈴鹿

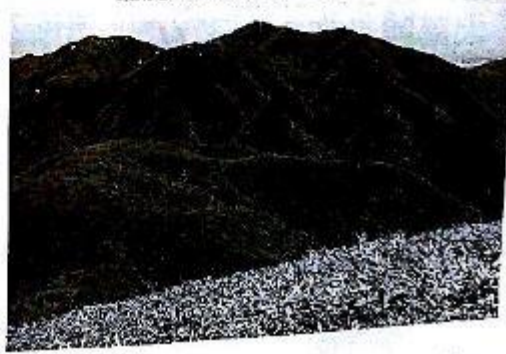
榊原計国

て初めて峠と呼ばれるのであり、そうではなければ単なる鞍部ではない。沢谷峠と呼ばれていた所も、過去には人の通る道があったはずだ。

沢谷の名はずでに戦前の名者「新飯近藤の山と谷」(昭和十六年発行)に「コクイ谷の本流から鞍部に至る部分を沢谷と称し、この鞍部は雨乞と御在所とをつなぐ尾根の最も低い処である。」と記されており、この文中の鞍部が沢谷峠を指すのは明らかである。ではその道が現在のどこを通過していたのかということになるのだが、これがまたはっきりとしない。「コクイ谷」の流れを右左に下って行くと炭焼小屋があり、その下流で道は

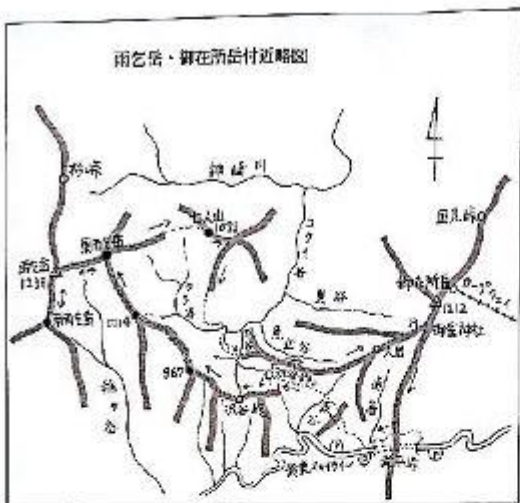
鈴鹿の沢谷峠といえ、現在一般的には、武平峠から雨乞岳へ向かうクラ谷登山道と郡界線が交わる地点とされている。ところが、西尾寿一氏は「鈴鹿の山と谷4」の中で、沢谷峠は沢谷がコクイ谷より分岐し、そのまま南にさかのぼって郡界線尾根とぶつかる地点だとした。地形図で確認してみると、たしかに沢谷の本流はクラ谷登山道と交わる地点で、登山道に沿って東へ向かうというよりもそのまま南へ向かっているとしたほうが自然な気がする。それが本流であるかということも沢谷峠を確定する手がかりとしては重要であろう。しかし、峠というものはあくまで人為的なもので、人が通っ

東雨乞から御在所岳・七人山を望む



谷と離れて右へ登り、尾根のコルを越して下ると、松尾川(野洲川)に面する山腹を巻く道があり、武平峠の鞍部下で大河原から登る峠道に合している。」との記述からでは、現在の登山道を指しているとも言えるし、過去においては西尾氏の言う「沢谷峠」を通過して峠道に出る道があったとも推測できるからだ。前置きが長くなったが、とにかく西尾

氏の言う「沢谷峠」を自分の目で確かめてみたいと思った。だが、貴重な休みの一日を沢谷峠の確認のためだけとなると、少々もったいない気がしてつい後回しになり時が過ぎていた。そんな時、岩野明氏が新ハイキング関西の40号に「沢谷峠から雨乞岳」と題して郡界線尾根をたどり、雨乞岳に登り着くコースを紹介されていたので、さっそく訪ねてみた。



武平峠を7時55分に出発。まずはクラ谷登山道を行き、登山道沿いの「沢谷峠」をめざす。登山道が郡界線尾根におちあたると、たしかにならなくなった。そして、たしかに峠と呼べない。しかし、時に峠を「マド」と、ある種の感傷をもって呼ぶことがある、残念ながらここにはそのような趣はない。ただ、登山道に絵地図という手法で多くの案内図をものにしておられる奥村光信さんによると、ここにはいつの頃からかは分からないが、少なくとも二十年前までは「沢谷峠」と書かれた道標が立っていたそうだ。またその頃には、郡界線尾根に沿って御在所岳への登山道もあったとのことだった。

ここより登山道を離れ、郡界線尾根に沿って雨乞岳をめざしたのだが、すぐにすばらしい新緑の二次林が広がっていた。ここなら武平峠から30分あまり、お弁当を持って新緑を楽しみに来るだけでも十分に価値があるひと休みして尾根をたどって行く、ちょっととしたピークに出

る。その端を90度左に曲がって行って行くと、目的の一つでもある、もう一方の「沢谷峠」に出る。

この鞍部の北側にもすがすがしい新緑の二次林が広がっていて、そのなかを谷がゆるやかに下っているさまはなかなかのものだが、南側は全面的に伐採されていて草原の斜面が露わになっている。残念ながら、私が思い描いていた峠の風情はなかった。眼前に堂々とそびえ立つ銀ヶ岳を眺めるにはすばらしい展望台だと見えるのだが、私がここに期待していたものは、少し違っていた。しばらくあたりを探索してみると、ここに道なり峠なりの痕跡を見出すことはできなかった。二次林の背後、植林、さらに伐採が繰り返された後では、たとえ昔は人の通った道があったとしても、今にそれを簡めることは不可能というものであろう。

「沢谷峠」を発ち、9時7分ピークをめざして尾根を登って行く。このあたりは道跡ははっきりと残っているのだが、雑木が道をおおっていて少々歩きづらい。9時7分ピークの尾根に登り着いてからは進路を右にとり、そして左にゆるやかにカーブを切りながら行って行く。徐々に



七人山の山頂部

にシクナゲが混じってくるのでますます歩きづらくなる。シクナゲというヤツは、歩きづらい地形に入ってくると強い打ちをかけるようにして現れ、あの強靱な曲がりくねった枝がまことに憎たらしく思えることがある。

ら谷へくだったり登ってきたりする登山者もあるのだろう。
1014峰ピークに向けて少し急な斜面を登りきると、ゆるやかな疎林のすてきな森が広がっていた。少し行くと、右からは小谷がゆるゆると上がってきていて、本当に気持ちのいい所だ。まだ芽吹き始めたばかりの、緑の小花のような新緑がまた美しい。下草もなく、水の確保も容易で、ここでテント泊でもしたらゆったりとしたすばらしい時を過ごせるだろう。「なんて、すてきな所だ」と思わず叫んでしまう。
ゆるやかな尾根の登りをたどって行き、最後ひと登りするとピーク台地に到着する。幹には赤のビニールテープが巻いてあり、1014峰ピークと書いてある。
これまでも所どころテープなり目印があったが「知る人ぞ知る」で、一部の人は登らされているようだ。ピークに着いたら右に折れ、少し行ってから左の尾根をくぐって行く。鞍部を通過し、ちょっとした尾根状の登りを行くが、すぐに踏み跡も消え、あとは急斜面をひたすら東雨乞岳の山頂をめざしてがんばる。
しばらくは下草もない二次林のなかを

行くが、徐々にササが現れる。やがてその林も消え、低木がまばらに生えるだけのササ海となると、あとは開けた山頂に向かってササをこいで行く。途中小さな広場に出て、後ろをふり返ると鈴鹿西部の山並みが大きく広がっていた。ササをもうひとこぎすると、東雨乞岳の山頂に出る。10時07分着。
東雨乞岳の展望は本峰より優れ、視界は360度だが、きょうは雨乞岳(1238峰)に低い雲がかかり、その山頂は確認できない。鉄ヶ岳方面も曇りがかりうすうすとしていた。だが雄大な展望には変わりなく、鈴鹿中部で最も高いこの山頂からの眺望は、まるで扇形の山々全てを従えているかのようだ。
本峰へ着くと大勢の人が休憩していた。ザックを置き、南雨乞岳まで様子を見に行く。道はササにおおわれていたが、踏み跡ははっきりしているで迷う心配はない。期待していたピークからの西方の展望は低い雲が立ちこめ、鐘向山を望むことはできなかったが、ササ原の奥ノ畑味くらいいまでは眺望できた。雨乞岳から奥ノ畑味を抜けて鐘向山へ向かう稜線はいつか歩いてみたいコースだ。



御在所岳から新緑の雨乞岳

山頂へ戻り、これから七人山を通過して群界線尾根をたどり、アカヤシオの咲く御在所岳をめざすことにした。雨乞岳11時14分着。雨乞岳から御在所岳へは地形的にはこの群界線尾根をたどるのが最短距離になるのだが、最低鞍部から御在所岳までは登山道として歩かれなくなっている。からずいぶん年月が経っているのか、どのようになっているのか楽しみだ。

東雨乞岳からいったん東の鞍部へくだってから七人山の山頂部をめざして登り返す。山頂部はどこがピークなのか判らない平坦な所だが、すがすがしい新緑の二次林が広がっていた。原生林のない鈴鹿において、この落ち着いた二次林こそ鈴鹿のすばらしさそのものであろう。
七人山からは南側にのびる小尾根を伝って、クラ谷沿いの登山道へおける。登山道はその少し先で本流と分かれて武平峠へ向かう。そして途中で沢谷と山合うことになる。
その地点の地形が実際どのようなになっているのか自分の目で確かめたかった。このあたりの地形はとて複雑だが、地形図をよく見ていると自分がどのあたりにいるのかが分かってくる。
クラ谷の支流を登りちよっとした乗越を越え、今度は沢谷の支流に入っていく。登山道が沢谷とぶつかる地点で確認してみると、それは地形図を見て予想していたものとは違っていた。沢谷本流はコライ谷と分かれてそのまま南に突き上げていくものだと思っていたが、実際には、ここで分かれて90度向きを変え東に向かう谷のほうにはるかに水量が多く、

どうみても沢谷の本流は東に向かうこちらの谷のようなのだ。
「沢谷峠はどこなのか」という答えがますます難しくなりました。感想もするが、結局私は「昔の沢谷峠は今の所とは違う場所であった可能性が高いが、すくなくとも現在では登山道の通る乗越を指す」としてよいのではないかと思う。
こより左側の山腹をはい登り、群界線尾根の末梢から尾根をたどって御在所岳(1238峰)へ向かう。沢谷、12時00分着。尾根上にはたしかに昔の道があったことをうかがい知ることができ、今は木々が立ち込めとても歩きづらい。展望もないこの尾根をただひたすら尾根筋に沿って登る。本当にいやになっくる。再開30分、やっと展望のきく小さな広場に出た。山頂よりもまだ100峰ばかり低いところの鐘ヶ岳はまことにりっぱだ。山を眺めるとき、その山の山頂くらいまたはそれ以上の高さで見るとは、少し低いぐらいの所からの眺めのほうが良いようだ。
こころあたりまで来ると尾根筋も地形も消え、低木とササのなかにただひたすらこいで行くしかない。時々出くわすア

新ハイキング選書

一等三角点は、山のダイヤモンドだ。それぞれの山の上で輝いている。新ハイキング社刊行のシリーズ3冊で一等三角点の山280座がそろそろそろそろ。全巻そろえたい

◀第9巻▶ 一等三角点の名山100

安藤正義/市川静子/多摩雪雄
/富田弘平/松本浩 共著
B 6判・336頁・定価1632円(税込)
100山すべてコース図と写真入りで实用性が高い、新ハイキング社の一等三角点の本は、どれを見ても良い山が多い

◀第18巻▶ 一等三角点の名山と秘境

安藤正義/多摩雪雄/富田弘平
/松本浩 共著
A 5判・340頁・定価1835円(税込)
全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い

◀第20巻▶ 一等三角点の山々

山口妙子/横山隆/高柳生雄
/川越はじめ/岡村英邦 共著
A 5判・310頁・定価1880円(税込)
一等三角点の山シリーズ、280山の総索引と高差順一等三角点100座が付いている。80座を紹介、有名な山が多い

振替 00130-9-146915
(送料当社負担)

発行所 **新ハイキング社**
〒144-0023 東京都北区滝野川17-6-13
TEL/FAX 03-3915-8110

カヤシオが心をなごませてくれる。10分の猛衝で大岩に出くわしたので登ってみると、新緑のなかに満開のアカヤシオが広がる最高の展望台であった。アカヤシオ展望の大岩に13時50分着、御在所岳のアカヤシオはつとに知られたところではあるが、山頂の噴煙がいやでなかなか足を運ぶ気分になれなかった。けれど、このようにきれいなものだと知らなかった。もう御岳神社の建物の一部が間近に見える所だ。しかし、やぶを1000歩ばかりくぐったこのあたりにはだれもいない。物好きがやぶこぎ登山者にもたまに

はいいことがあるものだ。
大岩の上で横になり、きょう一日の山歩きをふり振り返りながら、新緑のなかに、アカヤシオが点々と咲いている大展望をたっぷりと楽しんだ。あとは御在所岳の最高点を踏んで武平峠へ戻ることにしよう。(平成10年4月20日歩く)

△コースタイムW文中を参照
△地形図V2万5千1御在所岳

○このコースを歩くのであれば、新緑をたどりながら雨乞祈へ訪れるのと、御在所

所岳のアカヤシオを楽しむに行くのとに分けて歩くのがよいだろう。
○下から郡界線尾根をたどって御在所岳へ登ってもあまり意味がないので、アカヤシオ展望の大岩に行くには、御岳神社の裏からくぐっていくのがよい。ただし、まともな道はないのでやぶこぎ登山のベテランか、そのような人と同行すること。
○沢谷峠もしくは昔の登山道について、何らかの情報はまたはご意見のある方は、練原まで御一報いただければありがたいです。〒475-10846 半田市栄町2の2 練原計国まで

花を求めて

利尻山

私たち夫婦が利尻山に登ったのは昨年6月の末だった。花にはすこし時期が早かったのかも知れない。しかし、花の知識が充分でない私にとっては、ほどほどの数の花と出会え、かえって良かったのかも知れない。リンドウとキキョウの区別さえつきかねる花オシチの私を妻はよく笑う。そして、覚えた後から追っかけてくる老年ゆえの忘却。「ええ」といって口ごもる。登山道に花が多くあり過ぎても困るのだ。というわけで、今回の利尻登山は私をほどほどに楽しませてくれた。

6月末、私たちは梅雨前線を引き連れて関西から北海道まで来てしまったらし

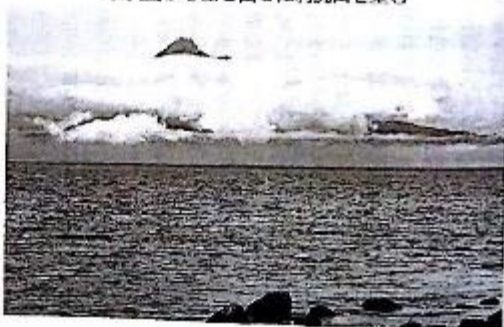
北川浩

北海道

い。利尻富士の姿は羽幌や手盛の海岸線を走っている時も、稚内からもフェリーの中からも、船に到着してからも、ずっと雨雲のなかであって見えすじまいであった。仕方なく北麓野営場では晴れ待ちの日が続いた。到着日は雨、翌日は雨は止んだが山は雲のなか、3日目ようやく山頂近くの雲だけになった。昨日よりはましだということを出発した。

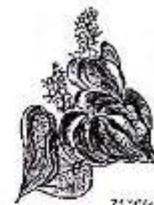
晴れを待つ間に利尻山の裾野にあるペン山に花を求めて行ってみた。テントを張っていた北麓野営場から2時間ほどの往復だが、雨で薄暗い林床にゴゼンタチバナの白く小さな花が何百、何千と咲いていて、そこだけが明るくなっていて、

礼文島から望出した利尻山を望む



カンバやハンノキ林の足元にたった一輪だったが、アイヌタチンボスミレが紫もあざやかにおじぎをしていた。ペン山の頂上は砂礫の裸地だった。その右コロの陰にイワキキョウが雨風に震えていた。

6月の末ともなるこのあたりは午前3時には明るくなり、小鳥もさえずります。目覚めて外に出てみれば、まだ4時前だというのに林のなかを登って行く人



「リシリヒナゲシは？」とあたりを見廻すが見当たらず。それらしい葉はあるのだが花が咲いていないから、何とも言えない。この島だけの花。日本でただここのだけに自生しているケシの花の一種だが、とうとうお目にかかれなかった。

九合目で咲いているのを昨年見たという人がいる。あの固定ロープの崖だ。崖が危ない所に咲いていることが多いというから探すのも大変だろうと、あつさりあきらめた。

ロソク岩の向こうに杏形の港が見える。海も港も急直下に見える。雲が走るがこちらのほうは風上で陽の光も強く、北側の鯨油のほうとは大違いだ。テン

立つ世々ちの道に出る。道の両側は急斜面の上で、お花畑になっている。腰を下ろすのも大変

ト場の北麓野営場は鯨泊側、雲がたれ込めていて。だが風上の杏形側は快晴だ。その向こう、海のかたに山並みが見える。暑寒別だという人がいる。さらに左手にもっと大きな山並みが見える。大雪山系だろうか。暗れば北側にサハリンが見えるという。

私たちは来た道を引き返した。固定ロープを伝い麓まで下った。九合目にくだり着いて手袋を見て二人ともガッカリである。手袋は擦り切れていた。テントに帰り着いたのが16時前、それから撤収にかかって下山した。北麓野営場から鯨泊の港へくだっている立派な道の途中に立派な温泉施設がある。利尻富士町立の浴場だ。ここでひと風呂あびてから杏形へ向かった。

杏形森林公園のテント場にテントを張りなおした時は19時30分を過ぎていた。それでも、北の果ての島はまだ明るかった。

「ツツピン、ツツピン、ツツピン、ツツピン、ツツピン、ツツピン、ツツピン、ツツピン」と小島のさえずりだ。テントの朝はたくさんの小鳥たちのさえずりで目覚めたが、そのなかでもひときわ耳につくさえずり

だ。ホトトギスの節まわしとそっくりなのだ。しかしホトトギスのような大河でも呼び声でもない。まさしく小鳥のさえずりである。朝早く成みのなかから聞こえてくるかわいいうわ。利尻でもその後訪ねた札文でも鳴いていた。夕暮れ時にも鳴いていたので姿を探したが、とうとう見つけれなかった。今回の山脈の思い出の由だった。

あさえずりを思いたすと利尻の林が目に浮かんでくる。

(平成10年6月29日歩く)

▲コースタイム▼

北麓野営場(3時間)長官山(1時間30分)利尻山(1時間)長官山(2時間)

北麓野営場

▲地形図▼2万5千1号鯨泊・仙住寺

▲参考文献▼

- 1 『夏山ガイドNo.6』(北海道新聞社刊)
- 2 『アルペンガイドNo.1』(山と溪谷社刊)
- 3 『利尻一山の島・花の道』(北海道新聞社刊) 宮本誠一 著

特に3はおすすめ、利尻登山には最速の花や自然のガイドになります。

連載

比良を歩く ⑩

伊藤新道から白滝山・蓬莱山

秦 康 夫

今回は白滝山(1022m)がメインだが、ついでに津廻りと夫婦滝の鑑賞、それに蓬莱山からの展望も楽しもうという、ちょっと欲張りな計画になった。

スタート地点は前回と同じ、京都バスで坊村へ。バス停近くの地主神社の境内で人員点呼とコース説明を済ませ、明三谷沿いの林道を牛コバ方面に向かう。

くねくね曲がりながら谷に近づいたり離れたり、この登り一方の林道歩きは長くて退屈だ。幸い曇りがちなので少し助かるが、10分程歩いただけで早くも汗が吹き出してきた。修験者のための護摩堂の前を通り、三の滝降り口から少し行った所の水場で一服。手を冷やし、喉をうる

るおし、水筒を満タンにする。

歩き始めてから30分ほどで、白滝山への登り口、伊藤新道出口に着いた。ゆるやかな林道の登りと違って、ここからはいまなり急登が始まる。杉の植林帯のなか、しばらくの辛抱で、道はいったん谷筋にくだるが、ここからの谷沿いの道もなかなか急坂である。伊藤新道に入ってまだ20分も経っていないが、息を整えるため、水際でひと休みすることにしよう。この谷はワサビ谷という名が付いているので、もしやと思ってワサビを探すが、それが、それらしきものは全然見当たらなかったようだ。

冷たい水で顔を洗い、生気を取り返し

オトワ池

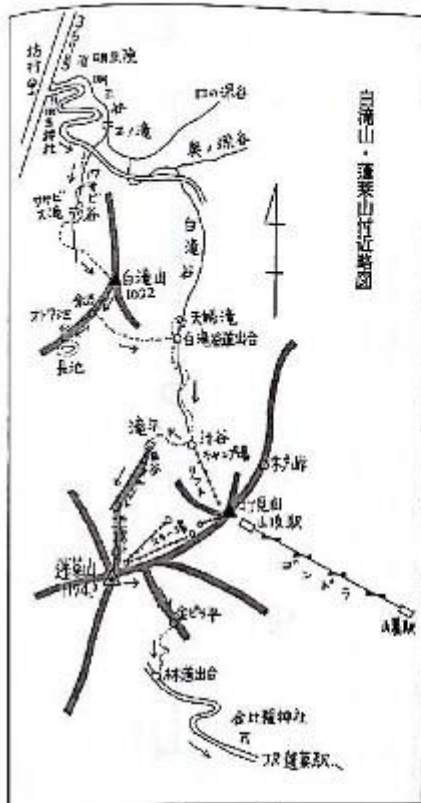


て出発。やわらかい土の上には、猪の足跡がくっきり残り、あちこちで土が掘り返されている。谷筋を右岸に渡って間もなく滝に出合った。登山地図によると、ワサビ大滝というそうだが、頭上はるか、緑のトンネルから落ちてくる水は、流石の滝である。滝にも負けぬ大きなトチの木があり、ここでゆっくり休憩。

滝の左を大きく捲いて、滝の落ち口の

上に出る。登山地区では右岸をそのまま登るよう記されているが、道は沢を横切って左岸に渡り、もう一つ細い沢を渡って杉林のなかに入り、歩いて行く。植林帯のなか、ジグザグの登りはぐるっと南から東方向に廻り、ワサビ谷の本流と思われる沢を渡り返すと、道は沢筋を離れる。

ここからの登りはしんどかった。高度差にして300mほどと急坂が続く。途中、何度か休憩し、補給した水分が全部汗になって出てしまったところ、やっと稜線に出た。ワサビ大滝から約1時間かかった。



ことになる。

なだらかな道はありがたい。足の運びも軽やかになり、ササの小道を歩いて、5分ほどで白滝山に着いた。1000m付近だが顕著なピークはなく、標識がなければ迷ってしまってもいい。

風もきかないので、記念写真を撮っただけですぐ出発。南に向かってどんどんくぐる。ほるか左前方に、午後登る予定の蓮葉山が見えてきた。10分弱で大滝への分岐に降り立ち、ザックを置いて池巡りに出かけることにした。

分岐のすぐ下がオトワ池、水草の茂る静かな池である。次に長池に向かう。地図によると、途中にカシラコ池とスキヤ池があるようだが、見当たらなかった。道から離れているのか、あるいは草に隠れてしまっているのか。

長池はまわりを一周するとよく分かるが、なるほど細長い池だ。オトワ池よりずっとスケールは大きい。ほとんど水草におおわれて、水面が露出しているのは真ん中の5分の1くらいである。所どころきらりと光るので水があるのに気づくが、うっかり歩いてしまうと、そのまま池に踏み込んで行きそうである。

分岐まで引き返す途中、めずらしく小さな赤マムシにお目にかかり、マムシ捕りの名人、Mさんの出番となった。マムシも覚悟を決めたらしらしく、ふてくされてトゲロを巻いていたが、お盆も近いことでもあり、さすがのMさんも慈悲心で、「大きくなって、来年また出て来いよ」と、意味深長な言葉をかけると、マムシは鎌首をもたげてキョトンとしていた。

35分くらいかかって池巡りを済ませ、先程の分岐から、ニシヤ谷を大滝滝に向かう。始めは歩きやすい道だが、次第に

石畳じりのコロコロ道に変わり、そのうち道に水が流れ出してくる。道と水路が同一である。靴をドロドロにして、やっと白滝谷の登山道に出た。

あたりが異様に騒々しい。一番に登山者があふれている。滝見物を案内する大きな声も聞こえてくる。何事かと覗いてみると私鉄主催のハイキングで、名古屋からバス四台を連ねてやってきたとのこと。

大滝池は、登山道から数分で滝道近くまで降りることができる。水量も多いが、とにかく轟音がすさまじい。間近に立つとさすがに圧倒されるような迫力である。

滝見物を終え、水蒸気の岩場でゆっくり昼食をとってから、白滝谷のハイキング道を汁谷に向かう。あまりにも人が多い



大滝池

ので緊張気分は台無しだが、白滝谷に沿って付けられた道はよく整備されている。危険箇所には木橋があり、石畳の道まであって、子供連れでも安心して歩けるハイキングコースである。

汁谷キャンプ場から蓮葉山へは、どのルートも歩いてもたっぶり1時間以上かかるが、きょうはちよっと楽をして、滝平からのリフトを利用することにした。蓮葉山への白谷リフト営業中の掲示を確認し、石段を3分ほど登ってたらだらくだと、滝平の白谷第一リフトのりばに出る。切符は発行せず、現金払いで280円。

この新しいペアリフトは快適だった。支柱を通過する時、普通はガラガラガラとやかましい音を立てるが、これはほとんど騒音が無い。前後の人と案に話ができるくらいである。ホーホケキョと鳴くウグイスの声を聞きながら、のんびりとリフトに揺られて行くのもなかなかおつなものだ。あとで聞くと、昨春秋に架け替えられた最新型だとのこと。

10分弱で乗り継ぎの白谷第一リフトのりばに着いた。こちらのほうはだいぶ距離が短い。蓮葉山の頂上がすぐ上に見える

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの合見店で販売します。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ



蓮葉山山頂にて

ている。ここからは歩いて登ろうか、と提案したがだれも賛成しない。このリフトは200円。左に琵琶湖を望み、ふり返ると武奈ヶ岳・コヤマノ岳・カラ岳・シヤカ岳。ゆっくり眺めている間もなく、あっさりとして一等三角点、蓮葉山(1174.3m)の頂上に着いてしまった。

微風が心地よい。それぞれ芝生の上に座り込んだり、寝ころんだり。グループの一人がクーラーボックスに入れて持ってきた冷えた西風のスライスを食べたりと、山の上でこんなのにのんびりしたのは久しぶりだ。あまり気分がよいので知らぬ間

に30分ほどが過ぎてしまい、あわてて下山にかかる。

ゲレンデの隅の端、グラス・スキー場の横を渡って、3、4分で金ピラ峠へのくだり道に入った。琵琶湖方面がよく見えるが、間もなく木立にさえぎられて展望はなくなる。その代わり道の両側に乱れ咲く魚群やかな花々が目を惹かせてくれる。白いトリアシシヨリマ、赤いシモツケソウの花がどこまでも続くなか、所どころ大きな弁の失色の花が目につく。フシグロセンノウというそうだ。

30分ほど歩いて金ピラ峠。左はゴンドラのりばのさんろく駅に向かう屋根道。右の谷道に入る。石がゴロゴロして少し歩みにくい。石が急坂ではない。くねくねと曲がりながら、どこまでもくだけて行く。直径1mほどの大きな杉が現れ、谷の水音が高くなってやっとならぬ。眼下はるか遠くに琵琶湖を見下ろしながら、あとは、暑くて長い林道をひたすら歩くのみである。

途中、金比羅大権現にお参りしたのち道の左手に湧き水を見つけたが、この水はまるで雪渓から流れ出てきたように冷たかった。バンダナを浸して冷水の滴る

まま顔に巻くと、かき氷を食べたときのように頭がじゅんとして、身体中に冷気が込みこんでゆくような感じがする。

林道に出てから、1時間10分ほどかかってやっとならぬ蓮葉山に到着し、ここで解放した。

帰りの車中では、伊藤新道の登りのきつかったことと、それと対照的に、リフトの快適だったことがもっぱらの話題であった。

(京都北山グループ例会・平成10年6月2日歩く)

▲コースタイム▼
坊村(30分)伊藤新道出合(35分)ワサビ大滝(1時間)白流山(10分)夫婦滝への分岐(15分)長池(15分)夫婦滝への分岐(25分)夫婦滝(50分)汁谷キャンプ場(10分)滝平・白谷第一リフトのりば(リフト乗り継ぎ15分)蓮葉山(25分)金ピラ峠(30分)林道出合(30分)金比羅神社(40分)J.R.蓮葉駅
△地形図▼
2万5千1:花背・比良山
昭文社「比良山系」
山と溪谷社「比良・北山東部」

〈山のレポート〉

一等三角点百名山

稲葉克巳

山に登り始めた頃は頂上に立ったとき、「あ、三角点があった」という程度で、どの山にどの三角点があるのか皆自分からなかった。



赤石岳(一等三角点)にて
新ハイキングに加入して、一等三角点探訪のグループに積極的に参加するようになる。Tリーグ

の教えもあって、三角点のことが徐々に分かってくるようになってきた。

20万図の中の△は一等三角点と二等三角点を表し、5万図では三等三角点が増え、2万5千図では四等三角点までが表示されていることも分かった。

参加するうちにトップリーグを仰せつかるようになり、一等三角点標石を探すことに興味をわいてきた。それで、一等三角点を積極的に登ってみようと考えた。

そのうち、すべての一等三角点に登ろうという人、木点だけに登ろうという人、500m以上または1000m以上の一等三角点に登ろうという人など、登る目

的が人によってさまざまであることも分かってきた。

そこで、私は「一等三角点百名山」(二等三角点研究会選定)を第一の目的として登ってみようと考えた。

平成10年10月に、解禁になった雲仙普賢岳に登って「一等三角点百名山」を完了したので、「二等三角点百名山」のことを紹介してみたいと思った。

【北海道】(10座)
利尻長岑山・②天塩岳・③霧峰別岳・④根岳・⑤トムラウシ・⑥夕霧岳・⑦後方主峰山・⑧カムイエクウチカウシ・⑨磯賀山・富良野岳

【東北】(15座)
①八甲田大岳・②岩木山・③白神岳・④早池峰山・⑤岩手山・⑥月山・⑦五葉山・⑧海七郎山・⑨秋田駒ヶ岳・⑩栗駒山・⑪森吉山・⑫雄石岳・⑬以東岳・⑭下屏風岳・⑮博士山

【関東】(4座)
①飯豊山・②越後駒ヶ岳・③南場山・④浅草岳

【会津】(2座)
①会津駒ヶ岳・②七ヶ岳

- 【現象・日光】(3座)
- ①三木坊岳・①男体山・③雲裳丸山
- 【上越】(4座)
- ①花嶺山(對引岳)・①ノ合岳・①武尊山・赤城地蔵岳
- 【上信】(2座)
- ②岩菅山・東麓ノ登山
- 【奥秩父】(3座)
- ①高取山・③国師岳・小金沢黒岳
- 【丹沢・富士】(3座)
- ①丹沢山・①万二郎岳・②毛無山
- 【八ヶ岳】(3座)
- ①赤岳・②薬科山・武石峰
- 【南アルプス】(4座)
- ①甲斐駒ヶ岳・①赤石岳・②大無間山・③黒法蓮岳
- 【中央アルプス】(4座)
- ①木曾御嶽山・①木曾駒ヶ岳・①恵那山・③指古木山
- 【頸城】(1座)
- ①妙高山
- 【北アルプス】(6座)
- ①白馬岳・雄山・前穂高岳・前峯念岳・①乗鞍刻ヶ峰・②鉢盛山
- 【加越濃越】(5座)
- ①白山御前岳・①新屋岳・②熊野白山

- ③大笠山・御前岳
- 【近畿】(7座)
- ①伊吹山・①日出ヶ岳・湧出岳・高峯山・②大峰駅地ヶ岳・③山上ヶ岳・冷水嶺
- 【中国】(6座)
- ②氷ノ山・②三瓶山・③道後山・矢筈ヶ山・冠山・十神ヶ峰
- 【四国】(5座)
- ①船山・②笹ヶ峰・二ノ森・工石山・不入山
- 【九州】(13座)
- ①久住山・①祖母山・①韓岡岳・①宮之浦岳・②英彦山・②雲仙普賢岳・②由布岳・②市房山・②大崩山・②尾糸山・③國見岳・天山・阿蘇島鶴ヶ岳
- ①は百名山、②は二名山、③は三百名山を示している。

ドブツが出てくるので、その説明を必要としないと思うが、幾つかの山については若干触れておきたいと思う。

カマイエクウチカウシ
この山で注意することは、徒渉が多いことと雪沢のことだ。

雪解け水が多量に流れているときと、降雨直後は水量が多くて徒渉が困難だ。伝え聞くところによると、流れの状況によっては地元のガイドでも登頂できないということだ。

それと、八ノ沢カールの上部に雪渓が残っていると、雪が積まっていたアイゼンとピッケルが必要になる。

条件が良くて健脚揃いならば、七ノ沢出合から日帰りも可能のようだが、種々の条件によっては、八ノ沢出合での宿泊も考える必要がある。

御前岳
一等三角点百名山のガイドブックとは状況が変わっていて、あまり利用できない。

平成9年現在は三ノ沢出合まで林道がのびていて、30分ほど歩く時間が短縮されている。林道の終点には何台か駐車でき

登山口にはテープが下がっているが、その先にはよりどころになるものがない。三ノ沢と奥御前谷の合流点に出張っている尾根に取りつくが、徒渉点は沢の状況で探るしかない。

しばらく尾根を登ると踏み跡が出てくるが、1583坪鮮あたりから踏み跡も定かではなくなってくる。やぶは年毎にひどくなくなっていくようだ。

大笠山
ブナオ峠を早朝に発せば、所要時間は12時間なので、日帰りが可能だ。ただし、ブナオ峠に迷泊することになる。

注意点は、ブナオ峠まで入れる時期が、その年の雪解けの状況によって違うので、調べてから出かける必要がある。

山上ヶ岳
現在、唯一の女人禁制の山だ。平成10年の夜、信徒によって女人禁制を解くかどうかの議論がなされたとか。その結果は、女性信徒の反対で女人禁制を続けるとの結論になったよう。解禁は先送りされた。

「女人結界」の門柱は登山道のすべてにあって女性の登頂を阻んでいるが、た

だつ、「女人結界」のないルートがある。上多古からのルートだ。このルートの難点は途中分りにくい箇所があることと、下山時に「女人結界」を潜らなければならぬことだ。上多古からの往復登山では時間切れになる恐れがある。

二ノ森・不入山
ササやぶ・タケやぶがひどいことを念頭に置いておく必要がある。

「一等三角点百名山」を完登して、深田氏が選定した「日本百名山」とどちらが難しいか比較してみた。

三百名山を志せば74座は登頂できるので、残りは26座ということになり、難しいのは御前岳だけだと思っ。

しかし、三百名山を目標にしないで「等三角点百名山」を志せば、ガイドブックは少ないし、ルートのはっきりしない山(御前岳、ルートの難しい山(カムエク・大崩山)、アプローチの長い山(御法岳、冷水湖)、ルートの長い山(岩別岳・大崩山)等があることを考えると、「一等三角点百名山」のほうがやや難しいのではないかなという感じがする。

【この花・この草】
シロバナムシヨケギク
(*Chrysanthemum leucorhizon*)
キク科

夕方、緑色のブタの紋遣りか立ちのほろ一筋の白煙……日本の夏の風物詩ともいえる「蚊取線香」。この線香は殺虫剤の液体入りボトルを器用にセットするものが主流になってきました。しかし、アウター・レジスター時、電源の要らない所が受けて、腰につける携帯用の器具も販売され、見直されています。

この殺虫線香の原料となっているのがシロバナムシヨケギクで、中国名は「除穢菊」。バルカン半島原産で、双子葉植物科の花類の多年生草本。花期は晩春(初夏で、直径3〜5cmの頭状花序をつけます。開花期に全開した頭花を採取し、乾燥または火力乾燥させます。精油成分のエントリン、ロ・シネリン、γ-ピネンが殺虫作用が認められます。

人間や家畜には殆ど毒性を示しません。昆虫類には強力な運動神経麻痺作用を示します。作用は速効性がありますが、自然分では容易に分解して毒性を失うことが特徴です。

この量はすくすくシロバナムシヨケギク、薬しんでみては如何でしょうか。④

薩南硫黄島から東北・北海道の山

坂井久光

硫黄島



昭和62年3月1日、会員のF氏と二人で京都を出発。大阪南港からフェリーで鹿児島に行き、二島村役場（鹿児島市にある）で資料をもらい一泊した。3日、三島丸で竹島を経て硫黄島に着いた。この島は歴史に名高く、船・俊寛が島流しになった行名・鬼界ヶ島である。九州四大カルデラの一つ、硫黄カルデラで、前年に訪ねた黒島や竹島は外輪山に当たり、硫黄島（一等・703m）はその中央火口丘である。今でも噴煙を上げ、そのため湾内は黄色に濁っていて、黄海島と名付けられたが、のちに硫黄島となったという。小笠原列島の戦地であった硫黄島と区別して薩南硫黄島とした。

この島の探訪には登山とは別に二つの目的があった。この島にヤマハが建てたホタル足摺や飛行場があり、放し飼いの孔雀が野花生花しているのを知り、その生態と卵を食べてみたいことと、安徳帝の遺跡調査であった。

上陸して本田荘に投宿。鹿児島TVの一行と俊寛の墓に詣で、37歳でなくなつた無念さを偲んだ。自然石の輪状の墓の中央に安徳帝が、次いで平温盛一族の墓があった。三島秘史や『あゝ北山三因』によると、壇ノ浦で死んだのは平治姫？歳であったとか。神器を携えて薩南の一孤島薩南島へ七日目にたどり着いた平家一族は、トカラ・奄美大島・屋久島等を

制して帝に貢献し、のち島津家に支配される。その子孫は長浜家として二十三代目が、南島オパール勝社長となって現在に至っている。「勝者の歴史には疑問があり敗者の歴史には真実がある」という学者の説もあり興味深い話だ。

孔雀はたくさんいたが、本田氏の話によると4、5月が繁殖期で今頃の卵はあまりおいしいものではないとのこと。4

日、登山口まで本田氏に送ってもらい硫黄島に登った。亜硫酸ガスが噴出している気孔が多く、タオルを口に当てて黒御形の一等三角点を発見した。二人で万歳三唱してから東温泉へ下山して雄大な太平洋を見晴らす沿の湯船に浸り、決壊を叫んだ。その後畑を荒らす孔雀が島民に捕えられて、小学校の裏手に囲われているのを見に行った。金細越しに何羽もの同族が友かの孔雀だろうか、面会に来ており、近づくと威の姿に飛び上がった。また、怪の大臣の墓もあり、その悲話に涙した。

翌日、一人で屋久島に渡り、モッコロム岳に登って国民宿舎で一泊した。翌日は志戸子岳に登ったが、予想以上に時間がかかり、登頂できず、タクシードの待ち合わせ時間に遅れて下山したので、40分の時間料3000円を払われた。もう一泊して鹿児島経由で帰京した。

同年5月3日、南陽市（山形県）の斎藤新一氏からの誘いをうけ、東北の山旅に出た。4日、南陽市の赤湯駅で落ち合い、国道13号線で米沢市に出てから東へ行き、旧国道との分岐の磐石塚入口で駐車した。ニンソウやカタクリの群生地

を経て奥子山（一等・1216m）へ登った。北に会津駒・半田山、西に三休山・飯沼澤峠が白銀の装いも美しく、南に吾妻連峰が展開できた。昼食休憩後、南の硫黄山（一等・2022m）も登って下山した。その夜は宮内の斎藤宅に泊まった。

翌5日、彼の友人の飯野吉平氏と二人で合地峠（二等・1293m）へ登った。途中で「川西山の合地の神懸・古山両氏とも合流し、二台の車で明神平峠へ。そこで明食弁当をとり、いったん沢へくだり、沢をつめ支屋根に取りついて五葉松の茂るピークでひと休み。地図を眺めながら残雪の沢や尾根をたどって8等三角点947m時に着き、雪の中から標石を振り出し確認した。そこからは尾根筋のやぶを避けて沢を深めて独標1051mを通過。なおも登りくだりを繰り返してようやく三休山（三等・1258m）へ登頂した。ここに荷をデポして合地峠をドストンすることにした。烈風が吹き寄せられ噴霧が激しく寒冷前線の通過に遭ったが、雪崩・クレバスの危険もなから無事登頂することができた。道なき秘峰へ登頂できた喜びを祝し、小磯後三休山へ戻り往路を下山した。なお、

この山は平成7年7月10日、会員の山形氏と木地山ダム3、南の東尾根を、秋村さんの残したテープを頼りに再行した。また、飯野氏は私の三角点病が伝染したのか、山形県の1等三角点を全部登って「山を下る」という本を出版された。写真家でもあり、当時は盛岡の所長としておられた。

翌6日、西三葉山に登り、米沢で泊まった。7日は括川の友人斎藤弘氏宅を訪問して泊めてもらった。翌8日付近を探訪し、9日帰京した。

同年6月4日、夜出発して5日に東京へ高崎へ桐生と乗り継いで足尾線で通洞へ。送迎バスで国民宿舎「かじか荘」へ入った。春の「二等三角点研究会」例会の翌日丸山（一等・1878m）の前日に、近くの百名山岩海山に登るためであった。一番は昭和40年頃まで栄えていた三大嶺山の一つ、足尾嶺山があつて、往時は一万人が住んでいたという。歩いて「灰中山荘」に行き一泊した。嵐の夕暮の二階建ての山荘で、寝具のみの一泊1500円を嶺山平の管理事務所に支払う。夜中腹痛を聞く。翌6日4時25分出発。庚申山の岩峰では幾多の神仏を拝み、コウソ

ソウワ(食邑産物で当地の特産)の群生するなか、1901年時を登って、さらに奥の皇海山へは岩場や難所を踏み越え難走のすえ登山できた。2144.4の2等三角点があり、展望はあまり良くない。小倉後、龜山へ12時に到着した。昼食休憩をとり、六林班峠を経て庚申山から下山し、16時山荘着。かじか荘へは17時30分に着いた。すでに会員多数が到着しており、盛大に晩会を催し就寝した。

翌7日、三台の車で出発。バラ谷林道を走り峠の登山口で駐車。一週元気に出発し、途中の水場をぬい、塔の沢林道からの道と合し、小丸山群峰で婆娑丸山へ登頂した。万葉を唱し、小倉後往路を下山した。同年6月30日から北海道の山旅に出発した。舞鶴からのフェリーで7月2日小樽到着。朝食後、点名霊苑山(一等・7355)を登るためタクシーに乗った。毛無峠の先の林道登山口で降りてくれた。どうも妙なのでよく見ると地図とは別の毛無山と判かった。困っているとき車が来たので、訳を話してヒッチすべく、隣村川林道の奥の道止めのある所まで送ってくれた。親切な学生でこの山は遠藤山だ

と教えてくれた。お陰で切り崩きの山道を登り、天狗山スキー場からの縦線に出た。道端にはハクサンチドリの花が咲き、登っていくと遠藤山の標識があった。三差路の所では林道が上がっていた。小倉後、天狗山群峰でスキー場にくんだり、ケーブルで下山した。バスで小樽駅に出て中央バスで岩内へ。乗り換えて雷鳴温泉の「朝日旅館」で一泊した。

翌3日、今西ルートで看板が立つ山道を登って雷鳴温泉(一等・11668)へ。展望広大で羊蹄山・余別岳の残雪姿が美しく周辺の山岳も見えた。一帯にはハクサンチドリ・エゾキスゲ・シナノキンバイなどが咲き乱れていた。下山後、バスで岩内へ行き旅館で一泊した。翌4日は近くの母衣月山(一等・5034)を牧場から登った。山頂は平坦で展望広大だった。下山後、バスで札幌に戻りカプセルホテルで泊まった。翌5日、バスで登別温泉へ行き、クッタラ湖までヒッチして霜太郎山(一等・5034)へ。イタドリやウドなど、そしてネマガリダケのやぶもあり、コブを三つ越えて山頂へ登った。ウドの下に苦むした一等の標石があり、苦勞の甲斐があった。近々に

登った跡もなかったが、ヒゲマにも会わずに下山できた。翌6日、札幌市に戻り同窓の森田氏を武長ビルに訪ねた。その後、深川市の友人田中利一氏を訪れ一泊した。翌7日は雨で霧濃。8日、JRで上富良野駅へ行き、タクシーで奈江に入った。川沿いに林道をつめて川を通行し、最後はイテゴ・イタドリの茂るやぶを漕いで天登の那英山(一等・8100)に登った。ガスがかかり声別居らしいのが見えた。ただけだった。タクシーで上富良野駅に戻り、深川へ帰って泊まった。翌9日早朝出発。岩見沢駅からバスで夕張へ。タクシーを呼んで峠へ行き、三角山(一等・7700)へ登った。下山後、ヒッチして夕張から大夕張へ。ここでは伊藤商店主人の親切で山小屋まで送ってもらい一泊した。この日は昔アイヌが古座で雷鳥を呼ぶのを知り、苦勞して一年ほどかかって覚え、たくさんの雷鳥を射て儲けたとか、めずらしい話をしてくれた。

その後、10日に夕張岳(一等・16668)へ、12日に狩場山(一等・15200)へ、13日に樽原山(一等・11088)へ、14日に砂原岳(一等・11113)など北海道の山に登って帰京した。(次号へつづく)

丹波路を歩く 清坂街道

(JR亀岡駅〜JR茨木駅)

コースとコースタイム ①JR亀岡駅(バス40分)〜②東山(35分)〜③甘藷寺(35分)〜④東山(35分)〜⑤清坂(1時間10分)〜⑥山崎(1時間10分)〜⑦山崎(1時間10分)〜⑧山崎(1時間10分)〜⑨山崎(1時間10分)〜⑩山崎(1時間10分)〜⑪山崎(1時間10分)〜⑫山崎(1時間10分)〜⑬山崎(1時間10分)〜⑭山崎(1時間10分)〜⑮山崎(1時間10分)〜⑯山崎(1時間10分)〜⑰山崎(1時間10分)〜⑱山崎(1時間10分)〜⑲山崎(1時間10分)〜⑳山崎(1時間10分)〜㉑山崎(1時間10分)〜㉒山崎(1時間10分)〜㉓山崎(1時間10分)〜㉔山崎(1時間10分)〜㉕山崎(1時間10分)〜㉖山崎(1時間10分)〜㉗山崎(1時間10分)〜㉘山崎(1時間10分)〜㉙山崎(1時間10分)〜㉚山崎(1時間10分)〜㉛山崎(1時間10分)〜㉜山崎(1時間10分)〜㉝山崎(1時間10分)〜㉞山崎(1時間10分)〜㉟山崎(1時間10分)〜㊱山崎(1時間10分)〜㊲山崎(1時間10分)〜㊳山崎(1時間10分)〜㊴山崎(1時間10分)〜㊵山崎(1時間10分)〜㊶山崎(1時間10分)〜㊷山崎(1時間10分)〜㊸山崎(1時間10分)〜㊹山崎(1時間10分)〜㊺山崎(1時間10分)〜㊻山崎(1時間10分)〜㊼山崎(1時間10分)〜㊽山崎(1時間10分)〜㊾山崎(1時間10分)〜㊿山崎(1時間10分)

大阪・茨木から鳥辺嶺(清坂峠)越えの丹波国亀山に至る街道は、大阪側からは清坂街道、丹波側からは大坂道・茨木街道と言われていた。近世の清坂街道は大坂の天満を起点に長瀬の渡し、千里丘陵の東麓を経て茨木の郡から福井、大岩、忍頂寺、下音羽を経由して扇店峠を越え、丹波国桑田郡に入り東郷、大野、寺村を経て亀山に通じてた。

明治以後の大坂府下の清坂街道の起点は千提寺村、高阪橋道路元橋、千提寺の余野街道と変更され、明治二十五年以降は亀岡街道の新設で福井が起点となる。現在の清坂街道は大坂府道110号・114号・1号・43号と結び、亀岡市街

中村敏文

原で府道46号の茨木集落橋に入る。

① JR亀岡駅(日山山下町)
現在は神道大本教の本部がある明智光秀築城の亀山城跡を一巡し、亀岡駅9時10分発の亀岡市南部へ向かうバスに乗る。旧清坂街道を整備した京都府立の東掛小林線は、寺村、大野を経由して東別院町東掛へ1時間通運してくれる。

近世後期には亀山下からほぼ真南へ下矢田、上矢田を経由して、東掛で清坂街道と結ぶ矢田道が利用された。

② 東掛(亀岡市東別院町)
亀山下から三里の清坂街道に比べ、

東掛で落ち合う矢田道は一里も近道である。近世の高槻藩支配下の東別院村・西別院村は、安藤川支流城と西部は余野川支流城に戸数五十以下の集落が散在していた。

③ 甘藷寺(東別院町南世)



甘藷寺
東掛から南へ700m、東掛川が栢原川に入る落合で、府道733号の栢原向日町線が清坂街道から西へ分岐する。南掛バス停から西へ府道を10分ほど歩くと、東別院町南世の山手へ10分上ると供御山七輪寺がある。平安時代作のめずらしい十一面観音の坐像を本尊とする曹洞宗の禅寺で、北朝

の光厳天皇が即位前に難を逃れて当寺に留まり山号を与えられたという。

山崎の合戦の功績で羽柴秀吉より当地をまかされた高山右近は、キリシタン布教にこた寄せ、社寺に弾圧を加えたので当寺も荒れた。江戸初期に攝僧空雄が本堂などを再建し、その後英敏が跡継の勳進を行った。

甘露寺から南掛バス停へ引き返し、再び清坂街道を南へ向かう。落合のすぐ南の芝原の地は往古に武者が栗原湖に飛び込み死んだため、たたりのある土地とかで荒れ地のまま放置されている。

④ 金輪寺(東別院町宿原)



に拝山金輪寺がある。真言宗智山派で平安朝の本尊阿彌陀如来坐像と、鎌倉期の薬師如来・如意輪観音を安置する。寺の創始は空海が能野より三所松尾と阿弥陀如来を宝山に勧請したという。その後七堂伽藍を移え、丹波の高野山として栄えたが、室町初期に焼失し、本堂を新築して仏像を現在地に安置し、金輪寺となる。

稲原川の東側丘陵にある方墳の天皇塚は清涼と寶石が認められ、光厳院の陵墓といわれているが真偽のほどは分からない。

金輪寺から1キロも行くとな成川に天狗橋が架かる。街道の対岸の神社森に稲原の氏神天満宮神社が鎮座し、近くには蓮如上人ゆかりの浄土真宗徳円寺がある。

稲原・鏡倉の亀岡市南端は高槻藩の東儀・南掛とは支配違いの中山藩領であった。

寺道 左そらうじ寺道」と彫られ、いずれも西国三十三札所の巡礼道を示す。

旧陣越えの1キロに比べて蛇行を繰り返してくだる新道は2キロ近くある。旧道は清坂集落の南端で府道43号に併合されて南西へ向かい、1キロも行くとな言羽川が左下に見えて下言羽へ入る。

⑦ 円岳山高雲寺(茨木市下言羽)

下言羽の見山郵便局西で府道109号余野車・作塚が街道から西北へ分岐する。鉄原を経て豊能町に至る清坂街道と横丹街道を結ぶ昔の能勢妙見参詣道である。郵便局の西にある高雲寺は曹洞宗宗徳寺の末寺で、本尊釈迦如来を安置する本堂と庫裏は天保二年(1831)の創建である。簡素な山門と地蔵堂のほかにキリシタン墓所がある。

鎮守の養老時神社は下言羽と近世の農村であった長谷の氏神である。高山右近の支配下にあった当地はキリシタン関係の遺物が多く発見され、千歳寺の隠れキリシタンは高雲寺の檀家となっていた。

⑧ 忍頂寺・八所神社(茨木市高槻町下言羽から南南西へ1キロで天王山登山)

口の忍頂寺バス停へ着く。府道43号は豊中亀岡線として泉原を経て勝尾寺へ向かうが、清坂街道は府道1号の茨木摂津線となり大岩へ向かう。

忍頂寺交差点から府道1号の茨木摂津線は車作高橋へ蛇行するが、東へ10分も寄り道すると百算山神社命院がある。

天王山山中にあった忍頂寺は二十三の寺坊を有する大寺院で、浄土信仰の道場・山荘寺院として築かれていた。南北朝の争乱期には軍事拠点として利用されたが、高山右近の支配下ではキリシタン布教のため寺領を横領され、ついには堂宇も焼かれ高僧も追放されたと伝えられる。

江戸時代に一部が再建されたがその後じり貧となり、天王山南山院で塔頭の寿命院だけが忍頂寺の法灯を継いでいる。

現在、高野山真言宗の寿命院は本堂と薬師堂・不動堂が残り、本堂裏に元享元年(1320)の銘の立派な五輪塔と、寛文四年(1664)の銘の梵鐘がある。

寿命院の東側、石段上にある忍頂寺村の氏神八所神社は、四神天皇と住吉・春日・加茂・山口の八神を祭祀する。現在の社殿はたびたびの修繕を加えている。

⑤ 清坂峠(島岡・茨木の市境)

天神橋から10分ほど南へ行くと二科川が安成川に合流し、府道46号の清坂街道筋は右へ分岐し府道43号となる。

清坂峠へのゆるい坂道のあたりは稲原の東清坂の山地帯で、海拔2844メートルを越えると茨木市清坂の山地帯である。大阪・京都府が立てた国境標のある峠は、鞍部を深く掘り下げて峠への勾配をゆるくしている。大阪府側は壘埃堆積帯が設置され自然環境は破壊されている。

⑥ 旧陣(島岡)

清坂峠北側の手前から右手の東清坂の山道を15分も上がると旧陣で、昔の島岡嶺の可能性が強く、西国巡礼の道を示す道標がある。文化五年(1808)の銘の墓石型の道標には穴太寺・総持寺の札所を示す「右あなを 左そらうじ寺」とある。見晴らしの悪い旧陣は休庵の小屋跡らしい平地もある。清坂の浄谷寺まで数百メートルの細い山道のくだりはややきつい。浄谷寺へ着くと、旧道は車道に舗装されている。清坂集落南入口にも道標が設けられ、新道への合流地原手前には安政四年銘の墓石型の道標がある。「右河なを

が鎌倉時代建立の世産なものである。

⑨ キリシタン遺跡(茨木市千歳寺)

寿命院から忍頂寺交差点へ戻り、南へ向かう府道1号を30分、右手へ分岐して千歳寺集落のキリシタン資料館へは15分という。車を避けて府道1号の西側のキリシタン自然参詣道に入る。山道を南下すると坂道になり、少し狭れたが半時間で千歳寺の天満宮へ着いた。

神社の西側を少し山手へ上がり左手するとキリシタン資料館へは10分。隠れキリシタンが迫害を逃れて信仰していた近世初期からの遺物が展示してある。

⑩ 千歳寺口バス停よりJR茨木駅へ

資料館より府道1号の清坂街道へ戻り、茨木市二科川の岡地入口バス停へ5分。予定時間を超えたのでコースを変更し、資料館西の小丘を越えて府道43号線の千歳寺口バス停へ行った。

15時過ぎのバスは府道43号から110号へ入り、JR茨木駅を経て阪急茨木市駅へ30分ほど到着する。

桜井の里から太閤道へ

松永恵一

青葉茂れる桜井の
青葉茂れる桜井の
里のわたりの夕まぐれ
木の下蔭に駒とめて
世の行く末をつくづく
忍ぶ鐘の袖の上に
敬るは涙かほた露か

正成涙を打ち払い
我子正行呼び寄せて
父は兵庫に赴かん
彼方の浦にて河死せん
いまはほここ迄来れども
とくとく帰れ故郷へ
悲しい別離の歌は続く。落合直文の長編
叙事詩「大楠公」に奥山領墓が由をつけ

を構。其子、獅子の歳分あれば教へざるに由より馳返りて、死する事を得ずといへり。況や汝已に十歳に余りぬ。一言耳に留らば、我の教誨に違ふ事なかれ。今更の合戦天下の安否と思ふ間、今生にて汝が顔を見ん事は限りと思ふ也。正成已に討死すと聞なば、天下は必ず將軍の代に成ぬと心得べし。然りと云共、一旦の身命を助らん為に、多年の忠烈を失て、降人に出る事有べからず。一族若党の一人も死残てあらん程は、金剛山の辺に引籠って、敵將米らば命を誓由が欠さきに懸て、義を紀信が忠に比すべし。是を汝が第一の老行ならん」と、泣く泣く申し含めておのおの東西へ別れにけり。頼山陽の「山崎西三去レバ桜井ノ駅、楠公ノ子ニ訣ル、娘」の時により一躍有名になつた桜井の地に、明治九年楠公父子の忠節に感激した駐日英國公使パークスは記念碑を建てた。(邦訳を紹介する) 外国人の贈物。あなたは忠子の正行と、この地で西暦1336年の淡川の戦いの前に、決別されたり

1876年11月 駐日英國公使
ハーリー・ニス・パークス

た、始めの部分「桜井の決別」は、唱歌以上に親しまれた歌であった。小津安二郎監督の映画「彼岸花」が、高校の同窓会に出かけ旧友たちと歌うのがこの歌。ラストシーン。結局、娘の結婚を許した父親は、娘の新居に一人で向かう列車の座席で、この歌をいつのまにか口ずさんでいた。

時は南北朝時代。九州に敗走した足利尊氏は、熱烈な勤王党肥後の菊池勢に大勝し九州の覇権を確立。二ヶ月後には大軍を率いて京都へ迫ってきた。朝廷は新田義貞を征討に差し向けられるが、撤退。あらためて大楠公に出陣の勅命が下った。大楠公は官軍の勢力回復を建議されるが

金龍寺

延暦九年(791)参議阿部是雄が成合の遷運に建立、安清寺と称した。百余歳を経て康保元年(964)近江三井寺(園城寺)の千観内供が中興し、天台宗、遷道山金龍寺兼雲院と号した。三井寺は西に山が迫り日想観に不便なので、千観内供は適した地を求め歩き当地に至ったと、「元亨釈書」は云う。

至撰州、有山出金色雲雲、觀望雲区、而卜辰、今之金龍寺也、池有龍故名焉。
「延古云々」に千観内供の歌が残る。

たまさかに見るだに淋し世の常の
雲の深山を思ひこそすれ

平安時代後期の歌人能因法師は高槻郊外
の古宮に隠居した。
やまざとをはるの夕ぐれきてみれば
いりあひのかねに花ぞちりける

『能因法師集』に収められたこの歌は、金龍寺の鐘の音を詠んだものといわれる。千観内供・能因法師ゆかりの桜の名所として親しまれ、天文二十年(1551)3月、本願寺証如の一行が花見に訪れた。その後、高山右近の兵火により焼失するが、墨田秀吉・秀頼により復興された。秀頼は二十四石の朱印を与えた。

朝露にけふる新公父子決別の権



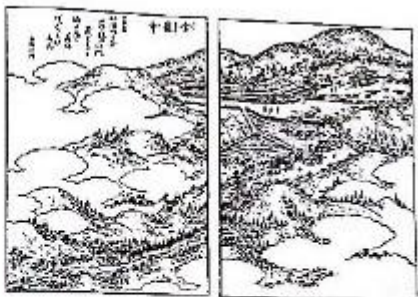
公卿に強く反対され、「此上はさのみ意見を申すに及ばず」と五百余騎の兵を率いて兵庫に出発。西園街道の桜井の駅に着かれた大楠公は、小楠公と今生の別れをされた。「太平記」巻十六は伝える。正成を最後の合戦と思ければ、獅子正行が今年十一歳にて供したりけるを、思ふ様有とて桜井の浦より河内へ返し還すとて、監訓を残しけるは「獅子、之を座で三日を解る時、数千文の石壁より足

西園街道

古代山陽道の後身。平安京の羅城門からまっすぐに南下し、天王山南麓の山崎を通りして兵庫に至るこの街道は、東海道につく往来のあった道。『平家物語』『太平記』『足利利季日記』『信長公記』等に、軍勢の往来が記される。

宝徳四年(1458)4月、京都相国寺僧瑞深周風は有馬温泉に湯治に出かけた。京を発ち桂川を渡り、基島・西園を経て寺内(大山崎町)の新興を通り、山崎宿で昼食。広瀬(馬本町)・神内・横折・阿原(笠原)・芥川・彌字志・宮田(以上高槻市)・太田・宿河原(以下茨木市)桂掛を過ぎ、勝尾寺(箕面市)参道を右に見て、粟生・小野原・粟野・牧を経て瀬川に到着。油屋に止宿している。

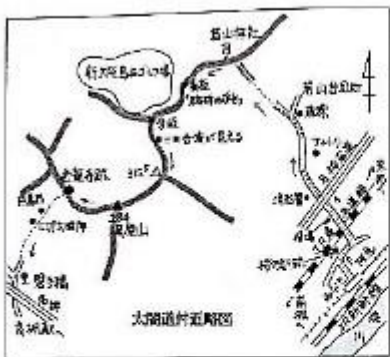
この街道は墨田秀吉が朝鮮侵攻のときの源兵道となつたため、唐街道という呼び名が生まれたという。江戸時代には山崎通と公称された。山崎・芥川・郡山・瀬川・尾崎(伊丹市)・西宮の六宿駅が配され、宿場町として繁栄した。浄泉寺「飯名手本忠臣蔵」などの舞台として知られる。



金瓶寺「橋津名所図会」

コース概観

今回は、『太平記』で有名な楠木正成・正行父子の決別の伝承地「桜井駅跡」から、織田信長が明智光秀に討たれたと聞くやいなや、備中高松からとって返し、天王山の主戦場まで駆け抜けたという秀吉ゆかりの「太閤道」を訪ねる。
歴史のかたに追いやられた忠臣楠木正成と天下人豊臣秀吉を偲ぶハイキングコースである。



まもなく新大阪島本ゴルフクラブが見える。「脚折りの溪谷」という看板がある。天正十年(1582)、織田信長が明智光秀に討たれた時、天王山の戦場に向かう秀吉軍の馬術自慢が、徳行軍のために疲れて居眠りをして、不覚にも落馬した。嘲笑された彼は、愛馬の首をはね切腹した。その馬の怨念で道の真ん中が突き出し、今も道行く人を苦しめ、「馬の背曲がり坂」と呼ばれている。

金瓶に沿って進むと分岐点に出る。左へ進路をとる。道幅が広がる。左の崖

阪急京都線の水無瀬駅で下車。まっすぐ山に向かって歩く。楠の並木が美しい。突き当たりが史跡「桜井駅跡」である。西国街道沿いのこんもりとした木立に囲まれている。府立青少年の家が一角にある。曹茶公園と名付けられた伝承の地には、昭和十年(1935)の大楠公六百年記念事業で建設された「楠公父子殊別像」がある。台座には近衛文禮公爵の文字で「淑私奉公」と記されている。河内飯盛山頂の楠木正行像の台座の「忠孝同全」が思いだされた。これらの銅像は、小学校児童を中心に、広く寄付金によって建設された。

樹々のなかにいろいろな顔影碑が建つ。「楠公父子殊別之所」と書かれた石碑は、陸奥大將乃木希典の曾、明治天皇の御製、子わかれの松のしづくに袖めれて昔をしのぶさくらあめ甲斐

は、伯爵東郷平八郎。この碑の裏面には、子爵小笠原長生の「七生報告」と、第四師団長林弥三吉の飯山閣「送桜井駅跡」の漢詩が記されている。

阪急水無瀬駅は、昭和十四年桜井駅として誕生した。戦後の昭和二十三年一月、水無瀬駅と改名。かつての忠臣は色あせ、

日本史の教科書からも消え去らうとしている。桜井の里の左手は流川の河原・高萩。川を渡ると楠葉。東国野街道が河内へへびている。

JR東海道線の線路沿いに北東に進み、道標に従ってJR線を歩道橋で渡ると高本町得島・住民センターに出る。道はゆるやかな上り坂となって名神高速のガードをくぐる。左手に島本町消防署、右手にサントリー研究所。右手に若山倉園地を見るときも若山神社の入り口。曹茶は訪れる人も少ないが、正月、七五三、例祭日(5月5日)には多くの参拝者でにぎわう。入り口から参道の長い石段があり、冬でも汗ばむくらいである。

西天王山中腹にあり、飛騨鳴等まつる。古来、西八王子牛頭天王社と呼ばれ、今なお「天王さん」の名で親しまれている。社伝によると行基菩薩が勅を奉じて創建した二十一社の一社だといふ。

春は桜が美しい。夏は涼しく、朝夕にはヒグラシの蝉しぐれ。太閤道ハイキングコースへの入り口がある。樅・檜の自然林のなかの急坂をしばらく登ると「大坂みどりの百選」に選ばれている樹齢二百年の古木を中心とした樅の林となる。

を上ると桂川・宇治川・水津川の三川合流を眼下に見ることが出来る。京都や笠置山もはるかに望める。

この先分岐点に注意しながら進むと飯山。起伏のゆるい快適な尾根道が続く。「秀吉の忘れ岩」と名付けられた大きな岩がある。天王山に急行する秀吉の軍勢の行く手を巨岩が阻んだ。秀吉は「後日御礼を申さん」と八幡大菩薩に祈り、太刀をこの岩に突き刺すと三つに割れ、通ることができたという。

右手に苦むした石塔が現れると金瓶寺跡。天台宗、飯山山金瓶寺法雲院と号し、本尊は普賢菩薩であった。昭和二十六年に本堂が北飯山に移され無住となり、設置されていた坂本堂もハイカーの火の不始末により昭和五十八年に焼失した。今は石垣などが昔日の面影を伝える。

かつては秋になると松茸狩で賑わったところで、「橋津名所図会」には境内図とともに松茸狩の様子が載っている。本堂・岡山堂・経堂・方丈・中門・庫裏・惣門・鐘樓・牛頭天王の祠が記載されている。鐘樓には徳田法師像を安置し、傍らに普賢像とも呼ばれる徳田像がある。本堂の南西の遷迹地には弁財天社がある。

「これ靈域なりとて、池の側に盧をむすんで厨をとりめ給ひける、今の池は此の旧跡なり、又此池より童女現れ出でて、法水を甘じ成仏す、これより金瓶寺と号し、安和二年天下旱の時、冷泉帝千朝に勅して祈雨ありければ、忽ち雨降つて万民大望を遂る。其後唐貞元年一字を建てて世賢の像を安置す」と名所図絵は記す。急な石段をおりると右手に熊神の池。丸太の橋、白馬岩を右に見て三好大明神を過ぎ、右寄り小橋を渡り、しばらく行くと登り客バス停。JR高槻駅まで歩けば40分程かかる。

- ▲コースタイム▼
- 阪急水無瀬駅(15分) 桜井駅跡(40分)
- 若山神社(75分) 新大阪島本ゴルフクラブ(1時間) 飯原山(15分) 金瓶寺跡(30分) 磐手橋(40分・バス8分) JR高槻駅(45分) 2万5千円・高槻
- ▲費用▼
- 阪急梅田駅〜水無瀬駅 310円
- JR高槻駅〜大阪駅 250円
- ▲問い合わせ先▼
- 若山神社事務所 075(962)1651

静寂なやぶ山、戸倉峠から

赤谷の頭

あかだに あたま
中級コース(★★★)
慶佐次 盛一

奥播磨にはなかなかいい山が揃っているが、登山路のない山も多く、苦勞を強いられる。紹介する赤谷の頭は、水ノ山南麓の戸倉峠のすぐ南に位置する2等三角点峰である。水ノ山・後山・那岐山・国定公園の範囲に入っているが、登山路は期待できず、山頂近くはチシマザサの猛烈なやぶこぎが待っている。しかし、美しいブナ林や汚れない山頂は、登りの疲れを十分癒してくれるだろう。

中国道山崎インターを出て国道29号線を北上する。音水湖、戸倉スキー場を過ぎると、国道は大きく西寄り向きを交える。すいすいと走っているうちに新戸倉トンネルを抜けて鳥取県側に入っ

まった。古い地図にはこの新しいトンネルはなく、旧戸倉隧道の分岐を見逃ししてしまつたらしい。

すぐに引き返し、ヘアピンカーブを経て旧戸倉隧道の前に着く。隧道は鉄種で完全に閉められている。ここから戸倉峠への林道に入ろうとしたが、この林道も入口に営林署のゲートがあり入れない。仕方がないのでゲートの前に車を置き、男性六人女性一人のメンバーは戸倉峠まで歩くことにした。

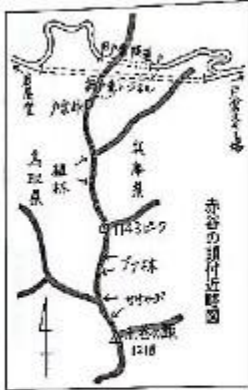
ところが小雨が落ちてきた。やぶを予想していたのでちょっとためらったが、たいした降りにはならないだろうと地道の林道を進む。道端にカキドオシやタニウツギの花が咲くゆるやかな坂道がしばらく続いて、戸倉峠に着く。幸い雨も止んだ。

峠には「小船山国有林」の大きな看板があり、赤谷の頭方面は大きく削られた崖状で取りつけず、少し戻った所から縦線へ取りつく。踏み跡もない雑木やぶを無理やりに登り、稜線らしき所に出るとけもの道らしきものが現れた。兵庫県と鳥取県の県界線である。植林、雑木林ともつかない混成林を1000mの等高

ササやぶのなかに2等三角点を見つけた。赤谷の頭(1216m)の山頂だが、とても七人が登るほどの広さはなく、仲間がササを切り開いて涼しい場所をつくってくれた。

背丈を超えるチシマザサにおおわれ、おまけに振り空とあっては山頂からの展望に恵まれない。それでも若い仲間が背伸びをしながら、両西に植松山から竹呂山、三笠山に続く稜線や、東には阿合利山から三久安山に続く稜線や、晴晴山から段々岩、笠形山に続く稜線が見えたと教えてくれた。

静寂な山頂をゆっくり味わい、往路を下山にかかる。下山の時、登りには気がつかなかった水ノ山が見えて嬉しかった。



赤谷の頭付近地図

- ▲コースタイム▲
- 山崎インター(車・1時間) 旧戸倉隧道(15分) 戸倉峠(1時間15分) 1143
- 詰点(35分) 赤谷の頭(35分) 1143
- 詰点(45分) 戸倉峠(15分) 旧戸倉隧道(車・1時間) 山崎インター
- △地形図▽2万5千1戸倉峠

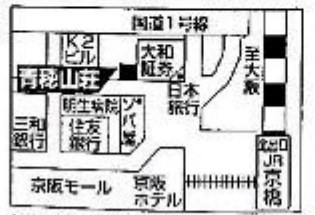


山歩きの一番重要なポイントは…「靴」です。

「靴」の選び方、合わせ方次第で、山歩きが楽しいものになるか、終始苦痛なものになるか、それはもうエライ違いです。初心者から上級者迄あなたの足に合う「靴」をアドバイスいたします。又、自分の山行に合うグループの紹介もしております。

- 山用品は全て安く揃います
- 登山・山スキー・専門店

青徳山荘



京橋店 大阪市都島区東野田町2-9-24
TEL 06(6351)8691

線ピークまで登る。ここは下山時に迷いそうだから、しっかりと目印を残した。



赤谷の頭の2等三角点

このピークは尾根が大きく広がりはじめ、山頂まではなだらかな起伏が続くだけだ。そのなだらかな稜線が曲者だと考えていたが、このピークから元の稜線はやぶもなく気持ちがいい。一部カラマツも見られるが、これは戦時中の植林政策の名残りだろう。やがて見事なミズナラやブナの大木が現れ、仲間たちは思わず感嘆の声をあげた。尾元にはユキザサやチゴユ

2等三角点のある山

赤谷峰と伯母子岳

初級コース(★)
山形 歳之

高野龍神国定公園の奈良高野。迫川村と十津川村の境にある伯母子岳は、「近畿百名山」にも採り上げられている。

その伯母子岳の東の稜線上に赤谷峰？等三角点がある。今回は伯母子峠から東に縦走して赤谷峰に登り、峠に戻って伯母子岳にも登る計画である。

大阪から河内長野市経由で橋本市に走り、紀ノ川を渡って高野山に向かう。この国道371号線は幅も狭く山がくりくねって走りにくい。大型車が通らず車の通行も少なく、ゆっくりと走る。道は高野山奥の院で高野龍神スカイラインに接続する。途中樫峠下で野迫川村への一般道が分岐するが、今回は他に目的の山もある。



赤谷峰・伯母子岳付近地図

の跡が残るのみ。右三稜線に草履状の赤谷峰が望まれる。やがて頭が赤く塗られた森林三角点が見れる。ここで折返し稜線をたどり、最後はススキの斜面を登ると赤谷峰(1336m)の山頂である。「丘状の山頂は360度の展望で、今歩いてきた稜線の先に伯母子岳。夏山が盛り上がり、どちらを向いても山また山。紀伊半島真只中である。

すばらしい山頂は山名板一つなく、登山者の形跡もない静かな山であった。十分に展望を楽しんだら伯母子峠に戻った。新緑の頃もすばらしいだろう。峠から西に伯母子岳(1344m)に登る。稜線伝いにわずか30分で頂上に立つ。ここも展望は良く、今登ってきた赤谷峰の稜線が一望で、北は真虫山の山腹に熊野古道がのびている。西の稜線にも登山道が下っていて、古畑山から滝原登山につながっている。山頂は図根点だけで、「近畿百名山」にしては山名板もない寂しい山頂であった。

○伯母子岳だけを登るなら大股の集落が登山口になる。村の入口の橋を渡ると



伯母子岳山頂から赤谷峰方面

沢に伏された尾根の取りつきは急峻だが、少し登ると植林の尾根道になり、以後一本調子に尾根をつめて行く。今年の台風は大きくて各地で登山道が被害をうけているが、ここは最近整備されたばかりらしく、残り払われた木々が道の両側に片付けられていた。やがて道が左に分岐する。立木の簡単な表示は橋に括弧のように「橋道」、直走して尾根上を登る道

に「植林用古道」と記されている。どちらを行っても大差ないと思うが、橋道のほうが正真正正な登山道で整備されているようだ。私は急登の尾根上を登る。やがて稜線に小屋の姿が見えて峠に到着した。伯母子峠には大股から「小辺路の熊野古道」が登って来ており、南の十津川村へとくだっている。道標には「大股？、三田谷12」となっていた。南の展望が

「小辺路伯母子岳入口」の文字が見える。熊野古道になってるので道の手入れもよく、道幅も広くて登りやすい。山頂には山を抜く古道と分かれて登るが、北の夏虫山側から登って峠にくると古道に合流できる。今回は其の赤谷峰に登るため伯母子峠に直登する道を選んだが、伯母子岳だけなら大股から一般道になる。もっとも峠からのコースのほうが短時間で登れる。

○野迫川温泉は立派な設備で、登山後の汗を流すのに快適だ(入浴料500円)。大股村にも旅館がある。

○高野龍神スカイラインは12月に入ると夜間(午後5時～午前7時)は通行止めになる。もちろん縦写時は通れない(高野山1150円)。

(平成10年12月16、17日歩く)

- △コースタイム
- コノ谷林道登山口(1時間) 伯母子峠(40分) 赤谷峰(40分) 伯母子岳(20分) 伯母子岳(15分) 伯母子峠(50分) コノ谷林道登山口
- △地形図 1万5千 伯母子岳
- 2万5千 伯母子岳

森林浴の森100選の山

金勝アルプス(栗東コース)

初級コース(★) 柴田 昭彦

前回は金勝アルプスの大津市側からのコースを示したので、今回は栗東町側からのコースを紹介しよう。

JR草津駅東口、常陸湖南交通バスのりばより、成谷行き(1時間に一本)に乗り、片山バス停で降りる。わずかに北に戻り、辻で左折して小佐治川橋を渡ると敬恩寺がある。鎌倉時代の木造阿弥陀如来立像は重要文化財である。南進して黒橋を渡り、栗東町観光協会の道標に従い右折、砂利道から地道となり、不動林道に出合い右折、十九道標の手前で左折して、舗装された十九道林道に入る。すぐ左に分岐する道は元のハイキングコースだが、ダムの手前で行き止まりになる。

林道の二つ目の左カーブに看板があり、右へのびる山道を谷沿いに忠実にたどれば北峰峠を越えられる。この谷は通称水晶谷と言われ、堰堤を越えた先の右手がかつてマンガンを採掘した片山旧坑である(小林圭介著『栗東町の自然』栗東町観光協会展覧、昭和55年)。

林道を上がり、右手に駐車場を見下すぐに切り通しを抜けると分岐で、左折して十九道ダムの貯水池の前へ降りる。東側の堰堤の前の沢を横切り、堰堤の左を上がると小屋があり、右手に文字通りの細い白糸の流がよく見える。沢を二回渡り、丸木階段を上がり、堰堤が見えたら河原を横断して遠標に従い右手に上がる。と走井林道に出合ふ。ここで林道を横切って尾根道に入るが、秋の松茸シーズンには尾根道は入山禁止になるので、沢沿いの道(七曲り沢谷、水晶谷)を利用するとよい。

尾根道をしぼらくたどると、正面に天狗岩が見えてくる。かつては、ここから見える姿によって耳岩と呼び、中央の丸い岩の左右の岩を、左耳と右耳に見立てていた(北山クラブ編『京都周辺の山々』創元社、昭和41年)。中腹の道を伝い、谷水

白糸の滝



が少し流れている所を横切ると、右手に牛の背のような岩がある。正面のガレ場を急登し、左へ進む右へ廻り込むと北峰峠に出合ふ。右はすぐに天狗岩で、左は耳岩を経て白石峠に出られる。

白石峠から南王山方面へ向かう。縦走路には左手に平安前期(貞観時代)の作と思われる、俗称「茶洲観音」磨崖仏がある。実際には観音ではなく、如來像を半肉彫りにしたものである。

東に縦走して行くこと北に展望が開ける所に出る。四つ石を背負ったような岩が目についておもしろい。ほどなく金勝寺八大天王木殿の祠の前に向ふ。昭和30年代までは旱天時に雨乞いが行われたとい

う(栗東の歴史(第四巻)。この右手の高みに三角点がある。

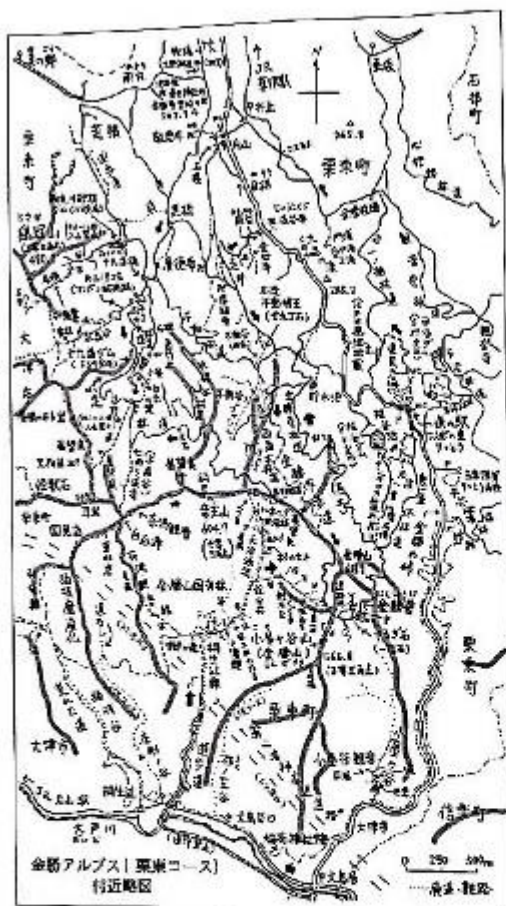
さらに進むと、駐車場に出る。車道を行くと、ほどなく左手に砂利道の走井林道が合流している好展望地に出る。ここから林道をたどると、南王山嶺の北側の中腹をゆるやかに登きながら、往路の林道出合に戻る事ができる。展望もあり、道沿いの大岩が目を惹きつけてくれる。

そのまま林道をくだり、片山バス停に戻る。

草津駅から成谷行きに乗り、終点バス停で降りる。会議所の右側の道をたどると最初の分岐を左にとり、道なりに上がる。と左手に金胎寺の石段が見える。この分岐で右へ上がっていくと走井の築路に出る。

左折して切り通しを抜けると広徳寺からの道と合流し、次の右手に分岐する舗装道はバス、次の分岐で右の地道をとり、トタン板に沿って進む。すぐに分岐で左をとると、町指定文化財の石造不動明王が大杉の横に現れる。大岩に立像が刻まれ、その横に「廿九丁」と刻んだ板碑形を表している。南北朝から室町時代頃(十四、十五世紀)のものと思われる。麓

の大野神社(かつて、五十丁と刻んだ自然石があった)からの金勝寺旧参道(西参道)に位置している。江戸時代には不取谷を経て西並木道をたどったようだが、不動明王の先の道はやがで、上の方で工事も行われているので元の道に戻る。不動林道に出合い、左折して辻で金勝寺林道を上がる。左手に貯水池を見て、分岐で右をとる。あとの分岐ですべて左をとれば、西並木林道に入り、地道をゆるやかにたどるうちに車道に出合ふ。右へ少し上がると、すばらしい展望が広がり、昼食場所に最適である。車道を戻り、金勝寺境内地へ入



金勝アルプス(栗東コース) 付近地図

る。下栗石(町指定文化財)は10年ほど前に盗まれたまま行方不明となっていて腹立たしい。

金勝寺の参道を上ると本堂がある。寺は、八世紀前半、良弁(のちに東大寺の初代別当)による創建と伝えられる。九世紀以降、急速に発展して、湖南地方に法相宗系(後に天台宗)の一大仏教圏を形成したのち、室町時代の初期には衰退していったという。

元の林道に出て、右(西)に少し引き返し、コンクリート壁が切れる所(西端)にある踏み跡をたどる。途中で左手に上がり、乗越して右の尾根に入り、途中で右からの道(掃り道)と合流して進むと右手に踏み跡があり、すぐに三角点に出られる。展望はほとんどない。ここは小屋ヶ谷のつめにあるので、小屋ヶ谷山と呼ばれている(芝村文治「京滋百山三角点を行く」上「かもがわ出版、1999年2巻)。地点名は「金勝山」である(内田静弘「京都遊覧南部の山」ナカニシヤ出版、1988年)。草川啓三「近江の山」(京都山の会出版局、昭和59年)には三角点から戻るときに迷ったと記されている。その原因は道なりに戻ると自然に往路と異なる西側の踏み跡

に進んでしまうためである。そのままたどれば元の道に出ることができる。

駐車場の前のトイレ横から右におりる谷道があり、ほどなく2軒弱のゆるぎ石が谷あいに見つかる。寒川辰清「近江輿地志略」(寛文十九年、1774)には「三の隅を以て動かせども少も動かさず、畿に一隅を動かす時はゆるぐ故に横石といふ」とある。

木内石亭「雲根志」後編(安永八年、1779)巻之二・生動類廿二には奇石「指石」について「六七尺六面なる円き石あり、其南西の方より指一本にてゆすれば即動く」と記す。江戸時代には、金勝山の三名石(一「指石」、二「見石」、三「ひとつ」として有名であったという(「近江県志」巻三、他)。

秋里龍島「東海道名所図会」(寛政九年、1797)の石部巻、金勝寺の項には「露巖、当山にあり。十人力にてても動かざる岩、ただ一指にて押すに安く動くなり。これ当山の奇異なり」とあって、当時の人々の関心を集めたことがわかる(柏谷宏紀「東海道名所図会を讀む」東京堂出版、平成九年)。寺からの掃り道としては、金勝寺林道

金勝寺の南の谷のゆるぎ石



から成谷に出るのがいちばん近いが、東並木林道またはナンダサカ粕坂石段(ふるさと創生事業で整備)から、金勝山居民の森に出て、一ノ瀬林道経由で井上バス停に出るとよい。途中、桂谷ダムや、元治二年(1865)の泣地蔵、九品の滝(井上の滝)を見学するとよい。泣地蔵(釈迦・菩薩・阿弥陀)は道沿いから空き地に見える大きな石に刻まれている。

次は、小屋ヶ谷観音を見たあと、桐生辻から大谷治いにたどる金勝寺へのコースを紹介してみよう。

丁良石山駅から信濃行ききのバスに乗り、大鳥居バス停で降りる。北へ向かい、無名4号橋から、左手の小原ヶ谷に入る。

堰堤を右から推して、池の右側をたどる。沢を渡り堰堤から見えている大石の左側の小さな谷を上がり、すぐ右手にある踏み跡をたどる。ほどなく右手に別の巨岩が見え、その先の左手の谷の入口に黄色のビニールひもがある。谷の左側を少し



小原谷観音庵崖仏

行くと、正面の谷を塞ぐ巨大な岩が見える。右側を慎重に上がると、その十数層にも及ぶ大きな岩の上端に刻まれた小屋ヶ谷観音庵崖仏を見つけたことができる。

鎌倉時代のもらしく、当時大鳥居からの金勝寺南参道(現在、摩道)の近くに摩崖仏は正立していたのが、後に巨岩が崩れ落ちて、現在のように傾いたものと推定されている(栗東歴史民俗博物館にはその複製品がある)。ビニールひものとろから北東へ小屋ヶ谷の沢沿いの道があるが、踏み跡は途中で消えるので、大鳥居まで戻る。

県道を西へ進み、桐生辻で道標に従い、右手の遊歩道に入る。左手奥に瀬戸ヶ滝を見たあと、東に進み、茶仏殿方面への近道を示すテープの目印のある分岐を左に見送る。次の左へのカーブの地点で宮林局のプレート(左側に見て、大谷右岸に沿う山道に入る)。

右に小滝を渡ったあと、丸木の渡りしてある所で沢を渡り、すぐ左へ渡り、再び右に渡ってからは主に左岸のはっきりした踏み跡をたどるとよい。古道の雰囲気を感じられ、途中で大谷を離れて、道なりに右手の保安林の表示の立つ支流

の谷に入る(まっすぐ大谷壺流をたどる道は、中庄空置「関西の山 日帰り縦走」ナカニシヤ出版、平成10年、に紹介されている)。例本をくぐり、右から注ぐ小さな流れを渡ってまっすぐに進む、次の分岐は右を直進する。その次の分岐で傾斜のゆるい左の谷に入りそうになるが、直進方向のやや急な坂を上がると、明瞭な道が見つかると、あとは右の谷に巨岩を見て、ほどなく車道に出合い、右へ行くと金勝寺境内である。

(平成10年 9月19・20日・11月1・3日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 片山バス停(50分) 十九道ダム(50分)
- 天狗岩(20分) 白石峰(20分) 竜王山(15分) 走井林道分岐(35分) 七曲り溪谷入口(1時間10分) 片山バス停
- 成谷バス停(15分) 井上(20分) 石造不動明王(1時間35分) 金勝寺(50分) 奥民の森(45分) 九品の滝(25分) 井上バス停 金勝寺(15分) 小屋ヶ谷山
- 大鳥居(25分) 小原谷観音(40分) 桐生辻(35分) 瀬戸ヶ滝(50分) 金勝寺(八地形図)と万5千III三三

●バス(バス)山陽線(山陽線)

山陽線一木戸峠一北見町一高川越
一丹谷山一高川越一南七宮崎一金
葉峠一山陽線(コトブキ)ハイキ
ング(バス)比良駅(約
8.5時間)参加定員100名
(1ヶ月前より電話申込み)・参
加費2500円(申込先)比良
コトブキハイキング係077(59
6)0516

▽北山ウイークデーハイキング
「静寂」聖蹟稲山コース」6月
9日(日)雨天中止(集合)飯塚
駅9時30分(コース)飯塚駅・東
下坂・野原一江文谷一栗谷峠一龍
華山一上高野分岐一八幡前駅
(約11.5)参加自由・無料(交通
費自己)・飯山電鉄運賃部075
(702)8111

▽新井北山三角点トレッカ第3回
「小野町登山コース」6月12日
(日)雨天中止(集合)京阪出町駅
コンコース8時~8時30分(コー
ス)出町駅(バス)広谷原・佐々
里線・ピーク840一東谷集落一
ヒールヒール一野村町一ワヤ
谷林道下の町(バス)出町駅
(約12.5時間)参加定員200
名(1ヶ月前より電話申込み)・
無料(バス代別途)(申込先)

●バス(バス)山陽線(山陽線)

京阪バス(山陽線)075(8071)
7521
▽比良線陸アタック(三河津山・
岳山コース)6月13日(日)雨天中
止(集合)JR近江宮崎駅9時
10時(コース)近江宮崎(バス)
熊ヶ池道一鶴川越一若狭沙利山一
八王子一鶴巻峠一鳥居一杉山一岳
麓(約9.5時間)参加自由・参
加費5000円(バス代)京
阪ハイキング係06(60647)
3702

▽北山ウイークデーハイキング
「静寂」大塚コース」6月30日
(日)雨天中止(集合)飯塚駅9
時30分(コース)飯塚駅・東下坂
・野原一江文谷一井出町分岐一太
原(バス)約8.5)参加自由・無
料(交通費自己)・飯山電鉄運賃
部075(702)8111

▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521
▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521
▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521

●バス(バス)山陽線(山陽線)

(約12.5)参加自由・無料(南海
テレホンセンター106(6664)
1005
▽静寂(ヘルシー)ハイキング「つじ浜か
ら鶴山へ」5月22日(日)雨天中
止(集合)泉佐野駅9時(コー
ス)泉佐野(バス)東上一日根
神社一稲刈一ササ峠一ササ峠
一鶴山一杉山一金熊寺一東小学
校前(バス)約13.5)参加
自由・無料(バス代別途)(南
海テレホンセンター106(6664
3)1005

▽南海沿線(南海沿線)075(8071)
7521
▽南海沿線(南海沿線)075(8071)
7521
▽南海沿線(南海沿線)075(8071)
7521

▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521
▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521
▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521

●バス(バス)山陽線(山陽線)

場合は6月27日(日)延期(集
合)橋本駅10時(コース)橋本駅
(バス)門前(約1.5)橋本駅
飯塚コース(門前(バス)橋本駅
(約9.5)参加自由・無料(バス
代別途)(南海テレホンセンタ
ー106(6643)1005

▽神井電鉄
▽神井電鉄(神井電鉄)075(8071)
7521
▽神井電鉄(神井電鉄)075(8071)
7521
▽神井電鉄(神井電鉄)075(8071)
7521

▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521
▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521
▽飯塚線(飯塚線)075(8071)
7521

「コース」鈴鹿山頂一水鏡池 鈴
笠北谷一再度公園一若谷の森 鈴
林植物園(入園料)・自由一山
田道一谷沢(約10.5)参加自由・参
加自由・無料(特設観光事業部
78(506)0321

●山陽線

▽山陽ハイキング「親水公園・明
石山頂ハイキング」5月9日(日)
雨天中止(集合)山陽線飯塚下車
住吉公園10時(コース)住吉公園
一親水公園一明石山一見晴一
明石山頂(約9.5)参加自由
由・無料(須磨海岸ハイキング
係078(731)2522

▽山陽ハイキング「巨瀬観察の森
ハイキング」6月16日(日)雨天中止
(集合)夢前川駅下車夢前川河川
敷10時(コース)夢前川河川敷
サイクルロード一青山一飯山一水
池一自然観察の森(青山)・(バス)
河川敷(約12.5)参加自由・参
加自由・無料(須磨海岸ハイ
キング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「須磨海岸水鏡
池ハイキング」6月30日(日)雨天中
止(集合)西三河崎山頂ハイキ
ング係078(731)2522

「コース」本社前一高取山一良野町一丸
山町一船越一鳥原水鏡池一山鏡
池の湖一平野一高津神戶(約
12.5)参加自由・無料(須
磨海岸ハイキング係078(731)
2522

●山陽線

▽山陽ハイキング「春水・史跡め
くりハイキング」6月27日(日)雨天中
止(集合)西三河崎山頂ハイキ
ング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「花の季節」
5月9日(日)雨天中止(集合)五坂
山頂ハイキング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「花の季節」
5月9日(日)雨天中止(集合)五坂
山頂ハイキング係078(731)2522

「コース」本社前一高取山一良野町一丸
山町一船越一鳥原水鏡池一山鏡
池の湖一平野一高津神戶(約
12.5)参加自由・無料(須
磨海岸ハイキング係078(731)
2522

●山陽線

▽山陽ハイキング「春水・史跡め
くりハイキング」6月27日(日)雨天中
止(集合)西三河崎山頂ハイキ
ング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「花の季節」
5月9日(日)雨天中止(集合)五坂
山頂ハイキング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「花の季節」
5月9日(日)雨天中止(集合)五坂
山頂ハイキング係078(731)2522

「コース」本社前一高取山一良野町一丸
山町一船越一鳥原水鏡池一山鏡
池の湖一平野一高津神戶(約
12.5)参加自由・無料(須
磨海岸ハイキング係078(731)
2522

●山陽線

▽山陽ハイキング「春水・史跡め
くりハイキング」6月27日(日)雨天中
止(集合)西三河崎山頂ハイキ
ング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「花の季節」
5月9日(日)雨天中止(集合)五坂
山頂ハイキング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「花の季節」
5月9日(日)雨天中止(集合)五坂
山頂ハイキング係078(731)2522



これ以外にも多数の鳥が
います。各社の広域に見て下さい。

せせらぎ

題字・小林坡第三

六年前、六甲山系西部の高取山に引越し、高取山の一番上にある早朝時日登山の茶屋（監視所）を拠点とする神戸ツキフ登山会に入会した。毎月一回の例会（主に近畿日帰り圏）に参加しているうちに、ここ一年くらい前から自分で山を歩くこともやや多くなった。平成10年秋、特に11月は私としてはよく山を歩いたので報告します。10月3日、六甲山系西山谷通り。10月4日、左記例会会で長老ヶ岳。10月17日、新ハイ関西例会「比良・蜷田岳」へ申し込むも雨天中止。11月1日、左記例会会で兵庫真丹渡、五台山、五大山南下縦走。11月7日、比良山系北西縦走を北へ縦走。11月

8日、六甲山系大月地獄谷通り。11月14日、比良山系南縦走を南へ縦走。11月28日、比良山系北東縦走（リトル比良）を南へ縦走（四半世紀ぶりの再行）再行の注記以外可なり。（弘中征男）

11月26日（木）、伊香立峠より比叡山を歩く。伊香立峠からの経走路は明文社55年版の地図に赤の路線で表示されており、かつ、最近発行されたナカニシヤ出版の「日帰り縦走」に掲載されていて、新ハイ山行例会が10月にもあったので、通りやすいかと理解していた。

伊香立峠までは比較的分かりやすい。途中獨立小屋のある分岐を右へ上がらず、道なりに行けば秋道に出る。峠は切り開き

けは秋道に出る。峠は切り開きになっていて、南朝北縦面にかすかに踏み跡があり、履痕面に出来る。所どころにテープなどのある踏み跡をたどることになるが、草やササが生い茂り非常に歩きにくい。手が降りかかり、腰から下がびしょ濡れになった。小屋いところ歩きやすくなった。古道を引失った。付近で見つけたテープなどをたどり、海に向かって彷徨しながら歩きやすい踏み跡を見つけた。あとは比較的簡単な道で、左側から近いうちに林道の跡を通り、6300峰を越えて大尾山に到着した。

峠から大尾山まで、「約2時間の予期せぬ難行苦行」の体験をして、比叡山延福寺にお参りした。このルートは地図上赤線が表示できるほど、「難行苦行」なしで行けるのでしょうか。ご教示いただけたらと思います。（吉保幸次）

昨年暮れ、兵庫真和山町で開催された、東中国山地「クマ

ナマレット」に参加した時のミニ報告である。絶滅危惧種に指定されている「ツキノフグマ」「イヌワシ」の個体数の減少が報告され、このままだと絶滅するといふ。昨年の秋は山中の水の裏が不作で、餌を求め人家近くに出没したクマの目撃数が例年より昨年よりも多くなっていくそうである。イヌワシについては、兵庫県南東部から北上するクマの駆逐、リソット湖、杉・楠の植林によるブナ林など原生林の減少がある。このような環境悪化で餌になる小動物が減り、現在生き残っているクマは、山を中心中心に回つたのが確認されているのみで、昨年は幼獣の成長を確認できなかったそうである。このように人間が原因で動物たちが絶滅するのを、今すぐ止めなければならない。

クマは植林で餌を減らし、イヌワシは安心して幼鳥を育てて空に放す。このような自然林に近い広域植林を復活させることは、ひいては新緑・紅葉・紅葉・冬枯れの四季がはつきりし、同時に山を守ることもとなり、人間にとっても歓迎すべきことなのである。この共存への一歩を踏み出すべく、植林が一日でも早く行われるのを願うものである。（須藤間 秋）

山行報告

- 12月5日 丹波明神ヶ岳 絵画ひらけた景色に酔おう
- 12月18日 北奥連系山 子をあやすかに見張る小女尻池
- 12月18日 六甲山系 霧の日の四半歩移りゆく
- 12月23日 六甲山系 摩耶天入天までも新り薄つ天上
- 12月23日 湖東流作山 ルミナリエ岳くちを麓に
- 吾はなぜ彼にはほほえみ消生野の
- 開成めける風の山道は
- 1月3日 志分より生駒山 星降れば地に落ち木々光らせて
- 生まれ変わりぬ宿すくそこに
- 1月9日 淡路島島田山 生命限りある山友と過ぐせば
- 和やかな海からの風と隣と
- 1月21日 箕面赤伏山 ニクスの凍結年の時季ながれ
- めぐり送いたき花の記憶に

○新ハイ関西サビステーション

京都・二岐温泉	075-110631
和歌山・二岐温泉	073-321111
大阪・二岐温泉	06-66111111
奈良・二岐温泉	074-321111
和歌山・二岐温泉	073-321111
和歌山・二岐温泉	073-321111
和歌山・二岐温泉	073-321111
和歌山・二岐温泉	073-321111
和歌山・二岐温泉	073-321111
和歌山・二岐温泉	073-321111

汗をたっぷり流せる温泉と 笹ヶ崎牛のシヤブシヤブ 日本一の鯉魚と山の幸 ハイカールの宿	ナガサキロッジ
汗をたっぷり流せる温泉と 笹ヶ崎牛のシヤブシヤブ 日本一の鯉魚と山の幸 ハイカールの宿	ナガサキロッジ
汗をたっぷり流せる温泉と 笹ヶ崎牛のシヤブシヤブ 日本一の鯉魚と山の幸 ハイカールの宿	ナガサキロッジ
汗をたっぷり流せる温泉と 笹ヶ崎牛のシヤブシヤブ 日本一の鯉魚と山の幸 ハイカールの宿	ナガサキロッジ
汗をたっぷり流せる温泉と 笹ヶ崎牛のシヤブシヤブ 日本一の鯉魚と山の幸 ハイカールの宿	ナガサキロッジ

で右足に乗せた岩が真一つに割れて、その岩と立木で左足を挟んでしまった。幸い打撲で済んだのは、道中安全を地蔵さんにお願いしたからだろうか。その後、奇麗な白い毛のついた種を拾った。本で調べたが、鬼女蘭か舌切草か分からず、庭に挿いでみようかと思っている。

(行程) 三浦峠への道 20分
 1 登山口 30分 炭焼き跡 20分
 2 尾根 17分 山上の雄雄さん (鞍木神人)

鳳凰三山
 道隔す境もれる雪を踏み抜けば
 道松の枝靴に絡まる
 雪道を越ゆれば続く縦走の
 杖伏の跡は岩根根浴びて
 雲上の白砂の庭に鳳凰の
 羽絨ぐんと碧く火岩

毎岳

鳳凰の嶺の前に今立てり
 明日の迷ふに閑然燃えつつ
 幾重もの切り立つ壁に囲まれて
 短主峰は迫り上がりいる
 黒がの筋骨見せる頑強に
 我拒むかに銀の匠は
 登頂終え手強さに酔ひ振り返る
 我去り難き嶺の岳を

私の年始めの山行は、いつも高見山から始まる。霧氷を求めて凍った雪道を力強くバリバリと歩くアイゼンの音に心を弾ませ、プナの霧氷に凍された冷たい風にも心も引き締められ、頂上立つ。

眼下に入屏風の面影をタプタプと「見れど飽かぬ吉野……」そして、山上ヶ岳・普賢岳、その向こうは弥山が歓迎かとお峰の山々を眺めながら、今年も山や自然を愛でる人との出会いと知事と山の神に祈る。

(佐々木治郎)

昨年(12月)中旬、名古屋中のY・Sさんという方から封書が届きました。これまでに、本誌に掲載された私の雑文に対して、見知らぬ方からご意見をいただいたことはありました。けれど、Y・Sさんのお三組には、拝読してただただ驚くばかりでした。

本誌初号の「せせせ」欄で、私は「山の自然学」という書物を紹介しながら強い感想を述べたことがありましたが、新ハイ誌をいつも購読(会員の方がよく)

中年登山者
 青春の昔の庵に戻るため
 ひたすら登るロマンの峰へ
 我知らず残りの若さ試しおり
 五十路を生かせる登山者なれば
 (藤原 茂)

和歌山県南部の法師山に登った。その日は快晴。寒気で迷き通るような雪空が広がった。これにもあわず、山頂は360度の展望があり、近くの三ツ森山や半作嶺のゴツゴツした山稜、遠くに見える長大な果無山脈が印象的であった。

尾路、登山口に出る吊橋のところで、朱色のチョッキを着た男が木の閉鎖した谷尻に銃口を向け、微動だにせず立っている。時々無縁で仲間とやりとりをしている。

たぶん仲間が谷の下流から崖を這い上げ、それを待ち伏せしているのだから。もし私がこの時にこの谷を駆け抜けていたら、朱色のチョッキを着ていない私は撃たれるかも知れない。山ではこのようなことで命を落とすことがあるかも知れない。わらわらわらわら。

さらに各に沿った林道をくぐると朱色のチョッキを着た二人の男に出会った。(山形 勇)

柿本人麻呂が私のふるさとの山で、

石見のや高角山の木の間より
 我が振る袖を妹見つらむか
 と詠んでいる。

この歌に感化されてか、少年時代は石見の山々をよく登り、大阪に出てからは吉野の四季に魅せられて彷徨していた。

その山行きのスタイルも最近少し変化した。野山を駆けめぐるのではなく、カメラを友として樹木に触れその美しさや生命力に感動し、いっしょに心を癒されている。また、森の小動物や、鹿やイノシシとの出会い、朝や夕の美しい。この山里の風土や生活の知恵、木の文化等を山の民に教えていただいたりすると愉しくなってくる。特に一杯やりながらのこのような話題は、水や米、そして自然環境問題や人の生き方で発展してゆく。酒がまろやかに再発酵して心まで酔わせ、新しいエネルギーを与えてくれる。

しておられたY・Sさんはそれを読まれ、何と著者の東京学芸大学小泉武栄教授を招いて講演会を企画され、それをわざわざ私に連絡してくださったのでした。

感激した私が万障繰り合せて講演会に参加したのは言うまでもありません。当日、月20日の名古屋市昭和生涯学習センターの会場は、参加者が眼下にまであふれる盛況で、愛知県の中高年登山者が大半として押し寄せたかのような賑わいを感じました。

会場では、愛知県の自然観察会の仲間や新ハイ会員の方にも会えました。自然観察会仲間の女性には、京都の新ハイ会員Yさんが愛知方博会場予定地「海上の森」の自然観察会に参加してくれたこと、その関係で新ハイ誌を知り、書店で購入して紀行文を読んだことなどを話々として語り、新ハイ会員Sさんは、鈴鹿・御池岳の自然を本に著わしたKさんを紹介してくださいました。

小泉先生の講演は、先生の著書や何冊か読んでいた者には、比較的分かりやすい内容でした。

この講演会は、登山者に山の自然に対する関心が広がっていくのを喜ぶ一方で、彼早へ帰る道中でもいっしょに心臓が弾んでいました。

企画されたY・Sさんには直接お会いしてお礼をと思い、生涯学習センターの事務室も訪ねましたが、あいにく体調を崩されてお休みのことでした。Y・Sさんに心から感謝いたします。

(鷺見守雄)

2月中旬、「新知原の山」を頼りに四回山を歩いた。石巻山系や剣山、三浦は雪が多そうなので遠慮した。今回の山行はレンタカーでどこまで林道を走れるかが鍵(キー)となった。

又石上山へは林道「足内線」で石工橋までしか入れず、8月の林道歩きを推奨された。登山口から登山、吹き溜まりでは積雪までのラッセルとなる。南国土佐とはいってもやはり冬山であらう。ユルヤルから一投足で三脚

<p>四脚取りなす巻原のハイイク 上陣・巻原へ 冬はスキー けやき道と巻原の宿・日蓮連 湯原館 けやき山荘</p> <p>〒390-1500 長野県上野原町巻原 02663-93125555</p>	<p>さわやか山吹の湯 霧大風呂(標高) 湯田中温泉(標高)</p> <p>日野屋旅館</p> <p>〒391-0400 長野県下 高千穂市内野湯田中温泉 02669-3313578</p>	<p>標高2000m以上ある温泉 湯の丸温泉(自然温泉) ハイキングにXCSキー</p> <p>高 峰 温 泉</p> <p>〒364-0000 長野県小諸市湯原 02663-2512600</p>	<p>ハイキングにノスキーにノ パス 熊の湯ロッジ 長野県平床下 〒398-0242 02669-12421 東京本社・東京新宿区新宿3 120-15(新宿2ビル) 湯スノーリゾート 03-5664-0211</p>
--	---	---	--

<p>標高 千両峠 百八十七峰(観音原) ホテル</p> <p>白馬ブランドンシェ</p> <p>〒369-0000 長野県北安曇郡白馬町いわたけ 02661-7214452</p>	<p>八ヶ岳北麓道の中心地 19年連続日本温泉大賞 木の香の湯温泉(温泉大賞)</p> <p>オーレン小 屋</p> <p>1泊2食 6000円 4月木・土月木温泉 〒399-0213 長野県北安曇郡小豆沢 02664-721279</p>	<p>北八ヶ岳の絶頂地 冬はスキー 1泊2食 北八ヶ岳登山口ま で送迎あり</p> <p>温泉旅館</p> <p>ホテル カナール</p> <p>〒391-0301 長野県北八ヶ岳町温泉 55 133-1 02669-6722558</p>	<p>日本唯一の女人禁制の山「大 峰山」(百名山)の登山口 湯原・名水の里 温泉 和の国屋 基八</p> <p>1泊2食 7,000円から 余飯野温泉(湯原) 湯川 〒397-0103 027476-440308</p>
---	--	---	--

点のある静寂な山頂へ。
前日の中津川山では先客のトレースに助けられたが、以後は妻と二人だけの雪山山行となる。

1等山頂は二本杭、不入山、工石山。ついでに三ツ山、安雲の五位ヶ森、そして鎌山と、自然の姿を留めている山々にも出会え、思う存分楽しむことができた。(栗津浩二)

2月22日(月)、JKT津田駅から国見山・交野山と歩き、まよりの日徳の寺山(新薬山・2等三角点3454)に登った。一人で昼食をとっていると一人の婦人が登ってこられた。
お互に「こんにちは」とおきまりのあいさつを交わし黙々と昼食を食べる。
ややあって「どちらからですか」と私が尋ねると「京都からです」との答え。
「京都は山の好きな人が多いですね。山の会もたくさんあるし……どこかの会にお入りですか?」「京都山の会に入っています」「あ、西尾さんという方が会長の山の会ですね」「そうです。私が西尾です」

との返事で私は思わず柔縮してしまった。こんな所で山の大先輩に出会うなんて、何とラッキーな。1時間程新ハイイのことなど山の話をしてお別れした。
当日は、土曜日の雪山登山の後でもあり少々疲れていたため、近郊の低山散歩であったが、大先輩もこのような所を歩かれていますということに、私は何かしら満たされた気持ちで自宅のある生駒まで気分よく頑張って歩いた。
氏の首にさら下げられていた呼吸を見て、低山といえども侮ってはいられないという無言の教えを受けた感があった。(滝井賢治)

二月山野行
4日 伏見公民館「大和の峠を歩く」林伏峠、二月堂案内、参加40人。松明の道3回。先歩者は28名。
7日 「やまと地形図の会」II △国見山(高見山)案内、37名
10日 伏見公民館「霧水ツア」II △和佐又山(弥山)案内、参加40名、参加27名。
11日 「点のつとめ」例会。I

△三植山(菅野)案内、44名
12日 「生駒さくら会」柳生街道(湯坂の道・内成寺)、参加10名
15日 「大和漫歩会」例会 II △藤原山(御所)案内、26名
18日 伏見公民館「大和の水辺を歩く」室生ダム案内、参加44名
20日 表とII △雲王山(桜井)「初瀬」く柳木・黒塚古墳、25日 「峠一番」広橋峰案内、参加35名。梅は一分咲。(上田伸弘)

福井正彦君「南伊勢の山30山」に、七保峠から浅間山へ登るコースが記されている。しかし、5万分1地形図の丹生(昭和62年修正)を見ると、東側から頂上近くまで林道がのびているので行ってみた。
四道程石段を南下して、下樋の先の信号(七保分岐)で左へ入る。藤(七保峠分岐)、永会を経て大屋三郎の右側に二軒の民家があった。尋ねると、すぐ先の林道(舗装してある)を右折して行く(頂上まで行けるとのこと)であった。
右折して行くと製材所の先にも右に入る地蔵の林道を見たが、

直進する。やがて一軒の庵屋が見え、そこをカーブすると舗装はこももで、分岐を右の道へ行くが荒れてきた。製材所まで戻り、再度尋ねると今行った道でよかった。
しばらく荒れた先ほどの道を登ると次の分岐があり、左へ行く。そして次の分岐(地図ではこもも)を右折して少し行くと、マイクローエーンのあるゲートに着いた。左上に浅間山(2等三角点・733・54)があり、標示板もあった。(入谷浩右)

山行計画 (5・6月)

このページの山行計画には、「全員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも必ず参加できます。一人ずつ往復八方半に記入し、先にお申し込み先へお送りください。電話・FAXでの申し込みは断ります。「費用」のほかに参加者それぞれが他の資料や実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ずご連絡してください。体調の悪い方、幼児を飛び入りはお断りします。別会の参加者を含むに主催保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額100円(夜行日知りの場合は150円)を支払っていただきます。

主催者負担の保険料は次の通りです。(安田火災海上保険会社と契約)

死亡・後遺障害保険金	1,000万円
入院保険金	50,000円
通院保険金	20,000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・木爪以上のマイゼン・サイクル・ハンマー・フカンを持参することを明記した山行 ②スキー・使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④急病・滑走中の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 千

氏名

会員番号 (会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

湖北・金鷲岳 (中級向き)

期日 5月1日出 日知り
集合 JR名古屋駅中央改札口
6時40分/JR長良駅8時40分
コース 長良駅(タクシー)二保キャンプ場→追分→朝モリ頭→達伏→頭→小朝ノ頭→金鷲岳(往復コース)→近江高山バス停(バス)→長良駅(解散)時刻分
費用 約4,800円(名古屋から)
地図 5万1横山・長良川
①小出良春
申込み 〒448-0002 刈谷市一里山町一里山59の3 小出良春まで
コースガイドに「比良・鈴鹿の山並み歩き経路の大パノラマ」とある。申し込みハガキに集合駅を明記してください。雨天中止

三重・津賀(一般向き)
期日 5月3日 日知り
集合 近鉄女子園駅北口7時10分/近鉄駅8時50分
コース 松阪駅(バス)→新尾神社前→登山口→尾根上分岐

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みをください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなく記入してください。申し込みの返信案内は欄目が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、當日頃山歩きに頼んでおられることを前提としています。

(初級者同) やさしいコース
(初級者同) だたでも受けます
(一般同) ハンキングの履きコース
(中級同) かなり経験者のコース
(やや難関同) (難関同) は、危険な所が多く、キツイ登りや、下りが多いコースと、ご理解ください。

九州の最盛産・日本百名山宮之浦岳に一番近い宿
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県志布志市久町安房
0997416-33021

鎌倉新薬山に
山好ま件間の集う宿
朝明茶屋
山小屋 朝明茶屋
〒510-1251
三重県志摩郡菟野町
059931933-1789

お知らせ

○「山行計画」は会号(5・6月)も定員指定(会員に限る)のコースが多くあります。交通機関・宿泊所の都合や山の状況に応じてやむを得ず変更させていただきますのでご了承ください。

定員制の申し込まれるコースは、定員を超過した場合、返信ハガキで即座断りの連絡をしております。断りの返信がない方は、定員内での参加を受け付けています。実際参加がはつきりしてから山行案内を返信します(約10日前)ので、それまでお待ちください。

○「山行計画」へご参加される際は、必ず「申込書」先の住所・宛名を正確のうえ、往復ハガキで申し込んでください。また山行当日、無断欠席の人がありますが、必ずキャンセルの連絡をするようにしましょう。

感徳市寺田大群10の10
新ハイキング4回まで
三角形の美しい笠面を全米前後からひたすら登ります。カキ岳からは登山リフトへの運送もできたりします。雨天中止

カタクリとイワカガミの花
御池岳の池と自然探検山行
期日 5月9日(日) 日帰り
集合 J's 関ヶ原駅8時30分
三軒線遊歩道駅8時00分
コース 各登山口(谷ノコグルミ谷登山口・カタクリ峠・隠れた谷・池の平の池めぐり・谷北谷 鞍掛峠・コグルミ谷(解散))
費用 交通費各百
地図 2万5千円標尺
申込先 ①山田研男 ○高原秀彦
〒503-0053
岐阜県津市南津町松山624の19 山田研男まで
*定員15名(大阪・京都方面からの電車の方を優先。関ヶ原駅より車を手配します)

週末ハイキング14
比良・笠置岳(中級向き)
期日 5月8日(日) 日帰り
集合 J's 西蒲原比良駅8時50分
コース 比良駅(バス)・イン谷口・ノタン・キリ・笠置岳・金栗峠・八雲ヶ原・カラサリ・さんろくリフト前(バス)・比良駅(解散)
費用 約3000円(大阪から)
地図 昭文社「比良山系」
申込先 ①野野原隆 ○加藤元彦
〒610-0121

三軒の山46
鈴鹿・仙ヶ岳(一般向き)
期日 5月8日(日) 日帰り
集合 三軒線交通バス石水線交差点の終点「石水渡口」8時30分
コース 石水渡口(車)・林道車止・笠置峠小原峠・白谷・御所分岐・仙ヶ岳(東峰)・仙ヶ岳(西峰)・御所谷・白谷・御所谷分岐・宮林野小屋峠・林道車止(解散16時頃)
費用 1500円(交通費各百)

一帯中・反射板・滝戸・初見神社(バス)・松取駅(解散16時頃)
費用 約4300円(名古屋から)
地図 2万5千円標尺
申込先 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山59の3 小山原春まで
コースガイドに「近山ながら眺望抜群のコースをのんびりハイキングとある。申し込みハガキに集合駅を明記してください。」
雨天中止

鈴鹿を歩く朝
カクレグワと入道ヶ原
(初級向き)
期日 5月9日(日) 日帰り
集合 412号線日公小谷林道入口広場8時30分
コース 日公小谷林道広場・送電線遊歩道・水条件・中ノカクレグワ・八雲ヶ原・佐口・小谷林道広場(解散)
費用 交通費各百
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ原」
申込先 ①岩野 明 ○山本久雄
〒610-0121

くり味わう山行の三回目。春の花が満開のコグルミ谷と池の平の池をめぐり、数回足根をくぐります。歩く速度は不規則になります。
*申し込みハガキに集合駅を明記してください。マイカーでの参加の方はその旨お知らせください。
小雨決行

費用 約3500円(大垣駅か)
*往復バス代・保険代各2万5千円(美濃・関ヶ原)
①菅見守康
申込先 〒504-0828
各務原市蘇原町雨町1の10の5 菅見守康まで
*定員17名(会員に限る)
伊吹山遊歩道自然観察ハイキングの第5回目。5月の北岳は春爛漫の花盛り季節です。自然の観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方を覚悟にならない方ご参加ください。小雨決行

京都北山歩き
貴見谷からの眺め(一般向き)
期日 5月9日(日) 日帰り
集合 J's 京都市東区山崎のりまホーム駅時刻分
コース 山崎駅(車止)・八木駅(バス)・越前・芦見峠・貴見谷・浅草川合・滝ヶ原・浅草川合・大杉谷・梨ヶ木谷林道・沼津バス停(解散)
費用 約2500円(大阪から)
申込先 ①昭文社 ○安谷正勝
〒610-0121
感徳市寺田大群10の10 村田俊博まで

本會・南大倉新(一般向き)
期日 5月16日(日) 日帰り
集合 J's 名古屋駅中央改札口8時15分
コース 名古屋駅(車中)・南大倉駅(タクシー)・アララギ山荘・カブト岩・南大倉山・巨大木の森コース(雨入解散)車中(名古屋駅)(解散16時30分)
費用 約3000円(香取フリーパス含む)名古屋から
地図 2万5千円南大倉岳
申込先 ①小山原春

伊吹北麓白然観察ハイキング
美濃・伊吹北麓(一般向き)
期日 5月16日(日) 日帰り
集合 J's 大垣駅時刻分
コース 大垣駅(バス)・見付峠・大垣駅・大谷山・御所峠・熊野ヶ原・池田又一を交る大谷山(バス)・大垣駅

渓谷の樹林を歩き、シタナダのほとり池をめぐって麓へ降り行きます。下山は登山社から大杉谷をくぐります。小雨決行

京都北山歩き
足尾谷からの眺望(一般向き)
期日 5月16日(日) 日帰り
集合 京阪前町駅京都市バススタ・ミナト8時30分
コース 出町駅(バス)・坂下・足尾谷・見付峠・伊賀谷・山崎林道・山崎川学校前(バス)・出町駅(解散16時30分)
費用 約2500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
申込先 ①中国旅行社
〒610-0121
感徳市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
新緑の足尾谷から眺める伊賀谷山へ登ります。多少北山らしいやまごきがありますが、元気に歩きましょう。小雨決行

京都北山歩道(8)
 沢池から徳山(一般向き)
 期日 5月18日(日) 日帰り
 集合 京都市駅前JRバス東山山行きのりば6時15分
 コース 京阪駅(バス)→朽木橋→福ヶ谷→沢池→吉永山→徳山→徳ヶ峰→徳ヶ峰バス停(解散)30分
 費用 約1000円(バス代)
 係 ①高木光男
 〒613-0031 徳福寺大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。徳福寺を歩いて徳山からくだります。雨天中止

平日木塚ハイク56
 比良・柳生道から武家ヶ岳
 期日 5月20日(日) 日帰り
 集合 JR長岡京線堅田駅8時40分(4分免のバスに乗り込みます)
 コース 堅田駅(バス)→朽木橋生一橋(歩道)→コノカイ展望台→イワツク峠→ツルノベ岳→武家ヶ岳→イブノボのコーバ→八雲ヒュッテ→下
 係 ①山本久雄
 〒610-0121 京都市東区大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。雨天中止

ママイカー山行
 緑のなかに身体を集める。ブナファミリーにはいに行きます。お昼は長めにとりますので、それなりの準備をして参加ください。
 雨天中止

マイカー山行
 平日ふれあいハイク14
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 比良・給北岳(一般向き)
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 JR長岡京線堅田駅8時40分(4分免のバスに乗り込みます)
 コース 堅田駅(バス)→朽木橋生一橋(歩道)→コノカイ展望台→イワツク峠→ツルノベ岳→武家ヶ岳→イブノボのコーバ→八雲ヒュッテ→下
 係 ①山本久雄
 〒610-0121 京都市東区大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。雨天中止

マイカー山行
 平日ふれあいハイク14
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 比良・給北岳(一般向き)
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 JR長岡京線堅田駅8時40分(4分免のバスに乗り込みます)
 コース 堅田駅(バス)→朽木橋生一橋(歩道)→コノカイ展望台→イワツク峠→ツルノベ岳→武家ヶ岳→イブノボのコーバ→八雲ヒュッテ→下
 係 ①山本久雄
 〒610-0121 京都市東区大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。雨天中止

京都北山歩道(8)
 沢池から徳山(一般向き)
 期日 5月18日(日) 日帰り
 集合 京都市駅前JRバス東山山行きのりば6時15分
 コース 京阪駅(バス)→朽木橋→福ヶ谷→沢池→吉永山→徳山→徳ヶ峰→徳ヶ峰バス停(解散)30分
 費用 約1000円(バス代)
 係 ①高木光男
 〒613-0031 徳福寺大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。徳福寺を歩いて徳山からくだります。雨天中止

平日木塚ハイク56
 比良・柳生道から武家ヶ岳
 期日 5月20日(日) 日帰り
 集合 JR長岡京線堅田駅8時40分(4分免のバスに乗り込みます)
 コース 堅田駅(バス)→朽木橋生一橋(歩道)→コノカイ展望台→イワツク峠→ツルノベ岳→武家ヶ岳→イブノボのコーバ→八雲ヒュッテ→下
 係 ①山本久雄
 〒610-0121 京都市東区大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。雨天中止

マイカー山行
 緑のなかに身体を集める。ブナファミリーにはいに行きます。お昼は長めにとりますので、それなりの準備をして参加ください。
 雨天中止

マイカー山行
 平日ふれあいハイク14
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 比良・給北岳(一般向き)
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 JR長岡京線堅田駅8時40分(4分免のバスに乗り込みます)
 コース 堅田駅(バス)→朽木橋生一橋(歩道)→コノカイ展望台→イワツク峠→ツルノベ岳→武家ヶ岳→イブノボのコーバ→八雲ヒュッテ→下
 係 ①山本久雄
 〒610-0121 京都市東区大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。雨天中止

マイカー山行
 平日ふれあいハイク14
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 比良・給北岳(一般向き)
 期日 5月25日(日) 日帰り
 集合 JR長岡京線堅田駅8時40分(4分免のバスに乗り込みます)
 コース 堅田駅(バス)→朽木橋生一橋(歩道)→コノカイ展望台→イワツク峠→ツルノベ岳→武家ヶ岳→イブノボのコーバ→八雲ヒュッテ→下
 係 ①山本久雄
 〒610-0121 京都市東区大群10の10
 新緑の沢池をのんびり歩きます。雨天中止

口へ進出し、紅葉尾へくだります。
雨天中止

真山へ向けてのトレッキング
狩勝・武平峠から八坂峠まで
(御膳向き)

期日 6月8日(火) 日帰り
集合 大河原・かもか井駐車場
場所 時00分
コース かもか井(雷)→元徳谷
(湯釜池)→武平峠→水壺
谷→鏡ヶ谷→鏡尾根→水
壺峠→小笠原峠→高尾山
→元徳谷(湯釜池)→武平
峠(雷)→かもか井(雷)
(時間不明)

費用 交通費各回
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
原」
申込み ①前井克浩 ○木村吉秀
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

険しい鏡尾根のロングコース、
やさしくはありません。チャンレ
ンしてみてください。天候の都合でコー
ス変更する場合があります。
雨天中止

新ハイクンク関西まで
*マイカー山行

でしようか? *申し込みハガキ
に集合時刻を明記してください。マ
イカーでの参加の方はその旨お知
らせてください。小雨決行

近畿百名山を巡る(第3回)
会津・明神峠から駒ヶ
原まで
(中継向き)

期日 6月13日(日) 日帰り
集合 近鉄奈良駅前8時00分
コース 桜原駅(バス)→大又→大
又林道→明神峠→新山
→新平→石手平→大鏡池→
大又(バス)→嵯峨駅(解
散16時頃)

費用 約5000円(大人数が必
ず)
地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ①科田智俊 ○前定宗夫
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

新緑のなか、明神峠から駒ヶ原の
心地よい風景を楽しみます。*マ
イカーでの参加希望の方はその旨お
知らせください。小雨決行

京都北山歩き
高尾山の真山(一般向き)
期日 6月15日(火) 日帰り
集合 高尾山山頂解散の時の分

平口水窪ハイク21
*分岐・半蔵山(初級向き)
期日 6月15日(火) 日帰り
集合 JR東国分駅バスのりば9
時15分発に乗車
コース 鳥飼駅(バス)→赤熊→吉
羽→谷→新山→主山山
宮川身太坂→本栖屋座
(解散)→バスは鳥飼駅行
と林道(口)行きが異なります
費用 約5000円(高尾山を必
ず)→山内(高尾山)を必
ず
地図 昭文社「北嶺の山々」
係 ①前定宗夫 ○清水二雄
〒569-1133
高尾山市川西町1-18の20
湯浅次男まで

登りやすい山です。お天気が良
ければ丹波地方(三回)の半分ずつが
見えるそうです。それで半日山?
雨天決行

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

伊吹北麓自然観察ハイク6
美濃・伊吹北麓道(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 J-バス大垣駅5時40分
コース 大垣駅(バス)→国見峠→
国見峠→大光山→御座峠
→熊鷹ヶ峯→笠又→ささ
れ石公園(バス)→大垣駅
費用 約5000円(大垣駅か
ら)

白滝山の油や油めぐりをして
其の神話を少しも長歩の
コースです。雨天中止

モリアオガエルの卵を採る。
旗連池と津と自然観察山行④
(やや初級向き)

期日 6月13日(日) 日帰り
集合 JR関・根崎9時20分
三條線西原駅8時00
分

コース 各集合駅(池)→コケルミ
谷→山口→カククリ池→
丸山→ポタンブチ→旗連
池→コケルミ谷(解散)
費用 交通費各回
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
原」
申込み ①山田明夫 ○高尾宗彦
〒530-0120
岐阜市南河内町御所山
の10 山田明夫まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR長門線三軒駅8時
40分

コース 聖田駅(バス)→坊村→伊
藤新道→白滝山→夫船池
→木戸峠→クロトノハゲ
→天狗杉→志高駅(解散)
費用 約4500円(大垣から)
①新野宗彦 ○川藤元彦
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

手書きのメモやサイン

岐阜県(解散行時頃)
費用 約17000円(岐阜県
から貸切バス・宿泊・保
険・資料代等)
地図 2万5千・石巻日・大蔵・
二ノ峰・新道・徳水・淵
留
保 ③飯見寺
申込み 4004100220
各務原市森原村山町1の
19の1 飯見寺まで
* 定員20名(希望順)
* 5月22日まで

(分日)旅行村(共)広
域林道ホケノケ
保月山・約千石・切巻
一經ヶ原・七草等(他ノ大沢
一仙ヶ原・三枝林道(生)
六巨節高野原(生)ピクニ
ンター(公浴・解散
16時頃)
費用 約20000円(キャンプ
代・入浴代等)、現地ま
での交通費は各自で
2万5千・開教寺・椋前
地図 2万5千・開教寺・椋前
山
申込み ②栢田博美
400101211
椋前寺田大陣の10
4町目まで
* 5月10日まで

キャンプ山行
期間 6月26日(出立)27日回
1泊2日(ラノト山)
集合 25日、麻部運動少年旅
行行に17時00分まで(大
野市から15分)早朝を温
見方面へ出で約30分
コース ②6日 早稲田旅行カ
ンパ(池)

26日は岩目好みの山へ登り、集
合後キャンプを営み、27日に椋
ヶ原へ登ります。ランチのしない人
はパンがローンを予約します。その
の旨い入らしてください。当初集合で
目取り希望の方はピケットパーク
に8時までに集合ください。締
切は返信案内で、雨天決行。

○加藤元彦 ○小山原春(計18名)
美濃・石津温泉から多度山
(自然観察山行30)
1月9日出立
大田駅集合8・40(59名)(電車)
近鉄各駅車・50石津御岳登山
口・30・石津御岳登山口・30御
岳13・30・林道集合15・10・多度大
社15・10・30(バス)近鉄多度駅
16・35(51名)(電車)大田駅18・
06(解散)

1月10日回 曇り
熊野バス隊集合8・30(40)文三
ハゲ8・50(バ)豊後橋10・10(第
一山)50(バス)ゴパンの森11・
25(定員22)26水鏡山開帳11・
10(第一山)13(30)解散
下を急上げる水鏡山の千五
敷が、その上は文三ハゲには當
が無く、その上は霧水の水鏡山は
くついていて、風切から立腹にな
ると、山頂に着くと大回廊が開いた。
樹氷が融く雪干原積雪でのんびり
散策。雪原を歩き通すには、その
マナの森でたき火を明かして、雪や
かなを煮、水鏡山頂からの大ハ
ノラマを楽しんで下山した。

【参加者】岩越孝子 近江秀十
金巻節子 岩越西雄 佐吉田文字
丸澤保 山田和子 原文字
高木四一 森 晴夫 森川恒之
若谷由子 ○連絡先
近江秀十 電話(1518)
岩越西雄 (1518)

1月10日回 晴れ
Jの山(柏原)集合10・00(6)熊野
神社10・50(其の昔)11・20(熊野
山)13・50(別所)15・10(大野)
乗車・熊野神社から熊野山

1月10日回 曇り時々晴れ
Jの山(柏原)集合10・00(6)熊野
神社10・50(其の昔)11・20(熊野
山)13・50(別所)15・10(大野)
乗車・熊野神社から熊野山

1月10日回 晴れ
Jの山(柏原)集合10・00(6)熊野
神社10・50(其の昔)11・20(熊野
山)13・50(別所)15・10(大野)
乗車・熊野神社から熊野山

馬の背から熊野山分岐の方向を
間違えて失礼しました。登山で
おぼけが、幾つものピークを越
える山歩きを満喫しました。

【参加者】三輪裕子 河野静子
小川孝子 若原孝子 小田野子
吉原孝次 岩越西雄 岩越孝子
宮本長幸 高木節子 松下孝子
野口修 前田 前田孝子
宮下孝一 今村 眞 横川孝雄
高田孝一 秋田博 岩越西雄
加藤元彦 藤田 藤田孝子
茂田孝夫 藤田 藤田孝子
飯田孝子 藤田 八木八重子
新築三枝 三宅 明 柴田孝子
美村三枝 山本徳臣 山本孝子
藤村 力 上田孝子 中上紀代子
藤 公子 佐田次男 高野孝次郎
齋藤 隆 岩越西雄 藤田孝子
中野孝子 藤田 藤田孝子
高谷孝子 藤 文子 市来孝子
山崎孝子 山田明子 村田はる江
山崎孝子 川上孝子 (計36名)
○井上 保 (150名)

【参加者】若原孝子 白田育土
藤田孝夫 前田孝一 一人見北
辻米 岸 高田 国松孝雄
杉本 高 藤井孝子 村田はる江
藤 現代 川口孝子 藤原孝子
藤原孝子 出尾博子 西田美津子
鈴木 藤 新井和子 中上紀代子
○川上 保 ○小山原春(計36名)
三重・白旗山

バスを降りた時は一月(日)思え
ない傾度であったが、白旗山頂
は霧雨が降っていたが、熊野山頂
は霧雨と曇りが見えた。石野大
橋現在一年の安全を祈願した。

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

西教寺から横川(大崎ハイウェイ)
1月10日回 晴れ
比叡山本集集合8・35(48名)
(バス)西教寺3・00(5)安楽
浄院8・40(5)飯袋坂約10・
30(5)川中集11・05(15)玉
塚12・05(5)12・05(1)根本
中野13・50(1)10(1)葉山山崎
之坊14・40(1)坂本温泉駅付走
15・05(解散)

山行報告 (1・2月)

毎イキョウブク



大村 今西光男 青木孝次郎
大島邦雄 安西陽子 松本いつ子
中村英雄 堀 現代 赤尾真砂子
青山信子 海浅康夫 木下昭子
松村謙子 高木 三 宮原敏彦
藤井孝子 城川清子 平 孝子
松岡裕子 前川貞雄 山本千鶴子
古川裕子 川崎敏子 ○川上久登
◎閉中 級

四月 種族富士(箱野山)
一月五日 小雨のち晴れ
JR箱山駅集合10・30・34発(電
車) 坂出駅11・14・30(タクシー)
野外活動センター11・40・50一版
野山12・40(登山) 13・30一王子
神社駐馬場14・30(タクシー) 坂
出駅14・40(解散)
小雨のなかを讃岐富士へ登った。
段場も雨で山頂広場は寒かったが
盛型や三角点探して楽しんだ。下
山時には雨れてきて瀬戸内海を見
えた。
(参加者) 寺田久広 川上善代子
小田朋子 岩城恵子 中村修吉
保田 正 辰代美夫 相原悠子
榎本宏雄 芝野素明 長尾裕美
小林 稔 秋田樹博 森岡孝子
京井 正 白鳥恵子 村田はる江
林 陽子 今西光男 田中まゆ子

岡田善美 磯野輝夫 中道加代子
山口根江 廣澤洋子 井林美奈子
遠水 保江 富子 上川由美子
日高史緒 堀 久子 岸 明子
長岡信夫 武部 剛 倉部美奈子
深坂 寛 深坂信子 久世美砂子
藤田孝子 渡辺俊男 小野しげ子
月本美穂 明心 裕 中井ひろみ
宗及初恵 中西行行 野山山陽
上田正子 柳 礼子 濱口須美子
今村 真 金田照宏 水谷美也子
大野 晃 石田登美 金田下恵子
井村下恵子 ○箱田ケイ子
◎箱田哲俊 (計59名)

約流・滝ヶ岳
(三ツ子と遊ぶ)
一月五日 小雨
宇治溪駐車場集合8・00・10一
中央駅11・30(電車) 12・30一
042(タクシー) 尾島13・30・40一
遊記原96(タクシー) (散道) 14・
50一1042(タクシー) 中央溪駐車場
15・30・40一宇治溪駐車場17・00
(解散)
みぞれの曇天で、湿気の多い空
を踏みしめて中央溪に汗を流す。
山頂は眺望ゼロ。くだりの楽しみ
のシラセードもダメ。道尾尾根
の優美大断の雲霞にキープアップ。

天候の悪化と時間に追われながら
も三ツ子と遊んでみました。
(参加者) 飯田 昇 山形 明
鈴木 昭 吉本泰之 永戸鉄治
山田明男 今岡辰代 小由松子
沢村行行 武川子規 武輪由美子
高杉 博 伊藤孝久男
山田昌孝子 ○木村吉秀
◎箱田哲治 (計16名)

持幡峠から半回高山
一月七日 曇りのち晴れ
出町駅集合9・00・10(バス)
白根峠9・45・10一陸奥峠10・
30・40一宮古寺11・00一岩谷
峠12・00一半回高山12・30(電車)
13・15一供養飯峠14・15一20一杉
坂口15・00・15(バス) 宮古駅16・
06(解散)
前日降った雪で山はうっすらと
雪化粧していたが、マイゼンは寒
らなかつた。
(参加者) 田中 茂 野間勉大
木村光江 近藤 恭 小田朋子
保田 正 柳川善雄 竹田豊昭
松本康成 三井敏二 坂野俊男
岡松義雄 塩原善雄 芝野素明
佐賀兼一 市野博文 村田はる江
岩田昌士 若松 寛 中村修吉

倉橋二 宮坂敏彦 川上善代子
北野 正 高野 剛 武部美奈子
細野武隆 高橋敏彦 熊田千夜子
斎藤 隆 重富妙子 近江孝子
森原昌隆 松田好市 森岡孝子
城川清子 石田三 鈴木敏彦
河合正彦 水永幸雄 加藤正彦
木村時雄 小島昭光 藤原きよる
平 孝子 小原美吉 蓮井洋十
中田昭子 藤原健治 橋本桂子
山岸修輔 和田正樹 橋本桂子
林 弘敏 古田西一 青木 雄
田中勲子 今西光男 ○寺田久広
○川上久登 ◎中西行行(計59名)

金山山
(平日ふれるいハイク12)
一月五日 曇りのち雨
河内長野駅前集合8・00・10発
(バス) 金山山10・00・55一千里
城跡10・10・15のろし台10・45
・50一陶見坂11・40(登山) 12・
20一高城神社12・40一勝出原
13・55一赤瀬川15・15・25一久
留野13・55一中山城山14・05・
20一久留野峠14・50一ロープウェ
ー4前バス14・55(解散)
紅葉登山の小学生・高校生の大
集団に入り混じって登った。頂上
付近は凍った道面が水で滑ってい

た。雨風感寒の下の窪地で風のう
なりを聞きながら昼食。眺望はよ
かったが畑水は思われなかった。
午後、雨も降りになったので予
定を変更して久留野峠に引き返し
下山した。
(参加者) 森 現代 山崎加孝子
大島光雄 藤澤浩夫 成川みさお
回原敏雄 藤浅康夫 木村千代子
木下朋子 江 富子 真原白百合
眞田久子 山本美奈子 中尾美穂子
飯田 善 藤原孝子 久世美砂子
石原利子 山田孝夫 庄田美穂子
血原孝男 血原孝子 辻 新一郎
若木修一 吉田誠宏 吉田ソノ子
小原美吉 三浦 勝 三浦真生子
水谷美也子 ○寺田恒夫
◎川上久登 (計32名)

登に大雨をかくし、そこからは見通
しのよい尾根歩きで気分はルンル
ンで最後、山頂から松阪市街、白
猪山・同ヶ岳・大洞山などの町景
を望みしんだ。風の強い空をむか
える暖かい天気に濡された思い出に
涙を山行で流した。
(参加者) 吉岡明男 原 文字
今岡辰代 吉岡孝次 小林正幸
藤田敏子 小畑孝明 石田由美夫
森 現代 三浦 敏 小沢伊豆子
山崎美英 坂本佐夫 小田伊豆子
藤原明男 菅田明子 田中かお子
石田敏幸 木村好和 藤原みづゑ
和田四郎 桑村孝治 中道加代子
伊藤敏二 ○新町正夫
◎原田進五 (計28名)

り歩き、養老山では雪に埋もれた
一帯三角点を眺め、地乳樹のフー
ンドサインはほとんど見ることが
できませんでした。シカの糞と
その足跡を見ました。
(参加者) 石原孝子 沢谷ひろ子
西田真雄 小林 敏 藤田敏子
藤原 敏 田中勲子 藤田敏子
夏山孝子 深坂信子 三井敏二
高橋敏彦 桑川信之 森岡孝子
安田真樹 白田敏代 ◎箱田哲治
(計11名)

口15・20・40一西條原17・00
(解散)
待望の寒波到来。テントは五枚
弾丸に激し、中央の広場で好天
気を祝いはじめの好景。雪の花咲く
カンジキのよけ、雪原を自在な
コースで天谷川へ散策。1日は冷
え込みもゆるみ、雪を歩く。テ
ーブルランドへ行くころは大元。ま
るで天國のような御地帯で遊んだ
後は急下降。雪上車と人力の限界
に挑み、コレレシになった山麓ひ
びいた。
(参加者) 飯田 昇 吉本泰之
山形 明 ○木村吉秀
◎箱田哲治 (計10名)

松原・種族山(三ツ子の山)43
一月三日 晴れ
松原駅集合8・00・10発(バス)
橋本口9・30一森林公園10・10一
野宮分館黄色テープ10・30一お休
ピーク11・06一種族山12・10(登山)
色 13・00一種族山13・25一観音
寺14・06一針尾の表小滝14・45一
森林公園15・20(解散)
森林公園の林道から急な種族山に
スに二人ともあきらめたが、針尾の

自然観察山行資料
一月三日 雨のち曇り
大塚駅前集合8・40(電車) 近鉄森
原駅9・30・40一森林公園10・15
一三方山11・30一お休山12・
03(登山) 13・00一表小滝13・15
・30一お休山13・45・14・00一池
野原15・25(解散)
雨のなかの山行でした。大雨に
一部はスリッパを雨の対策をく
すした人もありましたが、針尾の

鈴鹿・養老山からの御地帯
(富士と遊ぶ)
一月30日(中) 31日(初) 1発の日
(30日 晴れ) 西條原駅前集合8・
00(バス) 14・40一針尾の表小滝15・
00(登山) 16・40一針尾の表小滝16・
00(解散)
一月三日 晴れ ランドマーク・御一
白根口8・30(バス) 別荘分館
野宮分館9・30一東の平チアム
ランド分館10・20(登山) 11・
40一針尾の表小滝12・00一針尾
の池小滝12・30・40一森林公園
13・15・30一白根峠14・00一50
一坂本谷乗越15・00一坂本谷分館

一月五日 晴れ
出町駅前集合8・00(バス) 花折
峠口9・40一花折峠10・10・25一
762(登山) 11・15一6ヶ所峠12・
00(登山) 13・06一タニ峠分館
13・10一尾崎峠の展望台14・00・
15一二重目の展望台14・40・50一
三谷口15・30・40(バス) 出町驛
16・10(解散)
快晴に恵まれ、種田村程度の
展望の展望道を通った。see 15

たので、一層崖壁上に汗流して林道に降り立った。林道歩きが長く脚がつかれた山だ。

- (参加者) 木村 豊 向田 豊
野間謙二 中村龍夫 高野野穂子
近藤 恭 高野信男 尾崎康男
上野信廣 加藤文彦 前田政雄
西村真行 山岸隆雄 井林友彦子
三宅 明 岡 彰 芝野泰明
前井克治 野間佑太 辻 行子
白根ゆ子 四谷義雄 波多野恵子
今西昇男 西野幸夫 西野加代子
林 陽子 前田幸子 野々山明美
松山潤津 松山あつ 原 幸子
松交防男 森島 尚 森島紀美代
松田野市 妹尾一正 若木修一
血原清男 血原誠子 寺本幸男
佐藤泰彦 吉田誠宏 吉田ソノ子
堀 良男 川上久隆 辻 謙一郎
井澤正昭 熊木秀雄 福田新一郎
瀧尾信浩 宮城裕子 四ノ宮陽子
鶴見和子 藤井洋子 今江隆子
大本久子 多野久子 村井 武
高木 晋 並木尚子 倉元マツエ
浦上 明 木村太郎 入江武夫
新佐裕子 波谷節枝 森田和子
若木一雄 福井清之 中ノ紀代子
藤川 寿子 和田高樹 竹内英久子
岡田登美 岩城豊子 中島加代子
東 美穂子 黒河内昭洋明

新ハイキングクラブ 入会のご案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(毎月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。

この雑誌は旅行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報から健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをもとに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に45年間を野山のつちに活動してきました。関西は平成3年発足で8年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。

会費は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を巡って正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。
リーダー(旅)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊費もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」をお送りします。
四季の自然に癒えながら歩き

中西政博 重野彰子 安直正樹
○登山術美 ○新田初俊(計装)

- 三河・高路山の井井止
2月21日(日) 晴れ一時曇
JRK名古屋駅集合8:00~14発
(電車) 名鉄赤坂駅9:10~15
宮田天神社9:30~14 高路山登山口9:52~奥ノ院10:30~40
高路山10:43~50 五井山12:16
(急登) 12:40~13 三ノ角点13:35
高路山手前分岐14:00ドワ
ダンツンジ群生池14:10 腹巻芝
陣14:55 名鉄赤坂駅15:19(解
散)

急なハイキング道をがんばって登った。高路山山頂で雪の歓迎をうけた。五井山まではなだらかな道で、山頂からは三河湾に浮かぶ竹島・大島が即座に見えた。ドワダンツンジが紅葉する秋に再び歩きたいと思った。(記装・登山)
(参加者) 廣東 邦 野村達雄 吉田明子 徳田由子 森 昭代 鈴木 庸 飯田由美子
○朝倉利己 ○小山良春(計装名)

鈴鹿・常仙山 (登山) 遊が4
2月27日(日) 晴れ時々吹雪

若々しい心と健康をいつまでも保持するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさん大歓迎いただけます。

入会金 500円(パツジ代)
年会費 3000円(送料含む)
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第1回からの基本をお忘れずに記入してください。

なお、定期購読を希望される方は会費に合わせたいただきますと、年費納付にお手元に届きますので便利です。
切手500円をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊さしあげます。

山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回「回程」の山行例会を計画・実施していただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー募集」を送ります。

上吉生いばり遊覧車遊覧集合。0:10ー10ー15分 6:40ー7:00 加分岐 郡原線10:20ー30 常仙山11:30(急登) 13:00ー15 遊覧車13:30 郡原線15:40ー16 中道14:10ー15 谷山15:00ー10 11 ほとり地蔵16:20(解散)

ガスで一面の新緑と空の白さが一体となり、有明界歩はできないうちです。山頂に青く輝く雲がにやにや。下山時は強風に追い立てられ、吹雪のなかをさまよいながらぐたした。リーダーの報告で日帰り山行とした。
(参加者) 吉本泰之 永吉敏治 小林 実 ○小田母子
○前井克治 (計装名)

湖東・伊吹山
2月28日(日) 曇り時々雪
JRN近江宮原集合8:15(バス・マイカー) 伊吹山登山口(コンド) ラ・リット 三ノ目9:35 八合目10:15 30(急登) 12:30 12:15(急登) 13:30 伊吹山登山口14:30(解散)
雪崩が多発し、事故もあった今冬の伊吹山。濃いガスのなか雪崩の懸念を避けてアイスパーン状の急斜面の急登を試すま

○新入会員紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。会員番号は00017番から00064番まで
- 【愛知】 鈴木達司 石川修子 佐藤清治 丹下由子 遊辺かこ
 - 【三重】 三浦 勝 伊藤幸博 宇野孝幸 宇野野子 伊藤千秋 羽田孝子
 - 【滋賀】 荒川誠二 荒川孝子 川原孝昭
 - 【京都】 中島真天 梶原孝彦 中田ゆ子 宮原登孝子 津川陽子 前川由子 作藤孝子 武山和子 竹林和子 三原美菜 藤田孝子 藤原孝一 竹田孝子 西村文男 高川敬明
 - 【大阪】 野崎健一 池本浩夫 片山修子 榎木和子 井澤 清 大谷孝敏 信田恵介 猪俣孝彦 中村正志 藤田 登 斎藤清美 田中三三子
 - 【和歌山】 宮内謙吉 佐藤レイ子
 - 【長門】 古岡孝子 中井八千代
 - 【兵庫】 井上千恵子 金山康広 金田千恵子
 - 【岡山】 坂田由起子
 - 【広島】 伴 敏一

したが、滑落の危険があるため八合目付近で撤退。極冬の伊吹山の厳しい表情を見せつけられました。

(参加者) 瓜取利明 落合ひろ子 近江孝子 河原良尚 栗田美奈子 小林 裕 城野祐幸 高野野穂子 高杉 博 田中 明 夏山孝子 中野サムエル 田中鶴子 藤井洋子 三井敏一 南 寛子 宮坂敏彦 藤川信之 森岡良孝 山口登江 山本京子 福茂敏夫 若菜朝子 今西昇代 ○加藤亮彦 ○新野重雄 ○鷲井孝雄 (計装名)



訂正とお願い

- 46号(隔巻) 百ページ二段目8行目「十月山行」は「十二月山行」が正しい。
- 46号(隔巻) 80ページ二段目の各目・16・27行目「福ノ平」は「福ノ平」が正しい。
- 46号(隔巻) 84ページ二段目行目「大見峠」は「大見峠」が正しい。
- 46号(隔巻) 80ページ二段目16行目「リッポン」は「リッポン」が正しい。(編集室)

本誌のバックナンバー 大阪海田のハイビスプラザ3Fの「トラベルキャナル」・旅の本舗「ハイビスプラザ」に全号を準備しています。
皆様お求めになりたい方へ 前もって書店に問い合わせ、「雑誌予約」をお知らせしていただくことでお買い求めいただけます。毎月26日(土)発行の定価です。